

問題解消セルコトハ事實ナルモ一方統税ノ如ク滿洲國ナルカ故ヲ以テ敢テ默認セシメラレタルモノアルコトモ事實ニテ其他滿蒙毛織ニ對スル出產税(在滿大使宛拙電第二二四號)酒類ニ對スル内地消費税(機密第六六四號拙信)等突然ノ課税要求ヲ受ケ問題ヲ生シタルコトアリ此ノ外内國税問題ト直接關係無キモ輸入關稅徵收ノ爲ノ小包郵便課税問題或ハ奧地行貨物ニ對スル護照問題等滿洲國日系財政當局ノ措置ニ對シ在留民側ノ不滿絶ヘサル現狀ナリ

ニ滿洲國ノ財政確立ニ對シ在留邦人カ欣然援助ノ意志アルコトハ申迄モ無シサリ乍ラ實情ニ即セス邦人ノ對滿發展ヲ

阻害スル惧アル無斷ノ徵稅方針ニ對シテハ假令財政收入ノ爲トハ云ヘ之ニ反對スルコト必然ナルヘシ邦人ト滿人トノ不均衡ニ對シ滿人側ニ不平アリトハ日系財政當局ノ言トシテ聞カル以外滿人間ニ果シテ強キ其聲アリヤ研究ノ餘地アルヘク日系當局指導上ノ在滿大使館御苦心ノ點ハ察スルニ余アルモ眞ノ對滿政策ハ日系當局以外一般滿人ノ聲ニ聞クヘキモノナルコト申迄モ無カルヘシ御參考迄

滿、哈爾濱、吉林、營口、安東、齊々哈爾へ轉電セリ

四 塘沽停戰協定善後交渉

254 昭和8年5月24日 在中国中山公使館一等書記官より
内田外務大臣宛(電報)

中国側の対日態度是正に関する黄郛との会談
要領について

北平 発
本省 5月24日後着

第二二七號(極秘)

往電第二二五號ニ關シ

二十三日黃郛トノ會談要領左ノ通(列席者李澤^{澤カ}、藤原武官、原田、永津武官(途中參加))

一、先ツ本官ヨリ北支ノ現下ノ事態カ國民黨及中央軍カ帝國政府並ニ關東軍ノ信用ヲ得サル所ヨリ生シタル所以ヲ説明シ忌憚無ク言ハハ我軍部ノ大部分ハ國民黨及中央軍ハ其ノ根本ニ於テ排日思想ニ立脚シ居ルヲ以テ口ニ誠實ヲ唱フルモ夫ハ單ニ表面ニ過キスシテ何等カ機會サヘアラハ排日ヲ實行セントシ居ルモノナリトノ感想ハ軍部ノ頭ヨリ去ラサ

ル所ナリ故ニ現北支ノ局面ヲ打開スル唯一ノ方法タル停戰ニ付テモ支那側ニ於テ關東軍ノ疑念ヲ一掃スルニ足ル方法ヲ以テ諒解ヲ求ムレハ必スシモ難事ニ非スト思考スト述ヘ此ノ難局ニ處スル決心アリヤト尋ネタル處黃ハ同盟會ニ屬シ居リ過去ニ於テ國民黨ニ對シ孤軍奮闘シ來リタル經歷ヲ語り日支親善ニ依リ歐米人ニ漁夫ノ利ヲ占ムル機會ヲ與ヘサルコトニ努メサルヘカラストスル自身ノ信念ヲ述ヘ右關東軍ノ諒解ヲ得ル方法ニ付教ヲ請ヒ度シト言ヘルニ付本官ハ余ノ考フル所ハ唯一ノ方法ニシテ之ヲ實行シ得ストスレハ余ノ腦裡ニハ他ニ代案無キ旨ヲ懇説シタル上何應欽ヨリ軍使ヲ關東軍第一線ノ指揮官ニ送り停戰ヲ求ムルニ在リ之レ關東軍ヲ納得セシムル唯一ノ方法ナルカ貴下ハ之ヲ實行スル決心アリヤト質シタル處黃ハ自分ハ實行スル決心ヲ爲シタルモ何ニモ相談スル要アルヲ以テ今此ノ場ニテ決定スルヲ得スト述ヘタルニ付本官ハ此ノ決心付カサレハ之以上ノ會談ハ無益ナルカ貴下ノ考ヘニテハ實行セラルル見込アリ

ヤト突込ミタル處十中七迄ハ實行ノ可能性アリト述ヘタル
ニ付此ノ問題ハ一應之ニテ打チ切り

三日本政府及國民ノ誤解ヲ一掃スル爲ニハ從來屢々問題ト
ナリ居ル排日問題ノ解決ナルカ之ニ付テハ排日團隊、黨部
ノ解散、排日教科書ノ廢止等多岐ニ亘ル次第ナルカ本官ノ
獨斷ヲ以テ條項ヲ決定シ得サルヲ以テ政府ノ訓令ヲ待テ改
メテ御相談致度シト述ヘ置キタリ、御訓令ヲ請フ

三本官ヨリ中央軍ノ駐防地ニ付問ヒタル處黃ハ日本トノ交
渉成立ノ上ハ直ニ北支三十數萬ノ軍隊ノ整理ニ着手スヘキ
カ右ニ對シテハ大ナル困難件フヲ以テ右遂行上多少ノ中央
軍ノ引留ハ御諒解願度キ旨述ヘタルヲ以テ中央軍ヲ當地方
ニ置ク事ハ他日又モヤ我方ノ反感ヲ招ク事トナル惧アル旨
ヲ指摘シタル處黃ハ當地ノ雜軍ハ日本軍ト闘ヒタル關係上
當地方ニ殘ス事ハ面白カラサルヘシト言ヘルニ付本官ハ必
スシモ然ラス中央軍カ駐留スルヨリモ對日關係ハ良好ナル
ヘシト思考スル旨ヲ述ヘタル處黃ハ實ハ所要ノ軍隊ハ自己
ノ衛兵等ノ名義ノ下ニ現存軍隊ヲ改編シテ適當ノモノヲ作
ランカトモ考ヘ居レリ之ハ後日必ス意見ヲ交換スル事ト致
度シト言ヘリ尙何應欽ハ本件一段落ト共ニ南京ニ歸リ黃ハ

軍權及警察權ヲ手ニ收メタル上中央軍ノ大部分ヲ江西ニ送り
又雜軍ノ整理モ一仕事ニテ閩錫山、韓復榘トモ固ク門戸ヲ鎖
シ居ルヲ以テ其ノ駐防地ニ付一苦勞スルナラント述ヘ居タリ
茲ニ於テ再ヒ停戰問題ヲ持出シ具體的ニ進行スル爲永津武官
ノ來集ヲ求メ別室ニテ同武官ト協議ノ上往電第二二三號ノ四
項ヲ「ノート」シタル上之ヲ黃ニ示シタル處黃ハ最後ノ努力
ヲ試ムヘシト述ヘタルニ付右ニ對シ二十三日前中ニ回答ヲ
支那側ヨリ爲ス事ニ打合セテ遂ケ大体ノ交渉ヲ了リ永津武官
黃ト對面シ前線ニ於ケル支那軍ノ不誠意ニ付地圖ニ付キ専門
的説明ヲ爲シ且ツ右四項ニ付テモ懇切ニ說示スル所アリタリ
本電内容黃ノ立場モアリ絶對發表御見合セアリ度シ
支、滿、天津ニ轉電セリ

255 昭和8年5月27日 在滿州国武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)

北寧鉄道の滿州国側管理に関する関東軍意向 について

付記一 三月十一日發在滿州国武藤大使より内田外務
大臣宛電報第二二六号

北寧鉄道管理權を主張した中国および中英公
司側通告への天津軍処理方針

二 三月十一日發在滿州国武藤大使より内田外務

大臣宛電報第二二七号

右処理方針に対する関東軍意見

新 京 5月27日後發
本 省 5月27日後着

第五六七號

軍ニ於テハ奉山鐵路局ヲシテ北寧線ヲ管理セシムル目的ヲ
以テ參謀長發陸軍宛關參一電第六六二號ノ通奉天鐵路局長
ヨリ北寧鐵路局長宛近ク通告ヲ發セシムル意圖ヲ有スル處
右ハ奉山鐵路ニ於テ北寧線ヲ修理利用シ居ル實情及事變以來
奉山鐵路カ中英公司ニ對スル一八九八年及一九二一年ノ借款
ノ年賦金ヲ支拂ヒツツアル現狀ニ鑑ミ一八九八年借款契約第
四條ノ中英公司ノ權限ヲ行使セントスルモノニシテ右管理區
間ハ出來得レハ全線少クトモ緩衝地帯ノ西端迄要求スルコト
トシ度ク出來得レハ右ヲ和平條件中ニ加ヘ度キ意嚮ノ趣ナリ

(付記一)

第二二六號(極秘)

山海關守備隊ヨリ天津軍ヘノ報告ニ依レハ北寧鐵路局長高

紀毅及中英公司代表「トムソン」ノ二名ハ連署ヲ以テ今回

新タニ山海關及石河東方地區ニ在ル所屬工場及事務所ノ總

監督ヲ命セラレタル英人技師「ニウマーチ」(Newmarch)

ニ對シ大要(イ)日本軍司令官ニ對シ鐵路及鐵路財產並ニ收入

ハ中英公司ノ擔保トナリ居ルニ依リ完全ナル狀態ニ於テ北

寧鐵路ニ返還セラル可キモノナル事ヲ通告スル書面ヲ手交

シ書面ヲ以テ回答ヲ請ヒ之ヲ報告ス可キ事及(ロ)奉山線臨時

主席代表謝ヲ訪問シ鐵路及鐵路財產並ニ收入ハ中英公司ノ擔

保トナリ居ルヲ以テ素リニ之ヲ模倣替又ハ移動ス可カラサル

事並ニ鐵路運行ハ勿論之ヲ許ス限リニ非ス總テ滿洲問題ノ解

決ヲ俟チ一九三三年一月一日以前ノ狀況ニ依リ侵害ス可カラ

サルモノナル事ヲ記述セル書面ヲ手交シ文書ヲ以テ回答ヲ求

メ報告ス可キ事ヲ命シタル趣ナル處天津軍ニ於テハ右ニ對シ

(一)軍トシテハ何レノ方面ヨリスルモ此ノ種行政上ノ通告ニ

對シ何等直接回答スヘキ限ニ在ラスト突放シ之ヲ握潰ト

第二二七號(極秘)

スルコト要スレハ斯ノ如キコトハ外交上ノ順序ヲ經テ申
出ツヘク且本件ハ今次山海關事件ノ支那側不法行為ノ問題
解決ト共ニ當然解決スヘキモノナル旨ヲ以テ應酬スルコト
(二)北寧線ヲ作戰目的ニ使用セラルル場合ヲ考慮シ將來ノ爲
我方ノ言質ヲ捉ヘ置カントスルコトアルヘキモ之ニ對シ
テハ支那側ノ出方如何ニ關スルコトナレハ今ヨリ言明ス
ル限ニ非サル旨ヲ以テスルコト

(三)奉山線ニ對スル申越ハ當然滿洲國側ノ處置スヘキ處ナル
モ要スレハ前記(一)ノ趣旨ニ依リ回答スル様内面的ニ援助
スルコト

(四)右ハ何レモ文書トスルコト無ク口頭ヲ以テ應對スルコト
ノ方針ヲ以テ處理スル意嚮ノ由ナリ

尙右天津軍ノ處理方針ニ對シ關東軍ヨリ十一日同軍ニ宛テ
別電第二二七號ノ通り電報セリ

右當地軍ヨリノ希望ニ依リ電報ス

本電別電ト共ニ支、天津、北平ヘ轉電セリ

(付記二)

公使館一等書記官宛第八二號
右政治的事項に關する大綱

本 省 5月29日發

第八一號(大至急、極秘)

貴電第二二七號ノ二ニ關シ

一、停戰協定ト併行シテ取極ムヘキ政治事項ノ内容ニ付テハ
往電第七八號ヲ以テ一應申進メ置キタルカ此ノ際余リ細
目ニ亘リタル要求ヲナスコトハ却テ事態ヲ紛糾セシムル
ノ虞アルニ付大体別電第八二號ノ如キ大綱丈ケヲ約束セ
シメタル上(但シ右別電ノ四停戰區域ニ於ケル治安維持
ニ付テハ多少トモ細目ニ亘リ具体的ニ決定シ置ク要アル
ヘシ)一方停戰協定ノ遵守ヲ監視スル關東軍ノ威力ト他
方我方ノ外交手段其ノ他ノ方法ニ依ル北支政權指導トヲ
以テ此等約束ヲ誠實ニ實行セシムル様仕向クルコト時宜
ニ適スルモノト存ス

二、右政治事項取極ノ時期ニ付テハ(イ)塘沽ニ於ケル停戰交渉
ノ際一氣ニ取纏ムル案ト(ロ)停戰協定成立直後北平ニ於テ
黃郛トノ間ニ取極ムル案トヲ考慮シ得ヘキ處右(イ)案ニ付テ
ハ支那側停戰交渉委員ニ於テ黃郛ヨリ其ノ權限ヲ附與セラ

一、北寧鐵路ノ件ニ關スル貴見ハ同意ナルモ更ニ此ノ際貴軍
ニ於テ天津條約ニ基キ所在列國軍ヲ懲憑シテ天津山海關
間ニ國際警備列車ヲ運行セシメ支那軍ヲシテ秦皇島山海
關間ノ鐵道破壞ヲナシ得サラシムルヲ必要ト信ス

二、軍ハ滿洲國側ニ對シ(三)ニ依ル外滿洲國鐵道ハ北寧)鐵路
ノ有スル中英公司ニ對スル全借款ヲ契約通り支拂ツツア
ル現狀ニ於テ支那軍ノ爲山海關以西トノ交通ヲ杜絶セラ
レアルハ鐵道業績上多大ノ打撃ナルヲ以テ速ニ奉山鐵路
ノ列車ヲ秦皇島迄運行セシメ國際交通ノ回復ヲ計ルノ必
要アル旨ヲ交渉セシメントス

256

昭和8年5月29日

内田外務大臣より
在中國中山公使館一等書記官宛(電報)

華北における停戰協定と並行して取極めるべ

き政治的事項の大綱について

別 電 五月二十九日發内田外務大臣より在中國中山

ルルモ尙ホ斯種政治事項取極ノ責任ヲ執リ得ヘキヤ疑ハシ
キ恨アリ又(ロ)案ニ付テハ多少トモ時機ヲ失シ我軍ノ威力ヲ
充分ニ利用シ得サルカ如キ恨アル次第第二テ右(イ)(ロ)何レノ案
ニ依ルヘキヤハ現地ノ狀況ニ依ルコトト致度尙ホ(イ)案ニ依
ル場合ニハ豫メ黃郛ヲシテ支那側首席委員又ハ他ノ委員中
ノ適當ノモノニ斯種政治事項取極ヲナスノ全權ヲ附與セシ
ムル様手配方必要ナリ又(イ)案實行ノ爲メ停戰協定ノ締結ヲ
遲延若ハ困難ナラシムルカ如キコトナキ様配意方必要ナリ

三、右政治事項取極ノ形式ニ付テハ樞密院ニ對スル關係ニ顧
ミ條約又ハ協約等ノ形トスルコトナク(從テ政治規定等
ノ辭句ノ使用ヲ避クルコトヲ要ス念ノ爲メ)了解事項ヲ
記錄ニ止メ日支双方ノ責任者(即チ我方ハ貴官又支那側
ハ黃郛又ハ同人ヨリ全權ヲ附與サレタルモノ)ニ於テ署
名調印セル形トスルコト可然(支那側ニ對スル效力ニ於
テハ兩者何レニテモ同等ナル次第ナリ)該形式ハ支那側
ノ面目上モ適當ナルヘク將又右書面ハ差當リ極秘ニ附ス
ルコトトシ差支ナカルヘシ

就テハ敍上ノ趣旨御含ノ上可然御措置相成度
本電陸海軍ト打合スミ

別電ト共ニ滿、支、南京、天津ニ轉電セリ

(別電)

本省 5月29日發

第八二號(至急、極秘)

一、駐平政務整理委員會ハ其ノ管轄區域内ニ於ケル黨部ノ排日的活動其ノ他一切ノ排日運動ヲ彈壓スルコト
二、同委員會ハ其ノ管轄區域内ヨリ義勇軍其ノ他方法ニ依リ關外ノ治安ヲ攪亂スル一切ノ策動ヲ彈壓スルコト
三、同委員會ハ關内ト關外トノ間ノ適法ナル平和的交通ニ對スル一切ノ障礙ヲ除去スルコト
四、(停戰協定ニ含マルルコトトナルヤモ知レス)同委員會ハ停戰區域ニ於ケル治安維持ノ爲日本側ノ同意スル施設ヲナスコト

257 昭和8年5月30日

在天津桑島總領事より
内田外務大臣宛(電報)

馮玉祥の反蔣抗日通電は大局に格別影響ない
との天津方面観測について

258 昭和8年6月11日

在天津桑島總領事より
内田外務大臣宛(電報)

北寧鐵道全面復旧への障害である李際春軍改
編問題の行悩みにについて

天津 6月11日前發

本省 6月11日後着

第三一五號

往電第三〇八號ニ關シ

十日錢宗澤ノ内話セル要領左ノ通

一、目下北寧鐵道ハ蘆臺迄運行シ居ルニ過キス蘆臺唐山間ハ不通ニシテ唐山以東ハ關東軍ニ於テ管理運行シツツアリ同軍ハ八日以來一時的辦法トシテ在來ノ北寧鐵道車輛及従業員ヲ其ノ儘使用シ奉天迄ノ聯絡切符ヲモ發賣シ一切ノ收入ハ他日ノ決定ヲ見ル迄同軍ニ於テ保管スルコトトナリ同鐵路局ニ於テモ總テ之ヲ默認シ居ル次第ナリ一方開灤炭^{開々}路秦皇島迄ノ運賃ハ是レ亦開灤ニ於テ他日ノ決定迄其ノ儘保管スルコトトナレリ

四 塘沽停戰協定善後交渉

二、蘆臺、唐山間開通次第同鐵路局ハ山海關迄運行ヲ開始シ速ニ國際交通路ヲ回復シタキモ右區間ハ丁強軍ノ始末付カ

第二九八號

天津 5月30日後發
本省 5月30日後着

馮玉祥ノ二十六日附反蔣抗日通電ハ二十九日當地新聞ニ掲載セラレ主トシテ舊西北軍ニ屬スル宋哲元、孫殿英、方振武、吉鴻昌、梁冠英、張蔭梧^蔭、張勵生^勵、孫連仲、石友三、劉桂堂ニ加フルニ韓復榘、孫傳芳、張作相等迄之ニ加盟シ居ルヤニ宣傳セラレ居ル處當方面有力者ノ意見ヲ綜合スルニ馮ハ從來廣東方面ト氣脈ヲ通シ抗日ヲ高唱蔣介石ヲ苦境ニ陷レント試ミツツアリシハ周知ノ事實ニシテ最近ニ至リ日支停戰交渉進行シツツアル局面ニ對シ更ニ一石ヲ投シ蔣ヲ一層苦シメントスル魂膽ヲ以テ前記通電ヲ發シタルモノヲシク馮ノ實力ハ強ヒテ舉クレハ方振武及宋哲元等ノ少數部隊ニ過キサルヲ以テ大局ニハ格別影響スル所無キモノノ如シ尙許卓然等ノ談ニ依レハ黃郛ハ豫テ此ノ際萬全ヲ期スル爲袁良及程克(程ハ元來馮系ニ屬シ黃トモ私交深シ)ヲ張家口ニ派シ馮ニ自重方ヲ説得セシメツツアル由

支、北平、南京、廣東、漢口、濟南、滿へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

サル限り到底開通ヲ見ル能ハス

三、支那側ニ於テハ停戰協定ニ依リ丁強軍ニ對シ武力解決不可能ナレハ目下ノ所之ヲ改編スル方針ニテ北平政務委員會ニ於テ折角努力中ナルモ同軍ハ改編ノ上他ニ移サルルヲ虞レ且ツハ支那側ノ弱味ニ付ケ込ミ過大ノ要求ヲ提出シ居リ交渉行キ悩ミ中ナリ若シ關東軍カ右始末ニ關シ幾分ニテモ援助的態度ヲ執ラレハ直ニ片付ク問題ナルモ同軍ハ一切之ニ關與セサル建前ヲ固持シ居リ支那側ハ之カ處置ニ窮シ居ル窮狀ナリ云々

支、北平、南京、濟南、滿、奉天ニ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

259 昭和8年6月12日

在中国有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

山海關における中国側海關行政への日本軍の
妨害に關しメーズ總稅務司注意喚起について

付記一 二月十四日發菊池(門也)支那駐屯軍參謀長より

り真崎(甚三郎)參謀次長宛電報第四〇二號
治安維持会などをして山海關稅關の徵稅を阻止すべき旨現地軍に指示について

二月二十三日発在天津桑島総領事より内田外務大臣宛電報第一〇七号

山海関での邦人の税関手続き拒否に関する中国側抗議への回答振りにつき稟請

三月十六日発在天津桑島総領事より内田外務大臣宛電報第一六六号

右回答への中国側再抗議に対し税関側が自発的に邦人への税関規則適用を中止中と回答について

上海 6月12日後発
本省 6月12日後着

第三二九號

本使發天津宛電報

第一六號

本十二日「メーズ」ヨリ堀内ニ對シ電話ヲ以テ日本軍ハ山海關税関ノ貨物検査ヲ行ハシメサル爲密輸多ク支那側海關行政局ハ頗ル困リ居ルニ付右除去方何トカ圓滿ニ解決ヲ見ル様盡力方關務署ヨリ自分ニ非公式ニ訓令シ來レル旨申越セリ本件急速ニ解決セサル場合ニハ支那側トシテハ公然抗

議シ來リ各國ノ注意ヲ喚起シ來ル處置ニ出ツルモノト認メラルルニ付テハ三月十八日附貴信公第九八號、三月二十日附貴信機密第一〇〇號等ノ次第アルモ其ノ實情御回電ヲ請フ大臣、北平、滿、南京ニ轉電セリ

(付記一)

天津 2月14日後5時25分發
參謀本部 2月14日後9時20分着

第四〇二號(其一一四)

天津電第三三九號ノ支那側ノ山海關税関問題ニ關シ其後山海關守備隊長ヨリ「税関長ウイクスヨリ日本軍ノ正式課税停止命令アルニ非サレハ之ニ課税ヲ見逃シ得サル情況ナリトノコトヲ固持シアリ當方トシテハ成ル可ク自發的ニ課税セシメサル如ク努力シツツアルモ若シ支那側税関力之ニ應セサルトキハ斷然占領地ノ故ヲ以テ課税停止ヲ命令シテ可ナルヤ」トノ電報アリシニ付次ノ如ク指示セリ

軍ノ方針ハ前電指示ノ通りトス税関長ハ支那ノ官吏ニシテ日本軍ヨリ之ヲ命令スヘキ筋合ノモノニ非ス又税関長トシテモ日本軍ノ命令ニ依リ行動スヘキモノニ非サルコトハ充

分知リアルモ自己ノ責任回避ノ爲貴電ノ如ク要求ヲナスモノト判斷ス若シ彼ヲシテ課税セシムルニ於テハ占領地内ニ於ケル支那側行政ノ一部ヲ認ムルコトナリ現況ト矛盾ヲ來シ適當ナラス仍テ今後モ自發的ニ課税セシメサルヲ良策トスルモ飽クマテ課税セントセハ治安維持會或ハ公安局ヲシテ事實上ノ課税阻止行爲ヲ行ハシメ(口實ヲ與ヘサル爲軍隊ヲシテ行フコトヲ避ケ)滿洲國ヨリ來ル荷物ヲシテ課税セラルルコトナク山海關ニ入ル様セラレ度此際理由ハ「日本軍ハ現在山海關ヲ占領シアリテ將來交渉ノ結果如何ナルヤ不明ナリ今滿洲國荷物ニ課税スルコトハ再ヒ日支紛争ノ基因トナリ治安維持上困難ヲ來スヲ以テ當分課税ヲ遠慮セラレ度」ト述ヘシメ成ル可ク治安維持會又ハ公安局ヲ表面ニ出スヲ可トス北平、上海、南京スミ

(付記二)

天津 2月23日前發
本省 2月23日後着

第一〇七號

今般秦皇島税関長ヨリ本月四日以來山海關日本商人ハ税関

手續ヲ履ム事ヲ拒否シ居レルカ右ハ現行日支條約ノ重大違反ナルニ付阻止方ニ付至急措置アリ度キ旨ノ抗議ヲ電報セル處、往電第八九號及第一〇二號ノ通り軍側情報ニ依レハ山海關税関ハ事件以來自發的ニ事務ヲ停止シ居レルカ今同ノ抗議ハ税関長カ中央ニ對スル手前ヲ繕ハンカタメ爲シタルモノト思ハルル節アリ、一方當館及軍部協議ノ結果税関事務再開ヲ試ムル場合ハ同地治安維持會邊リヲシテ目下同地ノ機微ナル狀態ニ鑑ミ此ノ際執務ヲ再開スルハ更ニ日支紛争ヲ惹(起)スルトノ理由ニテ執務停止ヲ勸告シ場合ニ依リテハ強力ヲ以テ停止セシメ飽ク迄支那側内部ノ問題ト爲シ日本側ハ直接手ヲ出ササル事ニ決定シ居ル次第ニ付右抗議ニ對シテハ單ニ本年一月一日ノ山海關事件以來今日迄山海關税関ハ事務ヲ停止シ居リ抗議ノ如キ事實アル筈ナシト回答シ置キ度キ處右ニテ御差支ナキヤ至急御回示アリ度シ支、北平、南京、滿ヘ轉電セリ

編注 本電に對し翌二十四日發内田外務大臣ヨリ在天津桑

島總領事宛電報第四八号により、「貴見ノ通取計ハレ差支ナシ」と回訓があつた。

(付記三)

天津 3月16日後発
本省 3月16日後着

第一六六號

往電第一〇七號ニ關シ

秦皇島税關長ヨリ二月二十八日附書翰ヲ以テ山海關税關ハ事務停止シ居ル趣ヲ以テ更ニ抗議シ來レルモ當方ニテハ何等回答ヲ爲ササリシ處三月十五日附ヲ以テ再ヒ抗議シ來レルカ山海關出張警察官ノ報告ニ依リ同地税關ハ執務シ居ルモ日本人ハ納税ヲ肯セス税關側トシテモ傍觀スル外ナキ有様ノ由就テハ冒頭往電ノ事情モアリ右抗議ニ對シ最近我方ノ得タル情報ニ依レハ山海關税關ハ何等カノ理由ニテ自發的ニ税關規則ヲ日本人ニ適用スルコトヲ中止シ居レルモノニシテ日本人カ規則違反ヲ爲シ居ルモノニハアラストノ趣旨ニテ回答シ置ケリ支、北平、南京、滿ニ轉電セリ

260 昭和8年6月15日

在天津桑島總領事より
内田外務大臣宛(電報)

李際春軍改編問題および馮玉祥への黃郭対応

タルコトアルモ其ノ後四圍ノ狀況必スシモ馮ニ有利ナラサルニ至リシ如クナルヲ以テ結局屯墾督辦其ノ他適當ノ名目ヲ與ヘ其ノ地位ニ必要程度ノ一、二個師ノ兵力保持ヲ許シ以テ馮ノ面目ヲ立ツル程度ニテ解決スルニ至ルヘシ
三、黃郭北支乗出ニ依リ日支關係ノ好轉ヲ密ニ恐レ兎角之ニ反對シ居タル林森、孫科一派ハ最近中央政治會議ニ於テ北平政務委員會ノ管轄地域河北、山東、山西、綏遠、察哈爾ノ五省中ヨリ山東、綏遠ヲ除外スルコトヲ提案可決セシメ事實アリ尙同人等ハ宋子文ニ至急歸國ヲ切望シ宋ハ經濟會議終了ヲ待タス歸國ノ途ニ就クヘシトノ情報モアルニ付宋歸國後ノ右反對ノ黃郭一派ニ對スル策謀ハ特ニ注意ヲ要スル次第ナリ云々

261 昭和8年6月17日

在中国中山公使館一等書記官より
内田外務大臣宛(電報)

駐平政務整理委員會管轄範圍確定の経緯に關する何澄内話について

北平 6月17日後発
本省 6月17日後着

振りなどに関する許卓然内話について

天津 6月15日後発
本省 6月16日前着

第三二〇号

十四日許卓然カ本官ニ内話セル所左ノ通

二丁強軍(李際春)ノ始末ニ付黃郭ヲ始メ一方ナラス苦心シ居ル處元來李ハ一九二三年張紹會組閣當時部下ノ旅長タリシコトアリテ當時ノ外交總長タリシ黃郭トハ舊知ノ關係アリ一方当地ニアリテ李ヲ操リ居ル藩○敏○柱○ト自分(許)トモ亦舊知ノ關係アルヲ以テ之等ノ關係ヲ利用シ折角李一派ニ對シ政治的解決ヲ試ミントシツツアリ自分今同ノ來津モ之カ爲ナルカ自分ノ考トシテハ丁強軍中武器ヲ所有スルモノヲ一ケ旅乃至二ケ旅ニ改編シテ護路軍等適當ノ名目ヲ與ヘテ李際春ヲ其ノ司令トシ瀋東地方ニ暫ク駐屯セシメ之ニ附隨セル武器ナキ雜兵ニハ相当ノ手當ヲ給シテ解散セシムルノ外ナシト認メラル

ニ馮玉祥ニ對シテハ中央ハ和戰兩様ノ手段ヲ爲シ居レルカ黃郭ハ頻リ二人ヲ派シ馮ノ自重ヲ求メ專ヲ和平解決ヲ勸メ居ル處当初馮ハ綏遠、察哈爾兩省主席ノ地位ヲ要求シ

* 第二二一号

行政院駐平政務委員會ハ本十七日午前九時外交大樓ニ於テ黃郭、韓復榘、宋哲元等過半数委員(五月十五日附公第二四四号拙信參照)ノ出席ヲ得テ正式成立セルカ同會ノ管轄範圍ハ河北、山東、山西、察哈爾、綏遠五省及北平、青島ニ市ナリト尙十七日何澄ノ内談ニ依レハ今次停戰協定及政務整理委員會ノ成立ニ関シ張學良ノ意ヲ受ケタル宋子文ヨリ猛烈ナル反對アリ爲ニ委員會ノ管轄区域モ河北、察哈爾ノ二省ニ縮少ノコトニナリ居タルカ黃郭ノ反對ニ依リ前記五省ニ擴大スルコトトナリ急遽成立ノ運ト爲レル次第ノ趣ナリ又北平市長周大文ハ辭職シ袁良之カ後任ニ任命セラレタリ

262 昭和8年6月21日

在天津桑島總領事より
内田外務大臣宛(電報)

黃郭の抱える諸問題に關し王揖唐内話について

天津 6月21日後発
本省 6月21日後着

第三二八號

政務委員會開會式ニ列席ノ爲數日間北平ニ滞在十八日歸津

セル王揖唐ノ二十日本官ニ内話セル要領左ノ通

一、馮玉祥ニ對シ中央トシテハ林○懋○督辦ト稱スル殆ト空名ニ等シキ官職ヲ與ヘ毎月二、三萬元ヲ支給シテ張家口以外ニ移住セシメ且ツ馮ト合作ノ虞アル方振武ニハ會○辦○ノ官職ヲ與フルモ其ノ兵力ハ鮑○剛○及阮○玄○武○ノ二師長ニ歸屬セシメ方自身ニ直接兵力ヲ持タシメサル案ヲ以テ之カ解決ヲ進メツツアリ馮ハ給與四、五萬元ヲ要求シ且ツ依然張家口ニ殘留スルコトヲ主張シ方ノ兵力二分ニ反對シ居ルモ結局二、三萬元宛ヲ給與シ張家口ニ殘留ヲ許シ方ノ兵力モ現狀ノ儘トシテ折合フコトト思ハル

二、黃郛ハ日本側ニ對シ細心注意シ居リ王ニ内話セル所ニ依レハ停戰協定調印前ニ黃ハ密使ヲ日本ニ送りタルコトアリシカ更ニ本月十七日天津出帆ノ便船ニテ再度渡日セシメタル趣ニテ右ハ恐ラク日本ニ於ケル對支空氣ヲ親シク觀察セシムル目的ナルヘシ

三、目下ノ北支ハ何應欽、黃郛、于學忠ノ三頭政治ノ感アル處何ハ同人ノ希望モアリ遠カラス南下スヘク驢○テ黃于合作ヲ要スルニ至ルヘク右合作ハ相當困難ノ伴フ事情アルモ自分(王)ハ極力合作ヲ斡旋スル考ニシテ(黃郛北上ノ

支、滿、北平、南京、濟南ニ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

263 昭和8年6月22日 在天津桑島總領事より
内田外務大臣宛(電報)

山海關での日本軍による中国側税関事務阻止

の根拠に関する関東軍見解について

天津 6月22日後発
本省 6月22日後着

第三三三號

本官發支宛電報

第二三四號(部外秘)

貴電第一六號ニ關シ

一、山海關ニ於ケル最近ノ實狀ヲ調査シタル處同地ニ於テハ滿洲國税関ハ執務シ居リ滿洲國ヘノ輸入貨物ニ對シ課税シ居レルカ支那税関ハ軍ニ於テ執務ヲ全然停止セシメ居リ日支人トモ納税スルモノナシ

ニ支那税関事務停止ニ關シ當初軍司令部ハ當方トノ打合ニ依リ軍ハ表面ニ立タサル方針ナリシモ(大臣宛電報第一〇

際于ニ紹介セルハ王揖唐ナル由)現ニ黃ハ中央軍引揚ニ關シ其ノ二、三個師ヲ自己ノ直系軍トシテ殘留セシメテ東北軍等ノ解決ヲ便ニセントスル意圖ナルモ自分ハ黃ニ對シ斯ノ如キハ于トノ協調ヲ失スル虞アルヲ以テ中央軍ハ全部南下セシメ只管于ノ兵力ヲ中心トシテ措置スルノ得策ナルヲ進言シ置ケリ

四、周天津市長ノ辭任ハ最早時ノ問題トナリ居ル處昨今ノ新聞ノ傳フル張羣、張繼等ノ後任説ハ全然根據ナク自分ハ後任者ノ詮衡ニハ于學忠ノ意見ヲ尊重スル様進言シ置ケリ
五、黃郛ハ依然黨部ニハ相當氣兼シ居リ現ニ正太鐵道開會式ニ當リ在來ノ國民黨議ニ依ル宣言其ノ他ノ儀禮ハ之ヲ一切省略セルモ一面之カ爲黨部ノ感觸ヲ害スルヲ恐レ新聞記者ノ傍聽ヲ一切禁止シ爲メニ記者團ト紛糾ヲ惹起セルカ同團ニ對シ右ハ秘書長何其鞏ノ獨斷の措置ナルカ如ク辯明シ居ルモ事實黃モ豫メ之ヲ承知シ居タルコトト思考セラル
尙王ハ本官ニ對シ滿洲國軍ヲ關内ニ入レ居ル根據如何等試問セル後更ニ日本ハ黃ニ對シ如何ナル政策ヲ採用スルコトヲ要求スルヤト問ヘルニ付本官ハ日本トシテハ唯黃ノ爲ス所ヲ靜觀シ居ル次第ナリト答ヘ置ケリ

七號御參照)五月二十七日奉山線カ管内運轉ヲ開始セル直後税関事務ヲ再開セントシタルモ軍方面ヨリ之カ停止方ヲ勸告シタルカ六月七日一般民衆有料乗車ヲ許スヤ税関側ヨリ落合守備隊長ニ對シ若シ軍カ税関事務ヲ阻止スル時ハ密輸入ヲ幫助スルモノニシテ條約違反行爲ナリト述ヘタル處隊長ハ密輸入幫助云々ハ軍ノ体面ヲ傷ケルモノナリト責メタル上軍ハ斷シテ事務再開ヲ許サスト答ヘ茲ニ軍カ公然表面ニ現レタルカ翌日秦皇島税関長ハ隊長ヲ來訪シ誤解ノ點ニ付辯明スルト共ニ爾後山海關事務ヲ停止シ秦皇島ニ於テ貨物ノ検査及徵税スヘキ旨述ヘ隊長ハ石河以西ニ於テハ自由ナリト答ヘタル趣ナリ尙軍ニ於テハ十一日以後貨物検査ノ爲秦皇島ニ列車ヲ十分間停車セシムルコトトセル由

三、税関事務阻止ノ根據ニ關シ關東軍ニ於テハ石河ヲ以テ滿洲國ノ省境線トシ山海關ニハ(九門口、界嶺口、冷口等長城線ヨリ關内ニアル場所ニ於テモ同様滿洲國ノ税関ノミヲ置キ支那税関ノ存置ヲ許ササル方針ヲシタ當地司令部ニ於テハ右隊長ノ言動ヲ支持スル立場モアリ山海關ハ本年一月ノ事件ニ依リ軍カ占據シタル地ニシテ本來ノ解決ヲ見ル迄ハ支那ノ行政權ノ行使ヲ許サストノ建前ヲ採ルコトトセル

モ當方ヨリ本件ハ面倒ナル問題ニテ軍事占領トスルモ軍ノ必要以上ニ亘ル問題ナレハ慎重研究ノ要アル上同地ニ於ケル他ノ諸問題ノ取扱振ヲモ考慮シ我方ノ意見ヲ一定シ置クノ要アルコトヲ注意シ置ケル處本件ハ中央ノ指示ヲ待ツコトトシ目下請訓中ナル趣ナリ

四、秦皇島税關長ヨリ當館ニ對シ六月三日附書翰ヲ以テ山海關日本人ハ徵税ニ應セス其ノ背後ニハ日本官憲アル模様ナルニ付之力は正アリタキ旨申越セルカ之ニ對シ單ニ事情ヲ調査スヘシト答ヘ置キタル處十一日附書翰ヲ以テ滿洲國警察隊及日本官憲ハ税關事務ヲ阻止シ自分カ山海關ニ赴ケル際日本將校ハ日支紛爭解決又ハ鐵道協定成立ヲ見ル迄ハ山海關驛ニ於テ貨物検査ヲ禁止スル旨述ヘタルカ右ハ支那主權ヲ侵害シ密輸入ヲ幫助スルモノナルニ付斯ル妨害ヲ速ニ撤去スヘキ様關係當局ト交渉方照會越セルカ前記ノ事情ニ付其儘握リ潰シ居レリ大臣、北平、南京ヘ轉電セリ

264 昭和8年6月23日 在滿州国武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)

日本軍の山海關税關事務阻止問題に關し同地

第三六四號(極秘)

滿發本使宛電報第一八號及天津發本使宛電報第二三四號ニ關シ

一、滿洲國ニ於テハ山海關ハ其版圖内ナリトノ建前ヲトリ居リ又關東軍ニ於テハ石河ヲ以テ滿洲國ノ國境線トスルノ方針ナルヤノ趣ナル處右ハ滿洲國成立ニ關スル同國側ノ各種宣言公文ニ表ハレタル所ト異ナルノミナラス曩ニ我方山海關事件ニ關スル外交部宛公文等ノ前提トセル所トモ異ナル様存セラルル處帝國政府及滿洲國ニ於テハ右ノ如キ方針ヲ決定セラレタル次第ナリヤ若シ然リトセハ外部ニ對スル説明振(帝國從來ノ公文等トノ矛盾及冒頭天津電報三末段ノ點等ヲモ考量ニ容レ)ハ當方トシテ如何心得然ルヘキヤ

ニ山海關ニ於ケル支那税關ノ現狀ハ冒頭電報ノ通りニシテ又關東軍ニ於テハ山海關ニハ滿洲國ノ税關ノミヲ置キ支那税關ノ存在ヲ許ササル方針ナルカ如シトノ事ナル處右ニ關スル政府ノ御所見如何ナルヘキヤ

何分ノ儀御回示ヲ請フ

滿、北平ヘ轉電セリ

天津、南京ヘ暗送セリ

を版図内とする滿州国側見解について

新 京 6月23日後發
本 省 6月23日後着

第六七一號

本使發支宛電報

第一八號

往電第一七號ニ關シ

其ノ後取調ヘタル處滿洲國ニ於テハ山海關ハ其ノ版圖内ナリトノ建前ヲ採リ居ル爲山海關ニ於テ消費セラルル貨物ニ付テハ支那側税關ノ検査ヲ認メ居ラス尤モ石河以西ニ行ク軍需品以外ノ貨物ニ付テハ支那側税關ノ検査ヲ行ハシメ居ル趣ナリ大臣、北平、天津、南京ニ轉電セリ

265 昭和8年6月27日 在中国有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

滿州国国境線および日本軍の山海關税關事務阻止問題に対する政府方針回示方稟請

上 海 6月27日後發
本 省 6月27日後着

266 昭和8年6月28日 在天津桑島總領事より
内田外務大臣宛(電報)

北寧・奉山兩鐵道連絡問題の急速解決を一般外国人要望について

天 津 6月28日後發
本 省 6月28日後着

第三四二號

二十八日獨逸總領事他用ヲ以テ來訪ノ際北寧線ト奉山ノ聯絡問題ハ一般外人間ニ於テ最モ重要視シ居ル處假令全線ノ開通ヲ見ルモ急ニ外人カ之ヲ利用スルヤ否ヤハ疑問ナルカ一般輿論ニハ極メテ好印象ヲ與フヘシト述ヘ居タリ

右ト同様ノ話ハ外人ヨリ屢聞ク所ナルカ停戰交渉成立後既ニ相當時日モ經過シ居リ成ル可ク速ニ本件ヲ解決スルコトハ諸般ノ情勢上有利ナリト認メラルル處北寧鐵路局長錢宗澤モ李際春問題解決サレサル現狀ニテハ唐山、蘆臺間兵匪襲撃ノ危險アリ鐵道モ當分開通困難ナリト語り居タルカ此ノ間何トカ便法ヲ設クルコト必要ナルヘキ處本件ニ關シ大体ノ御方針モアラハ當館參考迄ニ御回示相成度シ

支、北平、滿ヘ轉電セリ

昭和8年6月28日 在中国中山公使館一等書記官より
内田外務大臣宛(電報)

黄郭らの華北における微弱な親日的勢力支援 のため関東軍兵力増強方意見具申

北平 6月28日後発
本省 6月28日後着
* 第二七九号

塘沽停戦協定成立以來ノ當地地方政情ヲ觀ルニ黄郭ハ政務委員會ノ組織ニ向テ漸次其ノ歩ヲ進メ曩ニ其成立ヲ見タルカ黄ハ其ノ腹心僅カニ十數名ヲ率キテ北上シタル次第ニシテ御承知ノ通兵力ノ背景ヲ有セス彼ノ相談役トシテ信任ヲ置ケルモノハ何澄、ゴシンシユ、許卓然、リュウセキソン、袁良ノ五名ニシテ彼ノ政見ヲ実行スル爲ニハ舊東北系文武各團體ヲ初メトシ党部反親日系統ニ對抗セサルヘカラサル状態ニシテ其ノ困難想像ニ難カラス
黄ハ才氣煥發ノ士ナルモ目下ノ勢力ニテハ断然親日ヲ標榜スルノ決心モ立チ難キヤニ認メラル又黄ノ背景タル何應欽ハ支那人トシテハ事務的才能ヲ有スルカ如ク比較的正直一方ノ人物ナルモ大軍ニ令スルノ器ニアラス從テ黃何兩人ノ

合作タル当地政權ハ巧妙ニ北支ノ難局ヲ切抜ケントスル努力ハ惜マサルカ如キモ決然親日的政策ヲ斷行スヘキコトハ目下ノ處望ミ難シト思考ス
停戦協定以來日本側ヨリ黃、何方面ヘハ出入相当多ク民間ヨリハ岡田安民、橘三郎、内田勝司、官邊ヨリハ酒井大佐、陸軍省鈴木中佐及永津武官相次テ會見シタル由ニシテ倂信夫モ來平中ニシテ近ク黃ニ會見ノ希望アルカ如シ當地政局ニ對スル黃ノ抱負ハ今回ノ停戦協定ハ日支直接交渉ノ結果ナルカ故ニ若シ当地地方ノ局面協定後大イニ改善ヲ見ルニ非サレハ上海停戦協定ニ比シ支那國內ヨリハ日支直接交渉ノ結果ハ果然斯ノ如ク不結果ナリトノ非難ヲ受ケ折角ノ日支直接交渉ノ先例ヲ襲フモノ無キニ至ルヤヲ惧ルルヲ以テ何トカシテ北支政局ノ改善ヲ實現セント努メツツアル次第ナルカ目下之カ障碍トナルモノハ李際春問題北平山海關鐵道交通問題等主ナルモノノ如シ尙近キ將來ニ於テ宋子文借款成功ノ誇ヲ以テ親米空氣ヲ持歸ルヘク或ハ張學良モ相前後シテ歸國スルコトナルヤモ計ルヘカラス西南方面ノ停戦反對運動ハ遠方ノコトニモアリ直接当方面ニ影響ハ無カルヘキカト認メラル

四 塘沽停戦協定善後交渉

当方面政局ニ對スル外國側ノ接觸ハ未タ大ナル進展ナキカ如ク外國側ノ関心ハ差当リ鉄道交通ノ問題ニテ之ニ對シテハ本官ハ日支兩軍憲ニ對シ夫々其ノ權力下ノ鐵道ノ安全ヲ要求スレハ交通上ノ不便ハ單ニ乗換ノミノ問題ナルヘキコトヲ説示セルニ彼等ハ右ニ依リ休戦協定ヲ承認スルコトトナルヲ惧レ居ルカ如シ外國側ノ重大ナル関心ハ奉天發閣下宛第二二一號米發閣下宛第五八二号ノ如ク治安ニ関スルモノト思考ス中央ノ御方針ハ累次ノ御訓令ニ依リ承知致シ居ル處当地政權ノ如ク親日方針ヲ執ルモノハ之ヲ援クル御趣旨ナルニ於テハ日支直接交渉ノ先驅ヲ爲シタル当地政權ハ日本側ニ於テモ他ノ政權ニ比シテ實際上好意的態度ニ出テ親日方針ヲ實質的ニ有利ナルコトヲ如實ニ示シ他ノ反日的政權ヲ轉向セシムルノ策ヲ執ルコト極メテ肝要ナルハ勿論ノ儀ナルカ之カ爲ニハ更ニ一步ヲ溯リテ實質上日本ノ權力下ニ在ル滿洲國ニ於ケル國民生活力内外人共ニ支那國內ノ夫レニ比シ遙カニ安定シ且文明施設ノ恩澤ニ浴スルコトヲ現實ニ示スコトヲ要スヘク之カ爲ニハ種々ノ方策アルヘキモ先ツ第一著手トシテ関東軍ヲ相当増勢シ外國側ヲシテ兎角ノ批評ヲ爲スノ機會ヲ與ヘサルコト焦眉ノ急務ナリト確信ス

之ヲ当地政局ノ方面ヨリ見ルモ黃、何ノ合作ハ前述ノ如ク目下ノ處勢力微弱ニシテ而モ統制スヘキ反對勢力相当大ナルヲ以テ滿洲殊ニ長城附ノ関東軍ノ兵力ニ充分ノ(餘裕)アリテ若シ右反對勢力カ北支ノ安定ヲ脅威セントスル場合ニハ何時ニテモ親日政權ヲ援助シ得ル大勢ニ在ルニアラサレハ貴電合第一二〇七号宣傳方針ノ如キモ其ノ実ヲ伴ハサル結果トナルヲ恐ル

斯ノ如ク卑見ニ依レハ関東軍ノ増勢ハ専ラ政治上外交上ノ必要ニ基クモノナルヲ以テ内政上困難ナル事情アルヘキハ小官ト雖モ察知セサルニ(アラサル)モ此ノ際速ニ右増勢ヲ閣下ニ於テ率先御唱道アラントコトヲ切望スル次第ナリ関東軍増勢ヲ見タル上ハ李際春問題ノ如キモ解決容易ナルコトト信ス又増勢セラレタル関東軍カ閩南ニ出動スルコトニ付テハ其ノ時ノ事態ニ依リ廟議ヲ決定セラルヘキハ申ス迄モ無シ

昭和8年6月29日

内田外務大臣より
在中国有吉公使宛(電報)

満洲国国境線は長城線であり山海関は満洲国
領域外との政府見解について

第一二〇號(極秘)

貴電第三六四號ニ關シ

滿洲國カ長城ヲ以テ國境トスルコトニハ何等變リナク從テ山海關ハ其ノ領域外ニアル譯ナルモ從前長城ノ内外ハ經濟上交通上極メテ緊密ナル關係ヲ有シタル次第ナルノミナラス今回北支ニ於ケル戰事ノ終了後僅々一個月ニ過キス殊ニ多數ノ日本軍今尙ホ關内ニ駐屯シ居ル現狀ニ顧ミ接境地方ノ複雜ナル事態ヲ急速ニ整調スルノ極メテ困難ナルハ想像ニ餘リアルヘク結局日本軍關外撤退ノ進行ニ伴ヒ漸次支滿双方ニ都合ヨキ様合理的ニ處理スルコトニ軍部トモ意見一致シ居ル次第ナルニ付右ニ御含置ヲ乞フ尙ホ現在支那側ハ秦皇島ニ於テ稅關事務ヲ執リツツアル外山海關ノ郵便事務ハ支滿双方ニ於テ行ヒ又同地ノ一般行政ハ住民ヨリ成ル治安維持會ニ於テ行ヒ居ル由ナリ

滿、北平ニ轉電シ北平ヲシテ天津ニ暗送セシム

南京ニ轉報アリ度

269

昭和8年6月29日 在中国有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

華北政局安定のため李際春軍改編問題解決が
急務の旨意見具申

上海 6月29日後発
本省 6月29日後着

第三七五號(極秘)

一、當方面外支人間ニハ停戰協定成立ヲ機トシ日支關係落着クヘシトノ觀測行ハレ南京政府部内ノ空氣亦幾分改善ノ徵アルハ事實ナルカ累次電報ノ如ク最近ニ至リ宋子文歸國後ニ於テハ更ニ逆轉ヲ見ルヘシトノ臆測モ少カラサル處停戰協定成立後ノ華北カ平穩ニ赴キ内外人心安定スルニ付テハ假ニ宋子文一派カ停戰協定ニ反對シ抗日方針ヲ高調セントスルモ大勢上能ハサルヘク結局停戰後ニ於ケル華北ノ事態ヲ安定セシムルコトハ宋子文ノ態度ヲ善導スル上ニ有力ナル要素ト存セラル

ニ、然ルニ桑島總領事發閣下宛累次電報等ニテ明カナルカ如ク瀋東ニ於ケル李際春軍ノ解決遷延シ居ルカ爲當方面外支人一般ニ對シ停戰協定成立ニ拘ラス華北問題ハ今後更

リト存ス

右ハ既ニ折角御盡力中ノコトト存セラルルモ本件ノ影響重大ナルモノアリ卑見申進ス

滿、北平、天津、南京へ轉電セリ

270

昭和8年6月29日 在中国有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

日本軍の山海關稅關事務阻止問題に關し政治
問題化を避けるため慎重對処方意見具申

上海 6月29日後発
本省 6月29日後着

第三七八號(極秘)

往電第三六四號ニ關シ

本件稅關及國境問題ハ「メーヅ」ニ對スル應酬振リ如何ニ依リテハ本使發天津宛電報第一六號ノ如ク支那側ヨリ公然抗議シ來リ事件ヲ公表シテ各國ノ注意ヲ喚起スル處置ニ出ツルモノト認メラレ李際春問題同様相當「デリケート」ナル政治問題化スルノ惧レアリト思考セラルルニ付テハ本件問題ニ關シテモ往電第三七五號ノ趣旨ニ依リ慎重御考慮願度シ

四 塘沽停戰協定善後交渉

サルモノアリ

ニ紛糾ヲ見ルヘシトノ不安ナル印象ヲ與ヘ居ル現狀ニシテ(一)二三日前茅支那側新聞ハ日本軍部ノ少壯者ハ停戰協定ニ反對ニシテ李際春軍ノ解決ヲ困難ナラシメ之カ勢力ヲ増加シ遂ニ華北共和國ノ設立ヲ目論ミ居ル旨ヲ報道シ注意ヲ惹キタルコトサヘアリ)

斯ノ如キ華北ノ不安狀態カ永續スルニ於テハ南京部内ニ於ケル親日反對派ノ活動ニ乘スヘキ機會ヲ與フルハ勿論我方ノ好意的援助ヲ期待シ居ル黃郛一派ノ心理ニ對シテモ甚タシキ惡影響ヲ及ホシ遂ニ黃自身ヲシテ時局收拾ヲ斷念セシムルニ至ルナキヲ保セス(濟南發閣下宛電報第一八九號等參照)兩國關係改善ノ點ヨリ誠ニ寒心ニ堪ヘサルモノアリ

三、尙多年行キ慣レタル北戴河行ヲ熱望シ居ル外交團其ノ他ノ在支外人ハ何レモ李際春軍ノ解決遷延ヲ不可解ト爲シ居リ此ノ種不滿カ帝國及滿洲國ニ不利ナル國際輿論ヲ作り居ルコト亦看過シ難キモノアリト存セラル

四、前記ノ事情ニ鑑ミ此ノ際李際春軍ノ解決ヲ計ラシメ且我方トシテハ右解決ニ對シ黃郛等ノ立場ヲ困難ナラシメサル様出來得ル限り好意的援助ヲ與フルコト極メテ必要ナ

滿、北平、天津、南京へ轉電セリ

271 昭和8年6月30日 在天津桑島總領事より
内田外務大臣宛(電報)

唐山までの北寧線復旧に關し天津軍は各国に
よる共同警護案を提出の意向について

天津 6月30日後発
本省 6月30日後着

第三四五號(部外秘)

奉山北寧兩線ノ連絡問題ニ關シ

北寧鐵路局長錢宗澤ハ軍司令官ニ會見方會^向ミ居タル處今般關東軍ニ於テモ聯絡實現方ニ贊同シ來レルヲ以テ近ク司令官ハ錢ト會見スル豫定ノ趣ナルカ司令部ニ於テハ唐山迄北寧線運行ノ實行手段トシテ先ツ問題ト成ル可キ鐵道警護ニ關シテハ各國軍參謀長會議ヲ開キ各國軍ニ對シ共同警護案ヲ提示シ若シ各國ニ於テ躊躇スルトキハ天津駐屯軍單獨其ノ任ニ當ル可キ案ヲ出ス豫定ナリト

駐屯軍單獨之ニ當ル可キ提案ノ理由トシテハ巷間一部ニハ北寧線開通困難ノ事態ニ關シ兎角我軍ノ態度ニ付疑惑ヲ抱

(メ)得タル支那側ハ前記般、雷ニ加フルニ李際春ト昵懇ナル薛之珩ヲ委員トシテ豫テ灤東問題ヲ擔任シ居レル關東軍喜多大佐立會ノ下ニ大連ニ於テ李際春ト直接交渉スルコトトナリ右支那側委員ハ本三十日ノ天津丸ニテ当地發大連ニ向フコトナレリ尙自分(岡田)ノ見ル所ニテハ本問題ハ解決ノ難點タル改編兵數ニ付銃器所持ノ兵ノミヲ標準トシテ支那側ノ主張スル三千人ト李際春ノ主張スル五千人ヲ折衷シ四千人ヲ限リトシ之ヲ丁強軍三千人秦皇島ニ蟠居スル石友三軍二千人ヲ振當テテ各保安隊ニ改編シ灤東地方ノ適當ノ個所ニ駐留セシムル程度ニテ多分纏ルニ至ルヘシ云々(本電出所部外秘トセラレタシ)

273 昭和8年7月3日 在天津桑島總領事より
内田外務大臣宛(電報)

北寧線復旧運行を支援するため天津軍は唐山
まで警乗実施の意向について

天津 7月3日前発
本省 7月3日後着

第三五一號

キ居ルヤノ節アルカ如キ處日本ハ同線ト奉山線カ聯絡シ首都海濱間交通維持方ニ付テハ深甚ノ關心ヲ有スルモノニシテ駐屯軍ノ使命ニ基キ且我方公正ナル態度ヲ披瀝セントスルニ外ナラスト説明スル復案ナリト

支、北平、南京へ轉電セリ

272 昭和8年6月30日 在天津桑島總領事より
内田外務大臣宛(電報)

李際春軍改編問題につき關東軍の仲介により
中国側と李との直接交渉開始決定について

天津 6月30日後発
本省 6月30日後着

*第三四八號

丁強軍等ノ始末ニ關シ關東軍ト折衝ノ爲本月十七日支那側ヨリ新京ニ派遣セラレシ殷[○]同[○]雷[○]壽[○]榮[○](中津武官モ支那側ノ依頼ニ依リ同行ス)ニ隨行シ此ノ程歸津セル岡田ユウミンノ極秘トシテ語ル所ニ依レハ關東軍側ニ於テハ支那側カ本問題ニ關シ關東軍ニ何等協議シ來ラサリシヲ却テ意外トシ此ノ際速ニ之カ解決ヲ見ルコトヲ希望シ居ル次第ヲ確カ

往電第三四五號ニ關シ

昨一日軍司令官ハ錢宗鐸^譯ト會見シ北寧線蘆臺、唐山間運轉開始ハ依然支那側ニ於テ處置スヘキモノニテ軍ノ關與スル限りニアラサルモ右不通ニ關シ兎角我軍部ノ態度ニ疑惑ヲ抱キ居ル向アルニ付此ノ際軍トシテハ積極的ニ右運轉ヲ援助スル次第ナリト建前ニテ同鐵道ニ於テ運行ノ準備成リ次第軍ハ當分ノ間(軍ニ於テハ約一週間位ニ見込居レリ)約一ケ中隊ノ兵力ヲ配シ唐山迄警[○]乘[○]セシムルコトニ決シ同鐵道ハ多分明三日ヨリ運轉ヲ開始スルニ至ルヘク尙唐山ニ於ケル奉山線トノ聯絡問題ヨリ進ンテ北寧鐵道ノ山海關迄運行等ノ問題ハ北寧鐵道ト關東軍及奉山鐵道トノ間ニ協議セラ[○]ルヘキモノニテ當地軍部ハ全然之ニ關與セサルコトトセリト又前記軍部ノ積極的援助ニ關シ軍ヨリ一應各國軍司令部ニ個別的ニ説明セル處佛伊ハ極メテ贊成ノ意ヲ表シ米國ハ默認ノ態度ナルカ英國ハ強テ反對ハセサルモ幾分猜疑ノ目ヲ以テ之ヲ見ルカ如ク看取セラレシ趣ナリ

支、北平、南京へ轉電セリ

昭和8年7月3日 在中国有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

宋子文帰国による反対勢力激化を懸念し我が方
援助増進方を黄郭切望との許卓然内話について

上海 7月3日後発
本省 7月3日後着

第三八五號(極秘)

數日前北方ヨリ歸來シタル許卓然二日有野ニ内話スル處御
參考迄左ノ通

一、現在華北ノ善後問題トシテハ李際春軍ノ處置、馮玉祥一
派ノ解決、各軍隊ノ整理統制、政費ノ調達等重要ナルモ
ノナルカ此ノ外黃郭ノ個人的關係ニ於テ中央ニ於ケル羅
文幹一派ノ反黃郭策動及宋子文歸國後ノ態度如何ハ政局
ノ前途ニ重大ナル關係ヲ來スモノトシテ黃ニ於テ多大ノ
注意ヲ拂ヒ居レリ

二、馮玉祥一派ノ反蔣態度ハ尙强硬ナルモノアリ西南派トノ
聯絡ハ主トシテ天津ニアル胡漢民ノ代表何世楨ニ依リ行
ハレ居リ西南派ハ停戰協定成立後約三十萬元、馮ノ第二
次反蔣通電前二十萬元ヲ馮ニ提供シタル由ナリ自分(許)

四 塘沽停戰協定善後交渉

五、羅文幹ハ停戰協定前後黃ニ宛テ二回書面ニ依リ協定反對
ノ電報ヲ寄越シタルカ黃ハ軍事當局ノ主管ナレハ干涉シ
得スト返電シ之ヲ突忽ネタリ目下中央ニ於ケル黃郭反對
乃至對日妥協反對組ハ林森、孫科、羅文幹、孔祥熙、王
正廷等ニシテ内羅ハ一時辭職ヲ決心シタルモ其ノ後顧維
鈞、顏惠慶、施肇基、郭泰祺ヨリ連名ニテ羅カ下野スル
ナラハ自分等モ進退ヲ共ニス可シトテ激勵ノ電報ヲ寄セ
タル爲羅ハ再ヒ出勤シ始メタル由ナリ

六、黃郭ハ以上ノ如キ情勢ニ加ヘ更ニ宋子文ノ歸國ニ依リ反
黃郭運動激化スル懸念アリ他面王克敏病氣ノ爲八月以降
ノ政費ハ今ニ調達ノ見込立タス又委員會内部モ各派委員
ノ足並揃ハス(黃ハ重要事項ハ汪榮寶及湯爾和ト相談シ
居ル由)統制ニ苦心シ居ル狀況ニテ前途ハ容易ニ樂觀出
來ス黃ハ今後日本側カ今一步ヲ進メ援助シ吳レンコトヲ
切望シ居レリ

本電内容發表セサル様致度シ
北平、天津、青島、濟南、南京、漢口、福州、廣東、滿ヘ
轉電シ上海ヘ轉報セリ

カ何及馮ノ代表ト數回會談ノ結果得タル處ニ依レハ兩者
ノ主張ハ蔣介石打倒、政權ノ開放、共產主義反對等ノ點
ヨリ一致シ居ルモ外部ニ宣傳セラレ居ル抗日主張ハ單ニ
反蔣ノ口實ニ利用シ居ルニ過キサル模様ナリ

三、現在北方各軍ノ數ハ山東軍及山西ノ閻ノ直系軍ヲ除キ于
學忠軍八萬(表面ハ六萬)王以哲、萬福麟、何柱國等ノ舊
東北軍十一萬、宋哲元六萬、龐炳勳二萬、徐永昌三萬、
傅作義二萬、商震三萬、馮占海(舊馬占山軍、多倫地方ニ
アリ)二萬、馮玉祥三萬、孫傳芳六、七萬、方振武二萬、
中央軍四萬、合計概算五十一、二萬ニシテ各軍トモ概ネ
停戰協定當時ヨリ若干増加シ居レリ其ノ内馮玉祥一派ノ
モノヲ除キ其ノ他ハ(全部中央ニ服從シ居ルモ將來ノ政
局ノ如何ニ依リテハ其ノ向背逆睹シ難ク之カ整理統整ハ
容易ナラサルモノアリ

四、各軍將領中于學忠ハ剛直ニシテ先般ノ華北獨立運動ニハ
韓復榘迄其ノ代表ヲシテ加盟調印セシメタルニ拘ラス于
ノミハ頑トシテ之ニ應セス之カ爲幾度カ暗殺セラレント
シタル位ニテ其ノ軍隊ハ目下北方ノ中堅タリ從テ之カ懷
柔聯絡ニハ黃郭モ最モ注意シ居レリ

275

昭和8年7月6日 在滿州国武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)

北寧・奉山兩鐵道連絡問題および李際春軍改編問
題に関する大連での当事者交渉の結果について

付記 七月六日付、関東軍司令部作成

「大連會議議事録」

新 京 7月6日後発
本 省 7月6日後着

第七二三號(極秘)

本官發支宛電報

第一九號

貴電第一五號ニ關シ

貴電漢字紙報道ハ一切虛報ニシテ五日午後左ノ通解決セリ
詳細ハ貴地駐在武官ニ就キ御承知相成度シ尙本件ハ日支雙
方共發表セサルコトニ打合アルニ付御含迄

(一)北寧、奉山兩鐵路聯絡問題ニ關シテハ兩鐵路當局者間ニ
(イ)關東軍力唐山、山海關ニ存在スル間ハ唐山ヲ聯絡驛ト
シ關東軍力長城線ニ歸還シタル場合ハ山海關驛若ハ秦皇
島驛ヲ聯絡驛トス(ロ)北寧鐵路ノ中英公司ニ對スル借款ハ

一八九八年ノ分ハ奉山局一九二一年其ノ他ノ分ハ北寧路ニ於テ負擔ス(ハ)奉天、北平間ニ一日一往復ノ國際列車ヲ成ルヘク速ニ運轉スルコト

(二)李軍整理問題ニ關シテハ(イ)四千人ヲ保安警察隊ニ改編シ豐潤縣、灤縣(鐵道沿線ヲ除ク)ニ配置シ隊長ハ李ニ於テ推薦ス(ロ)六千人ヲ芭蕉^{馬廠}ニ於テ解散ス解散費ハ北支政權ノ負擔(ハ)李ノ地位ニ對スル善後費ハコキシ^所ニ於テ解決ス(ニ)一ヶ月以内ニ總テノ整理ヲ完了ス(ホ)李軍ノ軍費ハ七月分ヨリ北支政權ニ於テ負擔ス

轉電先脱?

(付記)

大連會議議事録

昭和八年七月六日
關東軍司令部複寫

大連會議議事録

第一 救國軍整理ニ關スル件

昭和八年七月三日ヨリ同月五日ニ亘リ停戰協定ニ件フ救國軍整理問題ニ關シ北支政權代表雷壽榮、同殷同、同薛^薛之

五、本取極ハ速ニ實行シ遅クモ一個月以内ニ完了ス

實施要領ノ詳細ニ關シテハ別ニ協議決定ス

別紙第二

取極實施要領

取極實施ニ關シ左ノ通定ム

一、李軍ノ改編及解散スヘキ將兵ノ取捨ハ李際春ニ於テ責任ヲ以テ決定シ夫々名簿ヲ作成シ接收委員ニ交付スルモノトス之カ爲李際春ハ速ニ接收委員代表ト協議シ細部ノ計畫ヲ立案ス

二、保安警察隊ニ改編スヘキ人員ハ遅クモ七月二十五日迄ニ本取極ニ基ク地域ニ集合ヲ完了シ其ノ名籍ト共ニ戰區接收委員ニ交付シ接收委員李際春雙方協議ノ上改編ヲ爲スヘキモノトス

三、解散スヘキ人員ハ逐次馬廠附近ニ輸送シ同地ニ於テ裁撤スルモノトス

但シ關東軍ニ於テ承認セルモノハ現地ニ於テ解散スルモ差支ナシ

四、前項實施ニ當リテハ要スレハ接收委員ヨリ代表ヲ派遣シ

行ハ關東軍參謀長岡村寧次同參謀喜多誠一立會ノ下ニ李際春ト大連ニ於テ別紙第一、第二ノ取極ヲ爲ス

第二 鐵道接收ニ關スル件

昭和八年七月三日ヨリ同月五日ニ亘リ停戰協定ニ件フ北寧鐵路ニ關シ兩鐵路局關鐸、古山勝夫ト徐濟トノ間ニ別紙第三ノ取極ヲ爲ス

別紙第一

取極

一、李際春軍中優良ナル四千人ヲ選拔シテ保安警察隊ニ改編シ殘餘(六千人ヲ限度トス)ハ武裝ヲ解除ノ上裁撤ス

二、改編保安警察隊ハ河北省政府ニ隸屬シ其ノ總隊長ハ李際春ニ於テ推薦シタルモノヲ任用ス

三、前項保安警察隊ハ差當リ左ノ地點ニ駐屯セシメ專ラ訓練ヲ行フモノトス

豐潤縣 灤縣

但シ鐵道沿線ヲ除ク

四、李際春ノ地位(名義)及李軍ノ善後費ニ關シテハ薛^薛之^所於テ責ヲ負ヒ速ニ解決ス

之ニ立會ハシムルモノトス

五、裁遣ニ要スル經費ハ接收委員會ニ於テ負擔ス其ノ標準額ハ概ネ左ノ如シ

小銃 一銃ニ對シ完全ナルモノハ平均四〇元

拳銃 一挺ニ對シ完全ナルモノハ平均五〇元

馬 一頭ニ對シ 平均五〇元

兵卒 一人ニ對シ 二〇元

將校 一人ニ對シ 一〇〇元以下

六、李軍ニ要スル經費(糧秣ヲ含ム)ハ七月分ヨリ接收委員會ニ於テ發給ス

七、其ノ他ノ細部ハ雙方責任者間ニ於テ決定ス

別紙第三

奉山、北寧兩鐵路ニ關スル鐵道問題ノ商議事項左ノ如シ

一、北寧鐵路引渡方法

(1)關東軍カ唐山、山海關間ニ存在スル間ハ唐山ヲ連絡驛トス

(2)關東軍カ長城線ニ歸還シタル場合ハ山海關驛若ハ秦皇島驛ヲ連絡驛トス

(3)前記(1)及(2)ノ場合ニ於テ驛舎、ホーム、機關庫等列車運轉並營業ニ直接關係アル施設ハ現在ノ如ク共同使用ス
山海關ノ場合ハ別ニ定ム

三、山海關驛共同使用ニ關シテハ左ノ各號ニ依ルモノトス
(1)驛舎、ホーム、宿舍、機關庫其ノ他列車運轉並營業ニ直接關係アル施設ハ共同使用トシ現地ニ於テ兩鐵路局専門委員立會ノ上決定ス
其ノ時期ハ軍力長城線ニ歸還シタルトキトス

(2)山海關所在工場、學校、病院ハ北寧局ニ於テ使用スルモノトス

(3)本年一月以降山海關ニ於ケル北寧所屬各機關保持ノ爲奉山局ニ於テ支出シタル經費ハ奉山局ノ清算ニ基キ北寧局ニ於テ支拂フモノトス

三、北寧線修築經費ノ支拂
山海關―唐山間破壞施設ノ修築ニ要シタル費用ハ奉山局ノ清算ニ基キ北寧局ニ於テ支拂フモノトス

四、軍ノ使用期間中ニ於ケル收支計算
軍ノ使用期間中ニ於ケル收支ハ奉山局ノ清算ニ基キ左ノ如ク處理ス

奉山局ハ奉天交通銀行ヨリ直接右金額ヲ受領ス右支拂カ遲延シタ場合ハ年五分ノ遲延利息ヲ附スルモノトス
(3)一九二一年借款ハ七月分ヨリ北寧局ニ於テ全部支拂フモノトス

(4)中英公司ニ對シテハ別紙通告文ヲ奉山、北寧兩局ヨリ同日附發信スルコトトシ北寧局ハ別途了解ノ手續ヲ採ルモノトス

通知發送日ハ別ニ定ム

六、諸經費ノ支拂時期
前二、三及四ニ依リ奉山局カ北寧局ヨリ支拂ヲ受クヘキ諸經費ハ奉山局ノ作成セル清算書ニ基キ其ノ支拂通知發送後一個月以内ニ必ス支拂フモノトス

七、唐山驛ヲ連絡驛ト爲ス期間中ト雖第三國軍隊列車ノ秦皇島附近ニ至ルモノハ乗換ヲ爲スコトナク輸送ス又歸還ノ場合ハ北寧車輛ヲ廻送スルモノトス

此ノ場合ニ於ケル乗務員其ノ他ハ全部北寧持トシ列車運轉ニ就テハ山海關奉山司令ノ命ヲ受クルモノトス

八、奉山、北寧兩局ハ可成速ニ奉天北平間ニ國際直通列車ヲ運轉スルコト

(1)利益アリタル場合ハ北寧、奉山兩局ニ於テ折半シテ收得ス

(2)不足ヲ生シタル場合ハ北寧局ニ於テ填補スルコトトス

(3)開灤炭輸送ニ關スル收支ハ北寧鐵路ト開灤炭礦トノ舊契約ニ基キ別途協議ス

(4)山海關―唐山間ノ北寧從事員ノ俸給、給料ハ六月分迄全部北寧局ニテ支拂フモノトス

七月以降ハ軍ノ歸還ニ伴ヒ連絡驛ヲ境トシ唐山迄北寧線列車ノ運轉スル時ハ唐山ニ於ケル諸機關ニ北寧持トス以下之ニ準ス奉山、北寧兩局ニ於テ夫々支拂フモノトス

五、中英公司ニ對スル借款ハ次ノ如ク處理ス
(1)一八九八年借款ハ從來通奉山局ニ於テ負擔ス
(2)一九二一年借款及爾他ノモノハ北寧局ニ於テ負擔ス
但シ一昨年九月以降奉山局ニ於テ支拂タル金額ハ別表償還表ニ基キ本年八月ヨリ毎月末月割ヲ以テ辨濟スルモノトス

右辨濟ヲ確實ナラシムル爲北寧局ハ天津交通銀行ヲシテ支拂ノ保證ヲ爲サシムモノトス

右ニ對スル實施期日其ノ他細目ニ就テハ別途協議ス
大同 二年七月五日
民國二十二年七月五日

附 記

右覺書ノ實行ニ關スル細項ヲ打合ス爲將來ノ會商地ヲ奉天若ハ秦皇島ト豫定ス

中英公司ニ對スル通知文

拜啓 貴公司ノ有スル一九二一年借款ハ兩局ノ申合セニ依リ來ル七月分以降北寧局ニ於テ全部支拂フコトト致候間御了承相成度此段及通知候也 敬具
追テ一八九八年借款ハ從來通奉山局ニ於テ引續キ支拂可申候

中英公司代表殿

局 長

年 別	償 還 内 譯				摘 要
	元	金	利	息	
第一年度	四、〇〇〇	二、〇〇〇	五、〇〇〇	四、五八三三	
第二年度	四、〇〇〇	八、八〇〇	五、八〇〇	四、四〇〇〇	
第三年度	四、〇〇〇	六、六〇〇	五、六〇〇	四、二六六六	
第四年度	四、〇〇〇	四、四〇〇	四、四〇〇	四、〇三三三	
第五年度	四、〇〇〇	二、二〇〇	四、六〇〇	三、八五〇〇	
計	二〇、〇〇〇	三、〇〇〇	二五、〇〇〇		

276

昭和8年7月16日

在中国中山公使館一等書記官より
内田外務大臣宛(電報)

宋子文帰国後の旧東北系文武官僚の動向なら
びに華北政況安定のための必要資金などに関
する黄郭への質疑について

北 平 7月16日後発
本 省 7月16日後着

四 塘沽停戦協定善後交渉

ニ至リ蔣、汪ニ面會シ宋歸國後ノ中央ノ方針ニ付協議シ度
考ナルカ夫カ爲ニハ灤東問題ヲ夫迄ニ片付ケサレハ南京ニ
至リタル場合發言權弱キ次第ナルニ付同問題ノ解決ヲ急キ
居ル次第ナリト答フ
依テ小官ハ灤東問題ハ今日ノ模様ナラハ旬日ニシテ片付ク
可シト考フルモ北支全般ニ對スル政策ハ如何ニスル考ナリ
ヤト尋ネタル處黃ハ夫ハ裁兵ト農村救済トノ二ヲ平行實施
シ度考ナリ即チ裁兵スルモ農村救済ヲ實行セサレハ解散セ
ラレタル兵ハ生活ノ途ヲ失ヒ直ニ土匪トナル虞アルニ付之
ヲ併用スル要アリト言ヘルニ付小官ハ夫レニハ資金ヲ要ス
ルモノト存スル處其ノ資金ヲ宋ニ頭ヲ下ケ棉麥借款ヨリ分
讓ヲ得ルカ如キ方策ヲ取レハ結局北支ニ宋ノ發言權ヲ認メ
サルヲ得サルコトナル虞無キヤ右資金ハ大略幾何ノ豫定
ナリヤト尋ネタル處黃ハ裁兵ノミナラハ五千萬圓^(元)或ハ遣方
ニ依リテハ三千万圓^(元)ニテモ足ルト思考スルモ農村救済モ共
ニ之ヲ行フトスレハ一億圓^(元)ヲ要ス可シト言ヘリ
小官ハ假リニ右資金ノ調達ヲ外國借款ニ依ルトスルトモ提
供シ得可キ擔保アリヤト尋ネタル處實ハ適當ナル擔保無キ
ニ困リ居ル譯ナリト答フ

第三〇二號(極秘)

⁽¹⁾十四日黃郭ニ面會ノ節北支ノ形勢ヲ談シタルカ小官ヨリ黃
ニ對シ宋子文近ク歸國シ抗日空氣ノ再生ヲ懸念スル旨ヲ述
ヘ忌憚無ク言ヘハ貴下ニハ兵力ノ背景無ク周圍ニハ舊東北
系文武團體、例ヘハ萬福麟、張作相、何柱國、王樹常、于
學忠等ノ將領アリ又文官方面ニ於テモ貴下並何應欽ノ(外)
政府官吏ハ實際上舊東北系ノ殘黨ニシテ彼等ハ學良ト連繫
アル宋子文ノ歸朝ニ大ナル望ヲ抱キ居ルカ如ク現ニ過般ノ
崇文門大通ノ不法射擊事件ノ交渉ニ於テモ王樹常ノ處罰ニ
大ナル難色アリ又當方トノ聯絡ニ當リタル陶尙銘カ本官ニ
對シ柴山武官ノ着任ニ依リ日本側要求ノ緩和ヲ期待スルカ
如キ口吻ヲ洩ラシタル點等ヨリ見ルニ舊東北系ハ必スシモ
停戦協定ノ精神ニ依リ北支ノ局面ヲ維持セントスル希望ヲ
有スルモノト認ムル事ヲ得サルニ似タリ此ノ時ニ當リ宋カ
親米乃至聯盟ニ依賴シ抗日空氣ヲ煽ルカ如キ事アリトセハ
折角ノ貴下ノ努力モ充分其ノ效果ヲ發揮スルニ由ナカルヘ
ク日支國交上寒心スヘキ事柄ナリト思考スル處右ニ對スル
貴下ノ對策如何ト述ヘタル處黃ハ右諸點ヲ一々肯定シ宋ハ
八月七、八日歸國ノ筈ニ付夫迄即チ遅クモ本月末迄ニ南京

次ニ話頭ヲ轉シ宋ハ棉麥借款ノ外英國ニ於テ五百萬磅借款
ニ成功シタリトカ報セラルル處如何ト聞キタルニ黃ハ米國
ニハ物資アルモ歐洲ニハ物資ノ餘裕無ク借款ニハ現金ヲ以
テセサル可カラサル處今日ノ不景氣ニテ現金借款ハ不可能
ニシテ(以下外部ニ洩レサル様特ニ御注意ヲ請フ)現ニ黃カ
壽府及南京ニ有スル舊部下ヨリノ密報ニ依レハ右英國借款
ハ不成功ニ終リタル由ナリト答ヘタリ
支、滿、南京、天津ヘ轉電セリ

277

昭和8年7月24日

在中国中山公使館一等書記官より
内田外務大臣宛(電報)

中国側による戦区行政接收の開始について

付 記 七月十九日付、作成者不明

「唐山會議決議事項」

北 平 7月24日後発
本 省 7月24日後着

第三一八号

往電第三一六号ニ関シ

二十四日陶尙銘ノ内話左ノ通

一、戰区接收ハ東路ハ二十三日ヨリ開始セラレ唐山公安局ヲ
手初ニ引續キ本日ヨリ灤西各縣ノ接洽ヲ爲ス筈又灤東ハ
目下劉石蓀、石友三ト折衝中ナレハ遠カラス決定ヲ見ル
ヘク次ニ自分ノ擔當セル北路ハ自分カ二十五日各縣長ヲ
率ヒ密雲ニ赴キ鈴木旅團長ニ各縣長ヲ紹介シタル後二十
六日先ツ密雲、懷來ヲ接收シ追テ薊縣其ノ他各縣ニ及フ
筈ニテ恐ラク本月中ニハ兩路トモ接收完了ノ筈
ニ、右接收完了ノ上ハ灤州及密雲ニ行政督察公署(各縣知事
ヲ監督スル舊道臺ノ如キ機關)設置ノ筈ニテ自分及殷同
右督察員ニ擬セラレ居ルモ殷同就任ノ意ナキ爲(一語脱)
物色中ナルカ場合ニ依リ自分カ東路ニ廻ルヤモ知レス又
接洽ノ際同行ノ特殊警察ハ東路五百、北路四百名ニテ何
レモ平津兩公安局ヨリ一時借用セルモノニテ(各縣トモ
巡警離散セル爲其ノ集合ヲ待ツテ返還)右ノ外李際春ノ
保安隊ト同數ノ四千ノ保安隊ハ目下平津兩市ノ警察、憲
兵及軍隊側ヨリ編成中ナリ

(付記)

唐山會議決議事項

九月 五萬元(公表セズ)

又李軍ノ既往ニ於ケル地方借款ハ七萬五千元ヲ限度トシ
八月向フ六ヶ月ニ按分シ李際春ニ交付シ整理セシムルモ
ノトス

(三) 解散費ニ関スル件

(甲) 解散費中官兵解散手当十四萬元ハ北支政權ヨリ李際春
ニ交付シ責ヲ負ツテ解散ヲ實施セシム

(乙) 小銃拳銃、馬匹買上ゲニ要スル經費(豫算十萬元)ハ現
品ト引換ノ上發給ス

(註) (乙)ハ恐ラク實施ヲ見ル事ナカルベシト双方共ニ諒
解ス

(四) 編遣實施ニ関スル件

イ李際春ハ北平政權ヨリ左記金額ヲ受領セバ三日以内ニ
編遣ニ着手シ大連取極ノ期日内ニ之ヲ完了スルモノトス

(一) 李軍七月分軍費(兵員一萬人ニ應ズル軍費)

(二) 善後費十萬元(七月分交付ノ分)

(三) 解散費十四萬元

ロ李軍整理計畫左表ノ如シ

覺書

昭和八年七月十六、七日及十九日唐山ニ於テ北平代表雷壽
榮、薛之衍、李擇一、李軍司令李際春會商ノ結果李軍整理
ノ細部ニ関シ決定セル件左ノ如シ

本會商ニハ關東軍參謀喜多大佐(十九日ノ會商ニハ北平武
官柴山中佐モ)列席ス

(一) 李際春ノ名義及編遣處ニ関スル件

イ李軍ノ編遣、善後問題整理ノ爲當分ノ内唐山ニ編遣處
ヲ設ケ李際春ヲシテ委員長トス

(註) 「當分ノ内」トハ三ヶ月ヲ限リトシ本年八月ヨリ
起リ十月末迄トス但經費ハ五個月分ヲ發給ス(二十三
日決定)

ロ前項編遣處ノ經費ハ月額八千元ト定ム

ハ編遣處撤去以前ニ於テハ第一、第二保安總隊ノ經費ハ
編遣處ヲ經由シ交付スルモノトス

(二) 李軍善後費ニ関スル件

北平政權ハ李軍善後費トシテ李際春ニ交付スルモノトス

七月 十萬元

八月 五萬元

278

昭和八年八月(1)日

在天津田中(莊太郎)總領事代理より
内田外務大臣宛(電報)

北寧・奉山兩鐵道連絡實現のため唐山駐屯部

隊引揚など關東軍の好意的援助方銭宗沢北寧

鐵路局長要望について

天津

発

本省 8月1日後着

第三八四號(極秘)

北寧鐵路局長錢宗澤ハ一日日本官ニ友人トシテ聽カレ度シト
テ目下非戰地域接收ハ概シテ順調ニ進ミツツアルモ北寧鐵
道ハ依然トシテ北平、唐山間ヲ運轉シ居ルニ過キス同鐵道
カ平津地方歐米人ノ熱望ニ顧ミ北載河迄運轉ヲ延長セント
スルモ唐山ニハ何故カ尙關東軍一箇大隊殘リ居リテ同地以
東ハ日滿側ノ勢力範圍ナリトテ之ヲ許ササル已ナラス北平
唐山間ニ現在運行ノ列車及急行車數一日各一回發車ニ更ニ
特別急行車一回ヲ加ヘントスルニサヘ反對セラレ居リ尙唐
山ニ於ケル奉山線トノ聯絡モ東行二時間、西行五時間待チ
ヲ要スル實情ニテ聯絡モ殆ト名ノミニ過キス現ニ米國太平
洋艦隊ノ北支視察將校團八十餘名本日秦皇島着同地北平間

往復乗車ノ申入レヲ受ケタルモ支那側トシテハ途中ノ聯絡
其他ニ於テ到底斯ル旅行團ニ満足ヲ與ヘ得ル見込無キ爲引
受ケヲ躊躇シ居ル次第ニテ實ニ直接國際通路經營ノ任ニ當
ル自分ハ勿論接收事務ヲ主宰シ居ル黃郛ノ立場益々困難ヲ
加ヘ黃ノ如キ山海關迄ノ交通回復ヲ見サレハ單ニ地方行政
接收ヲ了セル已ニテハ直ニ南下シテ蔣介石ノ諒解ヲ得ル土
產トスルニ足ラス今後同人ノ北支ニ於ケル舉措ハ一層掣肘
セラルルモノニテ萬一之カ爲同人ノ南下遲延スル事月余ニ
モ及ハハ其ノ内宋子文モ歸國シ今後ノ日支關係ニ如何ナル
影響ヲ及ボスヤ計リ難ク關東軍側ニ於テモ今少シ大局ニ着
眼シ接收ノ問題ニ好意ヲ與ヘラレン事ヲ切望スル次第ニテ
其ノ間關東軍側ト北支駐屯軍側トノ意見不統一乃至關東軍
少壯軍人ノ自由行動等内部的ノ事情ニ累セラレ居ルモノア
ルヤニモ傳フル者アル處大局上甚タ遺憾ニ堪ヘサル成行ナ
リト内話セリ(出所部外秘扱セラレ度シ)

支、北平、南京、滿ニ轉電セリ

支ヨリ上海ニ轉報アリ度シ

ノ間ニ充分連絡取レ居ラサルニ非サト思ハルトノコトナリ
就テハ以上貴官限り御含ノ上支那側ニ對シ我方ハ接收ニ付
充分ノ好意ヲ有スルモノナルコトヲ告クル一方接收委員會側
ノ準備ノ進捗シ居ラサルコト及同委員會ト鐵路局トノ連絡取
レ居ラサルコト等ニ關スル我方ノ懸念ヲ可然說示スルト共ニ
今後ニ於ケル現地ノ推移ヲ注視セラレ結果隨時電報アリ

(アシタカ)

支、北平、南京、滿ニ轉電セリ

支ヨリ上海ニ轉報アリタシ

280 昭和8年8月(7)日

在天津田中總領事代理より
内田外務大臣宛(電報)

滿州國側は北寧・奉山兩鐵道連絡問題を承認
問題と関連させる内意ありとの北寧鐵路局長
内話について

天津 發
本省 8月7日後着

第三九三號
往電第三八四號ニ關シ

本七日更ニ錢宗澤ノ本官ニ内話スル所ニ依レハ地方行政モ

279

昭和8年8月3日

内田外務大臣より
在天津田中總領事代理宛(電報)

中国側の治安維持措置の遅延に対する懸念および
唐山駐屯部隊引揚に関する關東軍意向について

本省 8月3日發

第一三〇號(極秘)

貴電第三八四號ニ關シ

軍部ノ注意ヲ喚起シタル處軍側ニテモ戰區接收及北寧鐵路
運行回復ノ進捗ヲ希望シ居ル次第ニシテ唐山方面ノ關東軍
ハ速ニ引揚ノ方針ナルモ何分接收委員會側ノ治安維持等ノ
手配カ我方豫期ノ如ク速ニ進マサル一方改編後ノ丁強軍ノ
態度ニ付懸念アルヲ以テ天津軍ヨリ小部隊ヲ同方面ニ派遣
シテ丁軍ノ監視ニ任セシムルコトトシ(右ハ支那側モ希望
シ居ルコトナル由)右關東軍ノ引揚ヲ實行スル様既ニ手續
濟ナリ尙ホ右天津軍ノ派遣モ出來得ル限り短期間ニ止メ度
考ナルカ兎ニ角前記ノ如ク支那側ノ手配進捗セサル爲種々
手違ヲ生シ我方トシテハ迷惑シ居ル譯ニテ錢宗澤申出ノ列
車運行ノ件ハ敍上混雜ノ間ノ一時的現象ナルヘシト思ハル
尙ホ接收委員會側(錢ハ同委員會ニ屬シ居ルモ)ト鐵路局側ト

一縣ヲ殘シ全部接收ヲ了シ李際春ノ解決モ略々之ヲ終リ石
友三等ノ問題殘レルモ右ハ其ノ兵力少ナキヲ以テ左シテ困
難ナカルヘキ見込ナル處交通回復問題ニ付目下關東軍側幹
旋ノ下ニ北寧鐵道ハ奉山鐵道カ英國側ニ支拂ヘル約四百萬
弗ヲ即時奉山ニ返還スルコトヲモ承諾シテ山海關事件前ノ
狀態ニ交通ヲ回復セント主張シ居ルニ對シ奉山側ハ古山顧
問專ラ其ノ衝ニ當リ之カ交渉地點ヲ奉天トスルコトヲ確執
スルノミナラス頭ヨリ奉天北平間直通列車運行ヲ主張シ居
リ右奉山側ノ態度ハ直通列車運行協定及之ニ伴フ滿支關稅
問題協定等ヲ藉リテ巧ミニ支那側ヲ滿洲國承認ニ引寄せ
ントスル魂膽ナリト認メラレ從テ右ハ支那側ノ遽カニ應シ得
サル難問題ニシテ之カ爲メ山海關問題ノ交通回復ハ尙容易
ニ實現ヲ得サル狀態ニアリトノ趣ナリ

支、北平、南京、滿ニ轉電セリ

支ヨリ上海ニ轉報アリタシ

281

昭和8年8月7日

在中国中山公使館一等書記官より
内田外務大臣宛(電報)

馮玉祥問題解決に関する李振一の内話について

付記一

七月二十日発在中国柴山(兼四郎)公使館付武官補佐官より植田(謙吉)参謀次長宛電報北第七四六号

多倫撤退に当り日満軍が同地に進出しないよう馮玉祥要望について

二

八月十五日発在中国柴山公使館付武官補佐官より植田参謀次長宛電報北第八一一号

李守信軍の多倫占領に対し何応欽抗議について

北平 8月7日後発

本省 8月8日前着

第三二六號

馮玉祥問題ニ關シ李擇一カ館員ニ述ヘタル所左ノ通
蔣汪ノ客月二十八日附通電發出後馮ハ依然頑(固)ナル態度ヲ持シ居リタルモ其ノ後財政ノ窮乏同盟軍内部ノ不統一日滿軍ノ多倫方面進攻氣配見ユル等四圍ノ情況益々不利トナレルヲ以テ三日沙城ノ龐炳勳ヲ通シ中央ヨリ呈示ノ四項原則接受ノ意ヲ表示シ來レルヲ以テ何應欽ハ四日宋哲元トモ種々商議ノ結果宋ハ五日沙城ニ赴キ馮ノ代表修麟閣ト會見シ(一)馮ヨリ宋主席歸任セルヲ以テ軍政權一切ヲ宋ニ移管シ

名義取(脱)方ノ通電ヲ發スルコト(二)馮ハ成ル可ク張家口以南二住居シ世ノ疑惑ヲ一掃スルコト(三)宣化及同以南ノ軍隊ハ六日移駐スルコト(四)張家口附近ノ軍隊ハ一部ヲ除キ七日中ニ全部同方面ヨリ撤退スルコト(五)宋部ノ拳銃隊ハ六日宣化接防スルコト(六)張家口ハ双橋ニ現駐ノ三十七師馮治安部ヲシテ接防セシムルコト(七)六日以後察ノ軍政一切ヲ暫時修麟閣ヲシテ維持セシメ(脱)七項ノ解決辦法商議ノ結果圓滿諒解ナレルヲ以テ馮ハ即日何應欽宛完全ニ軍事ヲ結束シ

政權ヲ政府ニ返還スヘキニ付接收ノ爲派員方電報越スト共ニ更ニ六日全省宛察省主席宋哲元昨日歸任セルヲ以テ本日ヨリ察省一切ノ軍政權ヲ宋主席ニ移管スル旨ノ通電ヲ發シ着々前記辦法進行中ニ付一兩日中ニハ本問題モ解決ノ運トナルヘシ又馮ハ恐ラク宋ノ入張後衛隊ヲ率イテ張(北)方面ニ移駐スルコトトナルヘシ

支、滿、南京、天津、青島、濟南、漢口、廣東、奉天へ轉電セリ

(付記二)

北第八一號(其一—四)

十四日午後何應欽ヨリ非公式ニ小官宛左ノ要旨ノ抗議文ヲ提出シ來レリ張家口來電ニ依レハ三日正午李守信軍ハ多倫ヲ占領セル由ナルモ馮玉祥ハ既ニ今日察哈尔ヲ離レ民衆抗日同盟軍總司令部ヲ撤收シ既ニ軍政一切ハ中央ニ歸復セリ就テハ此際貴官ヨリ貴國政府及關東軍ニ傳達セラレ停戰協定ノ精神ヲ尊重シ以テ多倫ニ侵入セル李軍ヲ迅速ニ撤退シ和平ヲ維持セシメラレ度

二、右ニ對シ小官ハ關電第五八號ノ意ヲ体シ文書ヲ以テ次ノ如ク回答シ置キタリ御承認アリ度

貴翰敬承李守信軍ノ多倫回復ニ關シ關東軍ノ意見次ノ如クナルヲ以テ御了承ヲ請フ

李守信軍ハ元來多倫地方ヲ根據トスル察哈尔蒙古軍ニシテ其行動ハ極メテ穩健中正ナル自衛の團體ナルカ過般偶々共產系馮軍ニ逐ハレ熱河ニ逃避シ今同漸ク之ヲ奪回セルモノナルニ依リ同地方ノ治安維持ニハ適當ナル機關ナリト信ス特ニ該地方ニハ未タ共產系匪所在ニ横行著シク熱河省境ノ治安ニ脅威ヲ與ヘ而モ動モスレハ適時貴方ノ意圖ヲ入手シ難キ邊境ノ該地方ニ於テハ他ノ戰区ト

四 塘沽停戰協定善後交渉

(付記二)

二、右ニ依リ小官ハ多倫附近ハ熱河ノ治安維持ニ極メテ重大ナル關係ヲ有スル地理的關係ニ在ルヲ以テ自衛上必要ト認メラルルニ於テハ日滿軍ニ於テ之ヲ占據スルコトアルヘク而シテ右ハ何等停戰協定ノ趣旨ニ反スルモノニアラサルコトヲ篤ト説明シ之ヲ馮ニ傳達スル様通告セリ
關東、天津、濟南、上海、奉天、廣東、漢口、南京、ハ師スミ

北平 7月20日後発

参謀本部 7月20日後着

北第七四六號(其一、二)
一、本二十日馮代表ヨリ左ノ如キ申出アリ

馮ハ十三日ノ關東軍ノ抗議ニ鑑ミ多倫ヲ撤退スルコトニ決シ既ニ撤退ヲ開始セリ就テハ日滿軍モ多倫ニ進出セラレサランコトヲ希望ス該地方ノ治安ハ當分公安隊ニ於テ之ヲ維持ス

北平 8月15日後発

参謀本部 8月15日後着

同様ニ取扱ヒ得サル点有ルニ於テ益々然リトス是ニ由ツ
テ之ヲ觀ルモ當分該部隊ヲ多倫ニ駐屯セシメ置クコト却
ッテ停戰協定ノ精神ニ適ヒ且相互ノ和平ニ貢獻スル所大
ナルモノアリト信セラル、ニ依リ敢テ今直ニ他ニ移駐セ
シメントスル意圖ナシ

282 昭和8年8月10日 在中国中山公使館一等書記官より
内田外務大臣宛(電報)

黄郭に対する実力の援助を惜しまない旨および
我が方との連絡熱望につき閻錫山内話について

北平 8月10日前発
本省 8月10日前着

第三三〇號(極秘)

九日山西旅行ヨリ歸來セル原田ノ齋ラセル閻錫山ノ内話左
ノ通

「馮玉祥ノ問題ニ武力ヲ使用スル事ナク平和解決ニ決シ宋
哲元ノ察哈爾接收ニ依リ平穩裡ニ結束ヲ告グル事トナリ喜
ハシキ次第ナルカ只問題ハ宋子文歸來後ニ於ケル米棉借款
ノ使用方法ト聯盟技術援助トノ二ツノ點ナルカ折角黄郭ノ

本ノ事情明瞭トナレルヲ謝スルト共ニ今後日本通ノ部下ヲ
常ニ平津ニ派シ日本側トノ連絡ニ當ラシメ度キ希望ヲ申入
レタル趣ナリ

之ヲ要スルニ閻ハ韓ノ北支進出ヲ喜ハス實力の援助ヲシテ
モ黄ヲ援ケ北支ノ安定ヲ計リ度キ存念ナルヤニ見受ケラル
ルニ付今後共適宜接觸ヲ保チ之ヲ善導スル事機宜ニ適スル
ヤニ思料セラル

支、滿、南京、天津、青島、濟南、漢口、廣東へ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

283 昭和8年8月16日 在奉天峰谷總領事より
内田外務大臣宛

北寧・奉山兩鐵道連絡問題に関し奉天におい
て兩鐵路局による會議開催について

機密第七七〇號 (接受日不明)

昭和八年八月十六日

在奉天總領事 峰谷 輝雄
外務大臣伯爵 内田 康哉殿

努力ニ依リ好轉シカケタル日支ノ關係ヲ再ヒ惡化ニ導ク事
アラハ遺憾ニ堪エス

ニ自分ハ曩ニ黄郭ニ對シ河北ニ關スル希望條項トシテ(イ)政
治ノ整理(ロ)財政ノ整理(ハ)裁兵ノ三點ヲ擧ケ置タルカ黄ヨ
リ全然同感ノ意ヲ表シ來レリ山西トシテハ黃ノ遣口ヲ注視
中ナルカ馮問題解決ノ上ハ中央軍モ漸次南方ニ歸ルヘク其
ノ場合山西トシテ黃ノ仕事ヲ容易ナラシムル爲其希望アル
ニ於テハ(勿論日本ノ了解ヲ得ルハ申ス迄モナシ)實力の援
助モ敢テ惜マサル決心ナルニ付此儀日本政府並ニ黄郭側へ
内密御申入アリタシ云々

右閻トノ會見ニ先立ち秘書長賈景德ハ閻ノ意ヲ含ミ日本政
府ノ北支ニ對スル政策及日本カ韓復榘ヲ抱込ミ將來北支ノ
獨立ヲ計ラントスル企圖ヲ有スルニアラスヤ等種々探リヲ
入レタルヲ以テ原田ハ累次ノ御訓令ヲ体シ我方ノ公正ナル
立場ヲ適宜説明ノ上日本ハ平和的の戰爭タル反日ヲ依然繼續
スル向ニ對シテハ飽ク迄之ト抗爭ヲ辭セサルヘキモ然ラサ
ル向ニ對シ喜コンテ提携ノ方針ナル旨述ヘ山東ニ於ケル韓
ト我方ノ關係ニ對シ閻ノ誤解ヲ解キ置ケル趣ナルカ原田ノ
出發ニ際シ閻ハ更ニ親近者ヲ派シ原田ノ太原訪問ニ依リ日

昭和八年八月十六日附 栗原臨時代理大使宛往信寫送付
機密第四六九號

件名

「奉山、北寧兩鐵路連絡會議開催ニ關スル件

機密第四六九號

昭和八年八月十六日

在奉天總領事 峰谷 輝雄
在滿洲國

臨時代理大使 栗原 正殿

奉山、北寧兩鐵路連絡會議開催ニ關スル件

本年五月關東軍ノ關内進出ニ伴ヒ奉山線ニ於テ北寧線ヲ唐
山迄接收管理シ來リタルハ御承知ノ通ノ處七月三日ヨリ開
催セラレタル大連會議ノ結果山海關以南ノ北寧線ハ之ヲ北
寧側ニ返還スルコトナリ右ニ關スル細目協定ノ爲本月九日
十日ノ兩日ニ亘リ奉山北寧兩鐵路代表當地ニ於テ會商セリ
右會商ノ結果ハ大体

「山海關驛ニ於ケル諸般ノ施設中鐵道ノ運行ニ直接關係
アルモノ例ヘハ驛舍機關庫給水裝置等ハ之ヲ奉山北寧

- 四 議事
- 1 今回ノ會議ハ大連會議ノ連續ナルヲ以テ表面ハ奉山局ヲ其ノ當面ノ責任者トシタルモ實際ハ大連會議同様鐵路總局指導ノ下ニ議事ヲ進行セシメタリ
 - 2 北寧代表一行ハ八月五日山海關ニ著秦皇島ヲ會議地トシタキ旨申出テアリシモ當方ノ都合上奉天ヲ主唱シ奉山局古山參事ヲ派遣シ七日一行ヲ奉天ニ招致セリ
 - 3 第一日議事開始前列席者ノ外宇佐美總局長、後宮顧

參事 古山勝夫
事務員 甲斐壽見
通譯 錢 孫
北寧局側
殷 同
除 濟
陳 振
劉 鐘
葉 如璋
李 滿康
俞 偉
郭祕電係

兩鐵路ニ於テ共同使用スルコトトシ列車運行ニ直接關係ナキ諸施設即チ工場、學校、病院等ハ之ヲ北寧鐵路ニ返還ス

ニ、旅客列車ハ山海關ニ於テ接續聯絡ス

ニ、貨物列車ハ山海關驛狹隘ニ付秦皇島驛ニ於テ聯絡ス

ニ就テハ今回ハ北寧側ノ反對ノ爲協議纏ラサリシヲ以テ更ニ十月下旬當地又ハ天津ニ於テ會商協議スルコトナレル由ナリ

右報告ス

本信寫送付先 大臣、公使、北平、天津、錦州

~~~~~

昭和8年8月24日 在滿洲國<sup>（復方）</sup>麥刈大使より  
内田外務大臣宛

北寧・奉山兩鐵道連絡問題に関する兩鐵路局會議での協議狀況および申合せ事項について  
（接受日不明）

昭和八年八月廿四日  
在滿洲國特命全權大使 麥刈 隆

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

奉山北寧兩鐵路引繼會議ニ關スル件

奉天發閣下宛公信本月十六日附機密第四六九號所報ノ件ニ關シ今般關東軍司令部ヨリ入手ノ別紙調書「奉山北寧兩局代表者ノ北寧線引繼打合セ會議狀況並申合せ事項ニ關スル件」御參考迄ニ茲ニ送付ス

本信寫送付先 在支公使、北平、天津、錦州

（發表禁止）

奉山、北寧兩局代表者ノ北寧線引繼打合セ會議狀況並申合せ事項

昭和八年八月十四日  
關東軍司令部<sup>（復方）</sup>復寫

奉山、北寧兩局代表者ノ北寧線唐山―山海關間引繼打合セ會議狀況

一 會議日次 八月八日及九日

二 場所 奉天鐵路總局長公館

三 會議列席者

奉山局側 局長 闕 鐸

- 間、小須田奉山局代表顔合セヲナセシモ會議開催前退席セリ
- 4 議事ハ第一日第一、列車運轉引繼第三、清算第四、關東軍ノ軍需品輸送第五、連絡及國際直通列車ノ順序ニ概ネ豫期ノ如ク進捗シタルモ第二ノ奉山北寧兩鐵路接續驛ノ處理ニ於テ秦皇島ヲ貨物接續驛トスルコトニ關シ北寧側ヨリ強硬ナル反對意見アリ當方ノ主張ト相容レス第一日ノ會議ハ其ノ儘翌日ニ持ち越セリ
  - 第二日先方ヨリ秦皇島驛ヲ貨物積換ヘ驛トスヘキ覺書交換ノ妥協案ヲ提出セリ當方ハ本案ニ依ルモ實效ヲ治ムルニハ差支ヘナキヲ以テ之ヲ容認セリ
  - 又諸施設ノ使用區分並現業員歸屬問題モ相當紛糾セシモ折半主義ヲ認メテ午後六時會議ヲ終リ午後八時日文及漢文二通ノ議事録ヲ手交シ結著セリ
  - 5 會議申合せ事項
- 別冊ノ通 <sup>（復方）</sup>（日、漢文各一通）

北寧線引繼ニ關スル奉山、北寧兩局ノ申合せ事項

大同二年七月三ヨリ五日ニ亘ル大連會議事錄ニ基  
民國二十二年

キ北寧線引繼ニ關シ八月八日及九日兩日ニ亘リ奉山鐵路局  
關鐸ト北寧鐵路局徐濟トノ間ニ於テ左ノ事項ノ打合ヲ爲セリ  
第一 列車運轉引繼

一 大同二年、民國二十二年八月十二日ヲ限リ奉山局ハ  
北寧線ノ列車運轉及營業取扱ヲ停止シ此ノ日ヲ以テ引  
繼當日トス

二 運轉停止後殘務整理ノ必要アル奉山局員ハ各驛段ノ  
業務完了スル迄殘留ス、北寧局員ハ進ンテ之ヲ援助シ  
引繼ノ完了ヲ期スルモノトス

三 奉山列車運轉停止後奉山車輛ノ殘留セルモノアル時  
ハ北寧局ハ最近列車ニ連絡シテ之ヲ山海關驛ニ廻送ス  
ルモノトス

四 各驛、段ノ引上ゲニ當リ殘留物品其ノ他奉山局所屬  
物件ニシテ山海關宛輸送ヲ必要トスルモノアルトキハ  
北寧局ハ責任ヲ以テ之カ輸送ヲ爲シ山海關奉山站長ニ  
引渡スモノトス

五 奉山列車運轉停止日(八月十二日)ノ翌日ヨリ北寧局

ノ費用ハ兩局折半負擔スルモノトス

七 山海關驛ノ旅客貨物接續驛トシテノ所要設備ハ可及  
的速ニ北寧局ニ於テ實施スルモノトシ其ノ細目ニ付テ  
ハ兩局ニ於テ協議決定スルモノトス

八 山海關ニ於ケル諸機關ノ引繼月日ハ八月十二日トス

### 第三 清算

奉山局ハ諸機關ノ引繼當日ヲ以テ締切ヲ爲シ大連協定第  
六項ニ基キ清算ヲ爲スモノトス

### 第四 關東軍軍需品輸送

從來奉山局ニテ實施中ナリシ灤縣ニ至ル關東軍軍需品輸  
送ニ關シテハ左記ニ依ルモノトス

(一) 奉山車輛ノ直通輸送ヲ爲スコト

(二) 軍ハ必要ニ應シ宰領者ヲ附スルコト

(三) 運賃ハ從來通トシ(關東軍カ奉山線ニ支拂ヒ來リシ  
運賃率)奉天局ヨリ毎月北寧局ニ支拂フコト

### 第五 連絡及國際直通列車

大連會議ノ協定ニ基キ兩局ハ速ニ兩路ノ連絡運輸及國際  
直通列車運轉ノ準備ヲ進メ大同二年、民國二十二年十月  
中ニ奉天又ハ天津ニ於テ打合會議ヲ開催スルコトヲ約ス

ハ引繼區間ノ列車運轉營業ヲ開始スルモノトス  
但シ十二日中ニ北寧所屬空客車二箇列車ヲ秦皇島迄廻  
送スルモノトス

### 第二 奉山、北寧兩鐵路接續驛ノ處理

一 山海關驛ヲ以テ旅客、貨物ノ接續驛トス

二 山海關ニ於ケル運轉營業諸施設ハ共同使用トシ其ノ  
業務ハ各局ニ於テ取扱フモノトス

三 山海關ニ於ケル諸施設ノ使用區分ハ事半ノ原則ニ基  
キ別圖(第一乃至第四號)ニ示ス如シ

但シ宿舍ニ就テハ現状ヲ考慮シ兩局互讓的ニ彼此融通  
スルモノトス

四 現ニ關東軍其ノ他ニ於テ使用中ノ兵舍、事務所、病  
院、宿舍等ハ當分ノ間現状ノ儘トシ逐次鐵道ニ返還ス  
ルモノトス(別圖第五號)

五 山海關ニ於ケル諸作業ニ從事スル現在員ハ(奉山線  
固有ノモノヲ除ク)折半シテ兩局ニ歸屬スルモノトス

六 山海關ニ於ケル諸施設ノ改築補修ハ第二ノ(三)ニ示ス  
使用區分ニ從ヒ各局之ヲ分擔スルモノトス

但シ共通使用部分ノ補修ハ北寧局ニ於テ之ヲ施行シ其

大同二年八月 日

民國廿二年八月 日

### 附 則

一、北寧局ハ關東軍ノ撤退ニ伴ヒ之ニ交代スヘキ北支那駐  
屯軍ニ對シ從來ノ關東軍ニ準シ便宜ヲ供與スルモノトス

二、北寧局ハ現ニ山海關工場ニ註文中ノ物件ハ豫定期日迄  
ニ現在ノ請負價格ヲ以テ完成ノ上奉山局ニ引渡ヲ爲ス  
モノトス

奉山局ハ此ノ期間工作監督者ヲ同工場ニ派遣シ置クモ  
ノトス

三、兩鐵路局ハ一般旅客ノ便益ヲ考慮シテ連絡列車時刻表  
ヲ作成スルモノトス

大同二年八月 日

奉山鐵路局長

北寧鐵路局長殿

山海關驛設備不完全ニシテ貨物ノ積換困難ナルニツキ奉山  
線發北寧線ニ積換輸送サルヘキ貨物ハ秦皇島ニテ積換ヲ爲  
スコト(之カ反對ノ場合又同シ)ニ御高配相煩度此段照會得

貴意候也

民國二十二年 月 日

北寧鐵路局長

奉山鐵路局長殿

八月 日附ヲ以テ御照會相成候山海關驛設備不完全ニシテ貨物ノ積換困難ナルニツキ奉山線發北寧線ニ積換輸送サル可キ貨物ハ秦皇島ニテ積換ヲナスコト(之カ反對ノ場合亦同シ)ニ關スル件當局ニ於テハ異存無之候條此段及同答候也

285 昭和8年8月29日

内田外務大臣より  
在中国有吉公使宛(電報)

滿州国内の反政府匪賊に対する中国側の武器供給および密使派遣は同国治安を攪乱し塘沽停戦協定違反のため外交部に嚴重警告方訓令

第一七〇号

本省 8月29日後4時發

関東軍カ大孤山方面ニ於テ匪賊討伐中鹵獲セル武器ノ中最近支那ヨリ密輸入セラレタルモノナルコト明ナル昨年十月南京兵工廠製造ノ迫撃砲彈多數ヲ發見セルカ更ニ同地附近

286 昭和8年9月2日

在中国矢野大使館參事官より  
内田外務大臣宛(電報)

我が方との密接な連携保持のため閻錫山部下派遣について

北平 9月2日前發

本省 9月2日後着

第三五一号

往電第三三〇号末段ニ関シ

閻錫山ハ自己ノ信任スル日本通山西川<sup>○</sup>至醫學專門學校長靳瑞<sup>○</sup>ヲ簡派シ來リ本官ニ對シ今後我方ト密接ノ連繫ヲ取り度旨申出デタルカ其ノ際靳ノ口吻ニ依レハ閻ハ華北ニ於ケル我方ノ態度及殊ニ察哈爾ニ於ケル軍部ノ特殊工作ニ関シ氣懸リノ體ナリヤニ察セラレタルヲ以テ篤ト我方ノ公明ナル立場ヲ説明シ置ケリ  
尙靳ハ閻カ將來察哈爾ニ於テ共產黨蔓延ノ場合日支双方ニ討伐スルコトヲモ考慮スル時期ニ至ルヤモ知レサル旨語り居タリ

ニ於テ滿洲國擾乱ノ目的ヲ以テ南京政府ヨリ派遣セラレタルコト確實ナル証據物件ヲ所持スル密使(陸軍將校)二名滿洲國官憲ニ逮捕セラレ同人等ノ自白ニヨレハ他二同一目的ヲ以テ派遣セラレタルモノ數十人ニ達スル趣ナリ  
(關係書類堀内書記官ニ托送セリ)

就テハ至急外交部長ニ對シ右武器ノ密輸入並ニ密使ノ派遣ハ滿洲國ノ治安ヲ攪乱セムトスル意圖ニ出テタルコト疑ナク明カニ北支停戦協定ノ辭句(同協定第一條第二項)及其精神ニ抵觸スルモノニシテ我方ノ極メテ重大視スル所ナリ仍テ斯種行為ヲ一切停止セラルト共ニ各方面ニ對シ嚴重取締ヲ加ヘラレルコトヲ要求ス今後右停戦協定ニ違反スル右様ノ事實反覆セララルニ於テハ我方ニ於テモ之ニ對シテ對抗手斷<sup>豫</sup>ヲ講スルノ必要ニ迫ラルベク其ノ結果ハ必スヤ重大事ヲ招來スヘク其場合ノ責任ハ貴方ニ於テ負フヘキモノナルコトヲ嚴重警告スル旨申入レラレ度(尙ホ本件申入ハ此ノ際前記事件ヲ荒立ツルヨリハ寧ロ將來ニ對スル警告ニ重キヲ置ク次第ナルニ付右貴公使限り御含置アリ度)

287 昭和8年9月2日

在中国矢野大使館參事官より  
内田外務大臣宛(電報)

宋哲元引継ぎ後の張家口治安状況および宋の我が方領事館復歸要請について

付記 十月十四日付在張家口橋本(正康)領事館事務

代理より広田外務大臣宛公信機密第八〇号

右領事館復歸後の対日風潮の好転について

北平 9月2日後發

本省 9月2日後着

第三五三號

張家口ニ出張セル橋本書記生ノ報告ニ依レハ皇軍熱河討伐以來劉桂堂、李守信等ノ察哈爾省東部地方ニ於ケル活動及馮ノ抗日軍組織等ニ依リ奥地ヨリ張家口ニ避難シ來レル者住民ノ同地ヲ引揚クル者アリ混雜ト不安トノ間ニ張家口市街ノミハ辛フシテ其ノ治安維持セラレ多少市況ノ衰微ヲ見タルノミナリシモ八月十一日宋哲元部(第二十九軍第三十八師約一萬五千)ハ同盟軍ヨリ平穩裡ニ引繼ヲ完了シテ嚴格ナル規律ノ下ニ掠奪等ヲ行ハス市中ノ警戒ヲ嚴ニシ所謂義勇軍潛入ノ餘地ナカラシメ斯クテ治安維持ノ點ハ遺憾ナ

ク一般住民ハ大ニ安堵シ居レリ又行政機關ノ首腦部ハ從來東北系ノ人物ナリシモ宋ハ是等ヲ全部自己直系ノ人物ニ代ヘ張觀一(鐵嶺縣人ニシテ我方ト交渉ノ衝ニ當レル人物)ノミハ京大出身ノ故ヲ以テ之ヲ留メ置ケルカ如キ宋ノ對日關係ヲ重視セルヲ證スヘク抗日「ボスター」ノ如キモ宋ノ來張ト共ニ全部除去セラレ邦人旅行者ノ保護モ從前ヨリモ一層嚴重ニ行ハレ居レリ宋モ橋本ニ對シ領事館ノ復歸ヲ希望スルト共ニ邦人ノ保護ニハ全力ヲ盡ス可キ旨言明シ居レルヲ以テ此ノ際張家口領事館ノ復歸ハ何等差支ナシト觀測セラル(領事館及在留邦人留守宅ノ保管モ比較的完全ナル由)且ツ目下當地引揚中ノ居留民ハ領事館復歸ト共ニ原地歸還ヲ希望シ居ルノミナラス同地方ノ秩序回復ト共ニ來住希望ノ邦人モ鮮カラサル趣ナルト新事態ニ於ケル張家口ノ重要性ニ鑑ミ再開ニ際シ速ニ正式領事ヲ任命セラルル外露語ニ通セル書記生ヲモ増派スルコト極メテ事宜ニ適スト思考セラル從テ警察官ニモ署長及署員ノ充實ヲ急務トスヘク右御證議相成様致度シ

支、天津、南京、滿ニ轉電セリ

領事館建物器具保管ニ對スル支那側ノ盡力ヲ謝スル爲メ主席夫妻以下支那側要人三十餘名ヲ招待シタルカ右支那側トノ來往並ニ兩度ノ宴會ニ於テ特ニ看取セラレタルコトハ從來支那側カ當領事館ニ對シ不離不即ノ態度ニアリタルニ反シ今回ハ努メテ我方ニ接近セントスル傾向顯然タルコトナリ尙開館當時ニ於ケル在留邦人トシテハ内地人二戸鮮人二戸計四戸十四名アリ鮮人ハ何レモ事件中引續キ殘留シタルモノ又ハ内地人ハ開館ニ先立チ來住シ居リタルモノニシテ開館ト同時ニ來住シタルモノナシ

又今回支那側ヨリ引渡ヲ受ケタル領事館建物器具ハ引揚中再三支那側責任者ヲ異ニシタルニ拘ラス完全ニ保管セラレアリ各室ハ施封ノ儘何等異狀ヲ認メス從ツテ紛失等ノコトナシ只約七ヶ月間施封ノ儘放置セラレ居リタルヲ以テ雨漏及濕氣ノ爲メ天井壁等ノ汚染シタル箇所少カラス又水管電線等ニ腐蝕毀損セラレタルモノアルヲ見受ケタリ

右報告ス

本信寫送付先

在支公使 北平中山書記官

~~~~~

(付記)

機密第八〇號

(10月26日接受)

昭和八年十月十四日

在張家口

領事館事務代理 橋本 正康(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

領事館復歸狀況ニ関スル件

本月七日本官帰任ノ上執務ヲ開始シタルコトハ既報ノ通りナル處領事館再開當時ノ狀況左ノ通り

七日未明本官斜木巡查及北平ヨリ應援ノ國吉巡查ト共ニ着任直ニ支那側ニ對シ其保管ニ係ル領事館建物器具ノ引渡方ヲ申入レ同日午前中ニ支那側派遣員立會ノ上其引渡ヲ受ケ即時領事館ヲ再開セリ

察哈爾省政府ニ對シテハ公文ヲ以テ再開ノ通知ヲ爲スト共ニ九日主席宋哲元以下各廳長其ノ他ヲ歴訪シテ開館並ニ着任ノ挨拶ヲ述ヘタリ

翌十日宋主席ハ歡迎旁本夏新任シタル文武各機關首腦者紹介ノ意味ニテ在留外人中重ナルモノ約二十名ヲ陪賓トシテ本官ヲ招待シタルヲ以テ本官ハ十三日之力答禮旁引揚中ノ

288

昭和8年9月5日

内田外務大臣より
在滿州國菱刈大使宛(電報)

関東軍が作成した塘沽停戦協定善後処理方針

への陸軍省回訓案に対する要望事項について

別電 九月五日發内田外務大臣より在滿州國菱刈大使宛第七八二號

右陸軍省回訓案

付記 八月三十日起案高裁案、作成局課不明

「滿洲國ト北支政權トノ交渉ニ関スル件」

本省 9月5日後6時15分發

第七八一號

先般関東軍原田第三課長歸朝ノ節関東軍ニ於テハ北支停戦協定ニ伴フ善後處理ニ関シ北政權ト滿洲國トノ間ニ國境、通商、交通、通信等ノ諸問題ヲ解決センコトヲ企圖シ居ル趣ヲ以テ陸軍中央部ト意見ノ交換アリタル由ナルカ今般陸軍省ヨリ関東軍ニ對シ別電第七八二號ノ如ク電報シ度趣ヲ以テ協議越ノ次第アリ仍テ「本件交渉ハ帝國ノ對支外交ト緊密ナル關係アルヲ以テ該交渉ニ關係アル事項ニ付テハ東京ニ於テハ陸軍省ト外務省トノ間ニ又新京ニ於テハ関東軍

ト在滿大使館トノ間ニ又必要ノ場合平津ニ於テハ同地方陸軍機關ト外務機關トノ間ニ常ニ協議スヘキモノナリ」トノ趣旨ノ諒解ノ下ニ右電信案ニハ其ノ末尾ニ「又本交渉ハ帝國ノ對支其ノ他ノ外交政策ト緊密ナル關係アルニ付貴地ニ於テモ大使館側ト常ニ密接ナル連絡ヲ執ラレ度」トノ辭句ヲ附加シ同意ヲ與ヘ置キタリ

(別電)

本省 9月5日後9月30分發

第七八二号

北支停戰協定ニ伴フ善後處理ニ関シ貴軍ニ於テ北支政權ト滿洲國トノ間ニ國境通商交通通信等ノ諸問題ヲ解決セント企圖セラレアル處本件ニ関シテハ左記ノ方針ニ準據スルコト然ル可シト存セラルルニ就キ御了承ノ上具体的研究ヲ進メラレタシ

一、本交渉ノ主眼ハ實質的ニ滿洲國ト北支那間ノ通商交通通信等ヲ恢復シ成シ得レハ之ニ關聯スル諸問題ヲ解決スルニアリテ之ニヨリ北支政權及一般民衆ヲシテ親滿親日ノ有利且必要ナルヲ認識セシメ進ンテ日、滿、支親善ノ一階梯ヲ

政局ノ推移北支政權ノ立場等全般的考慮ヲ加フル要アルニヨリ豫メ当方ト充分ナル打合せアリタシ
本電外務ト打合濟ミ

(付記)

滿洲國ト北支政權トノ交渉ニ関スル件

(昭和八年八月三十日)

先般關東軍司令部原田第三課長歸朝ノ節關東軍ニ於テハ北支停戰協定ニ伴フ善後處理ニ関シ北支政權ト滿洲國トノ間ニ國境、通商、交通、通信等ノ諸問題ヲ解決センコトヲ企圖シ居ル趣ヲ以テ(別紙甲号参照)陸軍中央部ト意見ノ交換アリタル由ナルカ今般陸軍省ヨリ關東軍ニ對シ別紙乙号(朱書未記入ノ分)ノ如ク電報シ度趣ヲ以テ外務省ニ協議越ノ次第アリ
就テハ別紙丙号ノ諒解ノ下ニ右電信案ニハ別紙乙号(朱書記入ノ分)ノ通りノ訂正ヲ加フルコトトシ同意スルコトト致度
右仰高裁

(別紙甲号)

四 塘沽停戰協定善後交渉

ラシムルヲ本旨トス

三、本交渉ニ当リ支那側ヲシテ名實共ニ滿洲國ヲ承認セシムルコト希望スル處ナルモ斯クテハ交渉ノ成立至難ナルヲ思ハシムルモノアルニ依リ此ノ際ハ寧ロ支那側ヲシテ實質的ニ滿洲國ノ存在ノ事實ヲ認容セシムル如ク指導ス但シ苟モ滿洲國ヲシテ自ラ一地方政權タルカ如キ態度ハ絕對ニ採ラシメサルヲ要ス

三、河北省方面ノ滿支國境線ヲ長城線トナスコトハ從來滿洲國ニ於テ主張シ且帝國ノ支持シ來レル處ニシテ滿洲國ノ版圖ヲ長城以南ニ擴張セントスルカ如キ企圖ハ一切差控フルヲ要ス而シテ長城ニ接續セル外側地帶ニ國境ニ於ケル諸般ノ事項ヲ處理スルタメ又ハ經濟上ノ便益ノタメ必要ナル滿洲國側機關ヲ配置スル等滿洲國ノ權益保全上必要ナル事項ハ主權ノ存在トハ別個ニ速ニ之ヲ合法化スルニ努ム

四、交通通信等ノ復活航空路ノ設定等ハ滿洲國政府ト北支政權トノ間ニ協定スルコト素ヨリ之ヲ希望スル處ナルモ已ムヲ得サレハ滿洲國ノ地方官廳又ハ會社等ト支那側間ノ地方的又ハ業務的取極等トシテ成立セシムルコト一案ナルヘシ尙本交渉ノ範圍、交渉ノ要領、着手時機等ニ関シテハ支那

「停戰ニ関スル協定」ニ伴フ善後處理要領

(關東軍第三課ノ試案)

第一、方針

一、對北支政權協定ハ北支政權ヲシテ實質的ニ親滿親日ノ有利且必要ナルコトヲ認識セシメ進テ日滿支親善ノ一階梯ヲラシムルヲ本旨ト爲ス

二、本協定ハ已ムヲ得サレハ当初關東軍之ニ当ルト雖漸次滿洲國對北支政權協定ニ轉移セシムルコトニ努ムルモノトス
三、本協定其ノ他ノ取極メヲ爲スニ當リテハ有ユル機會ヲ利用シ名實共ニ滿洲國ヲ承認スルニ至ラシムルコトニ努メ苟モ滿洲國ヲシテ自ラ一地方政權ニ甘ンスルカ如キ態度ヲ取ラシメサルヲ要ス

第二、要領

一、國境

長城ノ線ヲ以テ滿洲國及北支行政地域ノ境界ト爲ス
(長城ノ線ヲ以テ熱河、奉天省及北支行政地域間ノ境界ト爲ス)

長城線ハ滿洲國(熱河、奉天省)側ニ含ムモノトス
長城南側及西側ニ接續スル部落ニハ各境界ニ於ケル諸般

ノ事務ヲ處理スル爲必要ナル滿洲國側ノ機関ヲ設置ス
ニ、山海関方面ノ問題

山海関方面ニ於テハ石河ノ線ヲ以テ兩國ノ境界ト爲シ関稅其他國境取締上ノ便益ヲ享有セントスルハ最モ希望スル所ナルモ侵略政策ノ誤解ニ基キ他日ノ工作ニ不良ノ影響ヲ與ヘシメサラシカ爲國境ヲ石河ノ線ニ推進スルコトヲ固守セス寧ロ當該地方住民ヲ指導シテ滿洲國編入運動ヲ起サシメ自然ノ裡事實上ニ於テ問題ヲ解決スルニ至ラシム但シ関内ニ稅関其他ノ機關ヲ設置スルコトニ関シテハ兩國通商貿易上ノ問題トシ國境問題ト切り離シテ相互協定スルコトトス

三、相互水陸兩路(海港相互間ヲモ含ム)ニ依ル通商貿易ヲ復活ス瀾河ハ國際河川トシテ兩國ノ自由航行ニ委スルモノトス特ニ瀾河ノ水運及各通路ニ依ル熱河地方ヘノ物資供給ヲ妨害スルコト無カラシム

四、相互ノ郵政ハ現ニ山海関ニ於テ實行シアル連絡業務ヲ更ニ擴張シ且連絡地域ヲ擴大ス

五、相互間ニ於ケル電信電話連絡ヲ復活ス

六、滿洲ト北支間ニ航空路ヲ開設ス

289

昭和8年9月7日 在中国矢野大使館參事官より
内田外務大臣宛(電報)

黄郭の北平公安局長更迭意図および東北系將領の更迭撤回運動に關し商震内話について

北平 9月7日後發

本省 9月7日後着

第三六〇號

七日商震カ原田ニ爲セル内話

一、廬山ニ於ケル蔣、汪、宋ノ會議ハ大體順調ニ進ミ居リ右ハ今同突如發令ヲ見タル公安局長ノ更迭ニ依リ立證セララルル次第ニテ即チ奉天派ノ鮑ヲ馘首シ蔣派ニシテ黄郭ト同鄉關係ニ在ル余(六日來平セリ)ヲ拉シ奉天派ノ勢力ヲ殺キ以テ北方ノ整理ヲ容易ナラシメトスル黄郭ノ方寸ニ出テタルモノニテ黄ハ多分宋ト入レ代リテ再度廬山ニ赴キ財政其ノ他ニ付蔣ト最後ノ接洽ヲ遂ケ本月十五六日頃北上ノ事トナル筈

二、鮑毓麟ノ免職ハ突然政治會議ニテ通過發表ヲ見タル爲東北派ニ鮮カラサル衝動ヲ與ヘ五日王樹常、萬福麟、王以哲、何柱國ノ四名ハ連袂何應欽ヲ訪レ其ノ免職撤回方ニ

七、北支那ニ於ケル反滿抗日運動竝滿洲國內ニ於ケル同國境亂ノ企圖ヲ一切禁止ス

八、以上各項ノ細部ニ関シテハ各専門委員ヲシテ協議セシメ速ニ實行ニ移ラシム

(別紙丙号)

一、本件交渉ハ我方指導ノ下ニ滿洲國政府之ヲ行フコトヲ原則トス但シ滿洲國政府表面ニ立ツコト交渉ノ目的達成上不利ナル場合ニハ同國ノ地方官廳又ハ會社等ト支那側トノ間ニ交渉スルモノトス

二、本件交渉ハ帝國ノ對支外交ト緊密ナル關係アルヲ以テ該交渉ニ關係アル事項ニ付テハ東京ニ於テハ陸軍省ト外務省トノ間ニ又新京ニ於テハ關東軍ト在滿大使館トノ間ニ又平津ニ於テハ同地方陸軍機關ト外務機關トノ間ニ常ニ協議スルモノトス

編注 別紙乙号は内田外務大臣より在滿州国菱刈大使宛電報第七八二号と同文のため省略。なお本高裁案は写

のため朱書記入部分は判明しない。

付懇請シタルモ何ヨリ既ニ政治會議ヲ通過ノ事ニモアリ撤回ノ至難ナル可キヲ諒サレ引下リタル模様ナルカ右東北軍首領ノ行動ハ必スシモ鮑ノ爲ニ非スシテ前車ノ覆ルヲ見テ後者タル自己ノ身ニ備ヘントスル行動ニ過キス尙鮑ノ今後ノ地位ハ蔣ヨリハ事前ニ何應欽ニ對シ軍事委員會委員ト爲サン事ヲ電照シ來レルモ何ハ軍事委員會委員ハ地位高キニ失ストテ同會參議ニ推薦セルカ右ハ今尙決定セサル模様ナリ

三、于學忠ハ一兩日中來平何應欽ト戰區ノ問題ニ付協議ノ筈ナルカ同區内ニ於ケル土匪ハ公安隊ノ手ニテハ討伐到底困難ナル可ク左リトテ軍隊ヲ入ルル譯ニモ行カス結局軍隊ヲ公安隊ニ改編シテ討伐ノ事トナルヤモ知レサル模様ナリ支、滿、南京、廣東、濟南、青島、天津、奉天、漢口ヘ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリ度シ

290

昭和8年9月(8)日 在中国矢野大使館參事官より
内田外務大臣宛(電報)

塘沽停戦協定の実行状況ならびに我が方の対中国

投資力などに関するオランダ公使質疑について

北平 発
本省 9月8日後着

第三六二號

七日中山カ和蘭公使ニ面會ノ節同公使ハ停戰協定後ノ北支狀況ニ付中山ヨリ戰區接收狀況、山海關ニ至ル鐵道返還事情、長城方面郵便局ノ現狀ニ付説明ヲ與ヘタル處同公使ハ更ニ瀾東方面匪賊討伐ノ爲支那側ニ於テ兵力ヲ使用スル事ニ日本側ハ不同意ナリヤト問ヘルニ付中山ヨリ右匪賊ニ付テハ兵力使用ノ前ニ支那側ニ於テ爲シ得ヘキ各種ノ手段アルヘク何等措置ヲ爲サスシテ徒ニ宣傳ヲ爲シ居ル支那側ノ眞意了解ニ苦ム處ニシテ支那側ニ於テ萬策ヲ盡シタル後日本側ニ協議シ來ラハ我方ニ於テモ考慮シ得ヘシト考ヘ居レリト答ヘタル處同公使ハ然ラハ大體ニ於テ停戰協定ノ實行ハ満足ニ進行シ居ルモノト了解シ得ヘキヤト言ヘルニ付然リト答ヘ置キタルカ同公使ハ更ニ語ヲ繼テ日本ハ宋子文ノ借款ニ反對シ居ラルル由ナルカ支那側ヨリ希望アラハ日本ヨリモ借款ニ應セラルルヤト問ヘルカ恰モ日本ニ借款ニ應スル餘力アリヤト問ヘルカ如キ感ヲ受ケタルニ付中山ハ日

本ニ於ケル銀行預金、郵便貯金、株式應募概況ヲ話シ、其ノ餘力充分ナル事ヲ説明シタルニ同公使ハ日本ハ支那ニ大ナル鐵道ノ「インテレスト」ヲ有セス又事業ニモ今日大ナル投資ヲ爲シ居ラサル様見受クル處如何ナル事業ナラハ借款ニ應セラルル考ナリヤト問ヒタルニ付右ハ支那側ヨリ申出アリタル場合具體的問題ニ付考慮スル外無キ事ト思考スル旨答ヘ置キタル趣ナルカ同公使ノ借款ニ關スル質問ハ外國公使ノ疑問ノ代表的ノモノト思ハルルニ付御參考迄満、支、南京、天津ニ轉電セリ

291 昭和8年9月13日

在中国有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

北平公安局長更迭への反対運動激化による黄郭の帰任延期などに関し許卓然内話について

上海 9月13日後発
本省 9月13日後着

第五二〇號

黄郭ヨリノ聞込トシテ十三日許卓然カ有野ニ爲セル内話左ノ通

一、黄ハ九日宋子文ト會見後(往電第五〇八號)直ニ出發歸平ノ豫定ナリシ處北平公安局長更迭問題ニ對シ東北系將領ノ反對策動發生シ其ノ使囑ニ係ル便衣ノ軍人及無賴漢カ

請願ニ名ヲ藉リ袁良ヲ包圍シ脅迫セル等ノ事件起リ一面汪精衛ヨリモ本問題ハ責任ヲ以テ近ク解決スヘキニ付夫迄出發ヲ見合ハス様トノ申越アリタル爲一時歸任ヲ延期シ居レリ

二、右東北側ノ策動ニ對シ汪精衛ハ甚タシク憤慨シ公安局長ノ更迭ヲ豫定通り決行スルハ勿論策動ノ首魁者タル萬福麟ヲ下野セシムル豫定ニテ夫々手配ヲ進メ居リ之ニ對シ于學忠ハ傍觀的態度ヲ示シ居ルヲ以テ此ノ上事態擴大スルコト無カル可キ見込ナリ

三、⁽²⁾廬山ヨリ歸滬シタル宋子文ノ態度ハ歸國當時ヨリ非常ニ

緩和シ居リ黃ノ主張タル聯盟乃至歐米偏重主義反對及日本側ノ援助受入等ノ意見ニ對シテモ宋ハ日本側ニ於テ援助ノ希望アラハ之ニ應スルモ差支無シ(主トシテ華北ノ建設事業ニ對シ)トノ意嚮ヲ黃ニ表明シタル由ナリ

四、華北ノ財政問題ハ黃、王克敏及宋子文談合ノ結果收入機關ヲ總テ中央ノ管理ニ歸シ同時ニ中央ヨリ一定ノ經費ノ

配賦ヲ受クルコトニ内定シ(往電第五〇八號ノ二參照)差

當リ本年中華毎月四百五十萬元ニテ賄フコトニ決定セリ
兵、棉麥借款ノ利用ニ關シ今回中央ハ廣東及廣西側ニモ一部均霑セシムルコトニ内定シ其ノ結果同地方實力派トノ間ニ中央ノ政策ニ反對セサル旨ノ了解出來タル由ニテ蔣介石ノ共匪討伐モ今後ハ一段ノ進歩ヲ見得ヘシトノコトナリ

(本電内容發表セサル様致度尙九日ノ本使及黃ノ會談内容ノ一部カ外務省發表トシテ十一日東京發聯合通信ニテ當地ニ打電發表セラレタル爲黃ニ於テ迷惑ヲ感シ居レリトテ許ヨリ有野ニ右新聞切抜ヲ示シタル趣ニ有之旁此ノ種情報ノ取扱方特ニ御注意ヲ請フ)

北平、天津、南京、滿へ轉電シ上海へ轉報セリ

292 昭和8年9月14日

在天津栗原總領事より
広田外務大臣宛(電報)

北平公安局長更迭問題の背景にある東北系による勢力回復の画策に関し孫濶宇内話について

天津 9月14日後発
本省 9月14日後着

第四五一號(部外秘)

北平公安局長更迭ニ依ル紛糾ニ關シ十三日孫潤宇カ極秘トシテ田中ニ左ノ通内話セリ

北支ニ於ケル東北系ノ勢力ハ東北軍ノ存在以外ニ文官側ニ於テモ相當有力ナル分子アリ學良ノ失脚當時一部同系ノ者モ淘汰ヲ見タルモ尙各重要行政機關ニ配置セラレ居ル者甚タ多ク現ニ河北省政府ニ於テモ于主席及教育廳長ヲ除キ他ノ各廳長初メ所屬員ハ殆ト全部純東北系ニシテ是等ハ常ニ于主席ノ施政ニ掣肘ヲ加ヘ殊ニ河北省ノ財政窮乏ノ一理由トシテ是等ノ分子カ其ノ擔任事務ヲ壟斷シ兎角中飽ヲ事トスル弊害ヲ擧ケ得ル實情ナリ他面彼等ハ北平政務整理委員會ノ任務進行ト共ニ必然的ニ來ルヘキ東北系ノ整理問題ニ於テ軍隊ノ改編等ニハ必スシモ幹部級ノ罷免ヲ見サルヘキモ文官方面ニ於テハ整理ト共ニ失職ヲ免レサルヘキヲ惧レ單純ナル軍人ヲ勸誘シテ東北系ノ結束ヲ固メ學良ヲ迎ヘテ平津ノ地ニ勢力維持ヲ策シツツアル次第第二テ第一回廬山會議(宋子文歸着前ノ)ニ於テ學良ノ歸國ヲ許ササル方針決定セラルルヤ彼等ハ之カ對抗策トシテ非戰地區接收ノ爲常ニ關東軍側ニ接觸シ居タル陶尙銘(純學良系)主トナリ關東軍

側ニ對シ若シ日本カ平津地方ニ於ケル東北系勢力ノ回復及學良ノ歸國ニ了解ヲ與ヘラルルニ於テハ東北系ハ從來ノ北平政務委員會ノ執レル對日方針ヲ踏襲シ場合ニ依リテハ中央トノ關係ヲ離脱シテモ對日關係改善ヲ期スヘシト内密交渉ヲ試ミタリ同系トシテハ關東軍側ヨリ了解ノ回答ヲ得ハ之ヲ背景トシテ中央ニ對シ學良ノ歸國許(可)ヲ迫ル魂膽ナリシカ同軍側ヨリ何等ノ意思表示ヲ得サル間ニ突如北平公安局長問題ヲ見ルニ至リシモノニシテ右ハ蔣介石及黃郛等カ東北系ノ結束ヲ輕視セル結果トモ認メラレ(自分ハ偶々右結束ニ付黃郛ニ詳細報告セシハ約十日前ノコトナリト附言セリ)事ハ一公安局長ノ去就問題ニ過キサルモ之ヲ中心ニ今後意外ニ紛糾スルヤモ計リ難ク黃郛ニトリテハ一大難問タリ前記東北軍系カ日本側ニ内密運動セル事實ハ自分ニ於テモ確實ナル方面ヨリ聞込ミ居レル處ナルカ日本側カ右ニ對シ慎重考量ヲ加ヘラルルコトハ黃郛ノ當方面ニ於ケル任務ヲ助成スル上ニ於テ極メテ望マシキ次第ナリ

支、北平、南京、濟南、滿ヘ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリ度シ

重警告および汪兆銘回答について

南京 9月15日後発
本省 9月16日前着

293 昭和8年9月15日

広田外務大臣より
在中国矢野大使館参事官宛(電報)

北平公安局長更迭問題に關し黃郛を支持する
趣旨にて事態善導方訓令

本省 9月15日後8時発

* 第一四六号

北平公安局長問題ノ成行如何ニ依リテハ北支方面政情紛乱ノ因トナルヘク殊ニ舊東方軍側カ其ノ主張ヲ通ストキハ今後ニ於ケル同軍ノ移駐ヲ困難ナラシメ黃郛政權ノ立場ヲ弱ムル處アリ斯ノ如キハ我方ニ取リテモ甚タ面白カラサルニ付我方トシテハ本件ニ関シ黃郛政權ヲ支持スル趣旨ニテ事態ノ善導方ヲ計ルコト肝要ト存ス(尤モ列國側等ヨリ對支内政干涉ノ謗ヲ受ケサル様注意スルヲ要ス)

就テハ右御含ノ上軍側トモ連絡シ可然御措置相成度貴地陸軍武官ニハ參謀本部ヨリ以上ト同趣旨ヲ電訓セリ

294 昭和8年9月15日

在南京日高總領事より
広田外務大臣宛(電報)

満州国内への中国側の武器供給問題に關し嚴

* 第四五一号
有吉公使ヨリ左ノ通

十四日本使ノ汪精衛ニ會見ノ際本使宛電第一七〇号ノ事實ヲ述ヘ右ハ河北停戰協定ニ對スル違反行爲タル事將來再ヒ此ノ種ノ事實発見セラルル場合ハ支那側ノ挑戰行爲トシテ關東軍ニ於テ必要ノ手段ニ出ツル場合アル可キ事等ヲ警告シ(詳細ノ事實ハ日高ヨリ改メテ提示スル旨附言ス)國內關係方面ノ取締方ヲ要求シタル處汪ハ國內ニテモ一方ノ兵工廠製造ノ刻印アル武器カ轉々トシテ敵方ノ手ニ渡ル例鮮カラス又委任狀モ偽造ノ例モ多ク本件ハ必スシモ支那側ノ所爲トモ認メ得サルカ一應關係當局ノ注意ヲ喚起シ夫々取締ノ措置ヲ講スヘシト約シ尙支那側ニテハ今更挑戰行爲ニ出ツルカ如キ意思ハ持チ居ラサルニ付誤解無キ様セラレ度シト答ヘタリ

編注 本電は同日発在南京日高總領事より広田外務大臣宛

295

昭和8年9月20日 在満州国菱刈大使より
広田外務大臣宛(電報)

中国側との塘沽停戦協定善後処理交渉の開始
時期および主要議題に関し関東軍および満州
国側と協議について

別電一 九月二十日発在満州国菱刈大使より広田外務

大臣宛第一一〇一号

右交渉開始時期および主要議題について

二 九月二十日発在満州国菱刈大使より広田外務

大臣宛第一一〇二号

協定区域内への匪賊討伐軍入域などに関する

中国側要望および関東軍側回答について

新 京 9月20日前発

本 省 9月20日前着

第一一〇〇号(極秘?)

貴電第七八一號ニ關シ

本件ハ當方ニ於テモ諸般ノ考慮殊ニ日滿支ノ經濟、交通ヲ

圓滑ニスル趣旨ノ下ニ軍及滿洲國側トモ聯絡シ研究中ナル
處過日黃^郭側要人玉琪^王來滿岡村參謀副長ト懇談(別電第一
一〇二號御參照)ノ次第モアリ當方ト打合ノ結果中間報告
トシテ參謀長ヨリ別電第一一〇一號ノ通り電報シタルニ付
御査閱置相成度シ
尙岡村副長一行赴平ノ場合ニハ花輪書記官ヲ同行セシムル
豫定ナリ右不取敢

(別電一)

新 京 9月20日前発

本 省 9月20日前着

第一一〇一號(極秘)

陸滿第九二五號ノ御趣旨ニ基キ當方ニ於テハ停戦協定ニ伴
フ善後處理交渉ニ關シ過般來大使館、滿洲國側共協議シ研
究ヲ進メツツアリテ近ク成案ヲ報告シ得ルニ至ルヘシト思
料セラル其ノ交渉開始期ニ關シテハ當初概ネ本月下旬ト豫
定シツツアリシモ最近北平公安局長問題紛糾シ黃^郭ノ歸平
モ自然遅延スヘキヲ以テ目下ノ處全ク豫定シ難キ實狀ニア
ルモ關電第一七五號玉琪^王來京用件ノ如ク戰區内接收問題モ

アリ之カ聯絡指導ヲ兼ネ黃^郭歸平後成ル可ク速ニ岡村副長

主任參謀(大使館員同行)ヲ北平ニ派シ先ツ國境確定等主要
問題(陸滿電第九二五號第三項該當)ヲ商定セシムルト共ニ
交通、通信、航空等各部門交渉開始ノ橋渡しヲ爲サシムル
考ナリ右派遣時期ニ關シテハ更ニ電報スヘキモ不取敢

(別電二)

新 京 9月20日後発

本 省 9月20日後着

第一一〇二號

九月十六日王琪^郭ハ殷同ノ代理トシテ軍司令部ニ出頭シ支那
軍不侵入地域ニ關スル諸問題ニ付下相談ヲ爲セリ
先方ノ提出セル主ナル事項左ノ通

左記

一、戰區内匪賊討伐ノ爲支那軍隊ノ派遣ヲ許可セラレ度シ
ニ日本軍ノ守備シアラサル長城線ノ各口ヲ接收シ度シ
右ニ關シ左ノ如ク答同シ置ケリ
一、戰區内匪賊ノ狀況ハ支那軍隊ヲ派遣スル必要ナシ現在ノ
公安隊(李際春及石友三部ノ保安隊ヲ含ム)ヲ以テ討伐ス

レハ充分其ノ目的ヲ達シ得ヘシ

ニ日本軍ノ守備シアラサル長城線各口ノ南側部落ハ接收シ
テ可ナルモ直接長城ノ各關門ヲ接收スルコトハ承認セス
尙北平公安局長問題ニ關シテモ黃郭側ヲ援助セラレ度シト申
出テタルニ付軍ハ余晉蘇ノ正式就任ヲ希望スル旨答ヘ置ケリ
下相談ノ詳細ハ筆記提出ス

296

昭和8年9月22日 在中国矢野大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

塘沽停戦協定区域内に進入した吉鴻昌部隊に
対する討伐軍派遣了解方中国側より我が方武
官補佐官に要望について

北 平 9月22日後発

本 省 9月22日後着

第三九六號

最近當地方ノ主ナル問題ハ(一)戰區接收問題(二)察省善後問題
ニ引續キ吉鴻昌部隊南下ニ關スル問題ナルカ
(一)灤東灤西ノ諸所ニ蟠居スル舊李際春石友三等ニ關係アリ
シ匪賊ヲ討伐スル爲支那側ニ於テ軍隊ヲ同地方ニ入レント

297 昭和8年9月22日 在天津栗原総領事より
広田外務大臣宛(電報)

方振武および劉桂堂兩軍の塘沽停戦協定区域
内進入に対する日本軍の黙許および支援取付
けのため湯玉麟密使派遣について

天津 9月22日後発
本省 9月22日後着

第四六三號

軍部其他ヨリ得タル情報ニ依レハ數日來方振武、劉桂堂兩軍ハ湯玉麟援助ノ下ニ河北省北方雲州ヨリ密雲ニ迫リ更ニ北平ニ向ツテ南下セントスル氣勢ヲ示シ改編ニ不満ヲ懷ケル舊東北軍ノ一部トモ聯絡ヲ有スルモノノ如ク湯玉麟ハ日本側ヨリ停戦協定ニ依ル非武装地帯ヘノ此ノ種軍隊ノ進入默許方及進ンテ其ノ行動ニ對シ何等ノ援助方諒解ヲ取付クル必要ヲ認メ當地ニ於ケル前記各軍代表ニ對シ承德ニ赴キ松室大佐ニ之カ交渉方ヲ命シ其ノ結果各代表ハ二十一日當地出發錦州經由承德ニ向ヘリ

支、北平、南京、濟南、滿ヘ轉電セリ
支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

欲シ兎角右ノ事態ヲ大袈裟ニ吹聴シツツアルモ未タ軍隊ヲ入レ若ハ保安隊ノ大ナル増員ヲ爲シ居ラサルカ如シ
(二)吉鴻昌部隊最近大水峪ヨリ密雲、懷柔方面ニ約二千ノ部隊ニテ南下セントシツツアルハ事實ナルカ如ク支那側ハ右討伐ノ爲徐庭瑤部隊ヲ派遣セント欲セルモ停戦協定ノ關係上柴山武官ノ了解ヲ求メント努メ武官ハ右ニ對シ黃郛ノ北上公安局長問題ノ解決等カ寧ロ先決問題ナルヘキ趣旨ヲ以テ應酬シアル趣ナリ

以上二問題ノ事實並支那側トノ談合ノ詳細ハ軍側ヨリ御聽取ヲ請フ右事態ニ關シ比較的信スヘキ諜報ニ依レハ支那側ハ我方カ瀾東方面ニ於テハ前記匪賊ヲ暗ニ操縦シ密雲方面ニ對シテハ吉鴻昌部、方振武、湯玉麟、劉桂堂、李守伸等ノ組織セル所謂東亞共和軍ノ壓迫ヲ加ヘントスル計畫ナリト臆測シ居ルカ如ク今後モ曲折ヲ免レサルヘキモ今ノ所ハ主トシテ軍事關係ナリ往電第三九一號吳佩孚旗學計畫ノ如キモ或ハ何應欽等支那側ニ於テ我方ニ探リヲ入レン魂膽ナリシヤモ計ラレス

支、滿、南京、天津、青島、濟南ヘ轉電セリ

298 昭和8年9月23日 在中国矢野大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

關東軍航空機による方振武らへの協定区域外
退去命令ビラ撒布について

北平 9月23日後発
本省 9月23日後着

第三九七號

往電第三九二號ニ關シ

柴山武官ノ含ミニ依レハ關東軍ハ方振武軍等ヲ停戦協定區域外ニ撤退セシムルコトニ決シタル趣ナル處廿三日午前我軍飛行機一臺北平市上空ニ飛來シ「關東軍ハ方軍及各聯合軍ノ停戦協定區域内ニ在ル事ヲ絕對ニ容認スル能ハサルモノニシテ右等諸軍ハ九月廿六日夕ヲ限り協定線以南ニ撤退スヘク若シ撤退未了ナラハ即時斷然討伐スヘキコトヲ切實ニ宣言スル」旨ノ廿二日附傳單ヲ撒布セリ
支、南京、天津、滿ヘ轉電セリ

299 昭和8年9月25日 在滿州国麥刈大使より
広田外務大臣宛(電報)

塘沽停戦協定善後處理交渉における滿州国側
代表者の選定などに関する關東軍および滿州
国側との協議について

新京 9月25日後発
本省 9月26日前着

* 第一一三八号

貴電第七八一号ニ関シ

二十五日軍、當館、滿洲國關係官國務院ニ參集シ岡村參謀副長ヨリ先ツ塘沽會議ニ於テハ當時ノ情勢カ政治協定締結ヲ許ササリシ次第及大連會議ニ於テモ李際春石友三軍ノ整理問題及北寧線奉山線ノ引繼問題等当面ノ問題ノ處理以外一般政治的問題ニ觸ルル能ハサリシ次第ヲ説明シ次テ北支善後處理ニ関スル貴電第七八二号東京中央部ノ方針ヲ披露シタル後早晚滿洲國側ト北支政權トノ間ニ右根本方針ニ基キ實際的取極ヲ爲ス要アリ右ノ爲軍ニ於テ兩者ノ間ニ橋渡ヲ爲スヘク貴電第八五九号御來示ノ次第及方振武問題等ニ鑑ミ最モ適當ナル時機ニ同副長ニ於テ北平ニ乘込意嚮アルモ差当リ滿洲國トシテハ至急前記東京中央部ノ根本方針ニ基キ具體的方策ヲ研究シ置ク

要アル旨ヲ述ヘタル後曩ニ当館係官トモ協議ノ上軍側ニ於テ作成シ置キタル本件善後處理交渉案(同案別途郵送ス)ヲ參考ノ爲提出セリ

ニ、各官協議ノ結果本件交渉ニ当リ最モ重要ナルハ滿洲國側交渉当事者ノ問題ナルカ滿洲國側トシテハ第一段ニハ滿洲國政府各部当局者ヲ以テ之ニ当ツルコトトスルモ先方ニ於テ承認セサル場合ハ大連會議ニ於ケル鐵道交渉ノ際ノ如ク電信電話等ニ付テハ滿洲電信電話會社又郵便ニ付テハ山海關古北口等ニ於ケル郵務局長等トスルコト適當ナルヘク唯通商貿易關稅交通等ニ付テハ更ニ研究ヲ遂クルコトトシ結局同日ハ右当事者ノ問題其ノ他本件具体方策ニ付滿洲國政府各部ニ於テ出來得ル限り速ニ立案ノ上本會議ニ諮リタル後東京中央部ニ請訓スルコトトシ散會セリ

300

昭和8年9月26日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

方振武軍などに対する関東軍の武力行使は自分の帰平後まで延期方黄郛要請について

リ度シ)

北平、南京、滿、天津へ轉電セリ

編 注

本電は本来ならば第五六二号であるところ、誤りにより第五八二号として發電され、その後も第五八二号として取扱われた。

301

昭和8年9月26日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

方振武軍討伐問題など華北における当面の事態に対処するため我が方の精神的援助を黄郛要請について

第五六四號

二十六日黃

本使來訪ノ際内話セル處御參考迄左ノ通

一、方振武及吉鴻昌軍ハ一面抗日ヲ標榜シテ西南派ノ後援ヲ求メ他方反蔣ヲ唱ヘテ東北軍ノ策應ヲ求メツツアリ目下懷柔方面ニ進出セルハ東北軍トノ聯絡ヲ期待シ居ルモノ

第五八二號(至急、極秘扱)

二十六日朝黃郛本使ヲ來訪シ

一、目下方振武及吉鴻昌軍ノ懷柔方面進出ニ對シ關東軍ニ於テ之カ討伐ヲ聲明セラレ居ル處若シ同軍ニ於テ即時討伐セラルルニ於テハ國內ノ人心ヲ刺戟シ折角平靜ニ歸セントシツツアル對日感情ヲ又復激發スル虞アル而已ナラス討伐強行ノ結果ハ方、吉ノ軍隊ヲシテ勢ヒ瀋東方面へ逃竄セシメ更ニ狀態ヲ紛糾セシムル虞アリ

ニ、自分(黃)ハ遅クモ十月一、二日頃出發歸平ノ豫定ニテ歸平後直ニ右方、吉部隊ノ解決方ニ付岡本參謀副長(若シ來平セラルルニ於テハ)及柴山武官ト相談ノ上日本側ノ援助ヲモ得テ双方手筈ヲ定メテ處分ノ方法ヲ講シ度キ考ナルニ付少クトモ自分歸平迄ハ關東軍側ニテハ差當リ密雲地方ニ於テ待機ノ上方、吉軍ノ行動ヲ監視スル程度ニ止メラレンコト切望ニ堪ヘストテ右本使ヨリ至急政府ニ取次キ斡旋方盡力ヲ請フ旨繰返シ懇願セリ就テハ右ニ對スル政府ノ御意嚮至急御電示アリ度シ(本電内容部外ニ洩レサル様御注意ア

上海 9月26日後発
本省 9月26日後着

ト認メラルルカ東北軍中最モ策應ノ危險有ルハ萬福麟ナリ王以哲ハ之ニ次クモノナルモ目下廬山ニ於テ蔣ト會見シ居リ多分軟化スルモノト認メラル于學忠ハ現在ノ地位モアリ俄ニ態度ヲ變更スル虞無カルヘシ

ニ、蔣介石ハ目下山岳戰ニ當リ得ヘキ軍隊ノ訓練ニ努力中ニテ茲ニケ月位ノ内ニ共匪ノ全滅ト迄ハ行カサルモ當分活動シ得サル程度迄討伐ヲ完成セム意氣込ニテ計畫ヲ進メツツアリ現在ニテハ殆ト他ノ何物ヲモ顧ミル餘裕無キ狀態ナルカ若シ之カ成功セハ一應南京ニ歸リテ政府ノ改造ヲ爲シ必要有ラハ更ニ北上シテ河北ノ軍事整理ヲ爲ス事ニ豫定シ居レリ從テ茲ニ、三ケ月ハ蔣ノ爲ニハ最モ重要ノ時期ニシテ共匪討伐ノ成否ハ恐ラク現政府ノ存續如何ニモ影響ヲ及ホス事トナルヘシ

三、自分(黃)ハ素々兵力モ黨ノ背景モ無キ一個文人ニテ唯頼ミトスルハ日本ノ精神的援助ト蔣介石初メ中央政府ノ後援有ルノミ而モ前顯ノ事情ニテ今俄ニ蔣ノ力ヲ借ルニハ意ノ如クナラサルモノアリ河北ノ當面ノ事態ノ如キ一ニ日本側ノ好意有ル援助ニ依頼スルノ外無キ次第ナリ
右ノ外黃ハ何應欽ニ不信ノ行爲多キ事及其ノ定見無ク絶エ

ス他ヨリ意見ヲ左右セラルル事ヲ難シ又今後ノ北部ニ於ケル善後策ノ困難ナル事情ヲ訴ヘタル後(黄ハ前ニ須磨ニ對シ相當悲觀的口吻ヲ洩ラシ河北問題モ停戰協定ノ成立ニ依リ河北十九縣ノ接收モ出來タレハ此ノ邊カ自分ノ退キ時ナリトモ考ヘ居レリ等語リタル由)幸ヒ二十五日夜何應欽ヨリ余晋^晉二十八日公安局長ニ就任ノ事ニ決定ノ旨來電有リ本問題モドウニカ片附キタルニ付河北ノ狀態ニ非常ナル變化無キ限り十月一、二日頃出發歸平ノ豫定ナル由語レリ本使ハ其ノ困難ナル立場ニ同情ヲ表シ其ノ責任ノ重大ナルヲ指摘シテ此ノ上トモ獻身の努力ヲ激勵シ置ケリ

(以上一切發表セサル様致度シ)

北平、天津、南京、滿(ハ)轉電セリ

302 昭和8年9月26日 在滿州國蔣大使より
広田外務大臣宛

關東軍作成の塘沽停戰協定善後處理交渉案の
送付および留意点回示方稟請

公機密第九一八号

(接受日不明)

昭和八年九月二十六日

在滿州國

特命全權大使 蔣 隆

外務大臣 廣田 弘毅殿

北支停戰協定ニ伴フ善後處理交渉案ニ關スル件

北支停戰協定ニ伴フ善後處理方ニ關シテハ大連會議直後滿洲國政府各部ヨリ軍側ニ對シ希望條項等提出アリ軍側ニ於テ貴電御來示ノ本件根本方針ニ基キ整理ヲ加ヘ別紙ノ通交渉案作成ノ上當館ニ協議シ來リタル處同案別紙第一處理方針及ヒ別紙第二關東軍對北支政權間非公式協定事項ハ大体異議無ク只別紙第三滿洲國對北支政權間協定事項中第一ノ(ロ)ハ現狀ヲ説明シ居ルニ過キス山海關ニ支那側税關設置ノ場合ニハ當然變更ヲ要ス可ク又(ハ)今日トナリテハ其ノ規定ノ要無キ旨ヲ注意シ其ノ點ニ於テハ大体異議無キ旨ヲ回答シ置ケリ然ルニ本件ニ付テハ本日附往電ノ通り更ニ滿洲國側ニ於テ立案整理スルコトナリ居ルニ付テハ貴方御心付ノ點モ有之ラハ至急御回示相成度ク別紙軍側交渉案送付旁々此段申進ス

(別紙)

北支停戰協定ニ伴フ善後處理交渉案

昭和八、九、一一

第三課

關東軍代表者ハ九月下旬山海關ニ於テ北支政權代表者ト會商シ別紙第一北支停戰協定ニ伴フ善後處理要綱ノ精神ニ基キ別紙第二ノ諸項ヲ協定シ滿洲國對北支政權間協定ノ成立ヲ斡旋ス

前項關東軍對北支政權間非公式協定ノ成立ニ連續シ滿洲國專門委員ハ北支政權專門委員ト會商シ別紙第三ノ諸項ヲ協定ス

別紙第一

北支停戰協定ニ伴フ善後處理方針

第一、交渉ノ主眼ハ實質的ニ滿洲國ト北支那間ノ通商、交通、通信等ヲ恢復シ爲シ得レハ之ニ關聯スル諸問題ヲ解決スルニアリテ之ニ依リ北支政權及一般民衆ヲシテ親日ノ有利且ツ必要ナルヲ認識セシメ進ンテ日滿支親善ノ一階梯タラシムルヲ本旨トス

第二、本交渉ニ当リ支那側ヲシテ名實共ニ滿洲國ヲ承認セシムル事希望スル處ナルモ斯クテハ交渉ノ成立至難ナル

ヲ思ハシムルモノアルニ依リ此ノ際ハ寧ロ支那側ヲシテ實質的ニ滿洲國ノ存立ノ事實ヲ認容セシムル如ク指導ス、但シ苟クモ滿洲國ヲシテ自ラ一地方政權タルカ如キ態度ハ絶体ニ採ラシメサルヲ要ス

第三、河北省方面ノ滿支國境線ヲ長城線ト爲ス事ハ從來滿洲國ニ於テ主張シ且ツ帝國ノ支持シ來レル處ニシテ滿洲國ノ版圖ヲ長城以南ニ擴張セントスルカ如キコトハ之ヲ避クヘキモ長城ニ接續若ハ接近セル外側地帶ニ必要ナル滿洲國側機關ヲ配置スル等滿洲國ノ權益保全上必要ナル事項ハ主權ノ存在トハ別個ニ北支政權側ヲシテ承認セシム

別紙第二

關東軍側北支政權間非公式協定事項

第一、關東軍ハ北支政權カ其ノ治安維持機能ノ充實ニ伴ヒ長城線ヲ含マサル長城以南及以西ノ地域ハ速ニ接收スルコトヲ希望ス

第二、北支政權ハ其接收地域内ニ於テ長城ニ接續若ハ接近セル地區ニ、國境ニ於ケル諸般ノ事項ヲ處理スル爲若ハ經濟上ノ便益ノ爲必要ナル滿洲國諸機關ヲ配置スルコト

ヲ認メ且是等諸機關ノ業務ニ最善ノ援助ヲ與フルモノトス
第三、北支政權ハ滿洲國トノ間ニ於ケル相互ノ通商、貿易、交通、通信、航空等ヲ設定スルコトヲ認メ、右ニ関シ必要ナル事項ヲ速ニ滿洲國政府滿洲國側委員トノ間ニ協定スルモノトス

第四、北支政權ハ接收地域内ニ於テ日本軍隊駐屯ノ爲必要ナル土地、建物ヲ日本軍ニ讓渡スルモノトス

別紙第三

滿洲國對北支政權間協定事項

第一、滿洲國ト北支地方トノ関稅ニ就テハ左記方針ニ依ル

(イ) 承德税関及山海関税関ヲシテ之カ取締竝ニ徵稅ニ當ラシム

承德税関ノ管轄區域ハ長城線冷口ヲ界トシ、西方國境線トシ山海関税関ノ管轄區域ハ冷口以東トス

承德税関ハ本関ヲ承德ニ、分関分卡ヲ古北口、喜峯口、潘家口等必要ノ地ニ置ク

山海関税関ハ本関ヲ山海関城外停車場附近ニ、分関分卡ヲ冷口、界嶺口其他必要ノ地ニ置ク

(ニ) 熱河地方物資補給ノ爲ニモ北支海港ニ輸入シ其ノ儘熱河ニ輸送セラルル外國貨物(例之日本品等)ニ就テハ支那税関ニ於テ輸入税ヲ賦課セス保税輸送スルコトヲ認メシムルコト

第二、通商ニ関スル件

(イ) 滿洲國領域内海港ト山海関及秦皇島(塘沽、天津ヲ含メシムルコト)相互間ニ於テ滿洲國及中華民國國籍汽船ノ沿岸航路就航ヲ認ムルコト

尤モ該汽船ノ出入、貨物ノ上下、檢疫、噸稅其他課稅等ニ関シテハ現行規則ニ據リ他外國ノ場合ニ較ヘ其取扱ニ差別アルコトヲ得ス又一方のニ妄リニ輸出入ノ制限乃至禁止ヲ爲スコトヲ得ス

(ロ) 前記地帶間ヲ運行スル民船及樂河航行民船ニ付テモ前項同様相互のニ其ノ通商ヲ認メ妄リニ船体若ハ積載貨物ヲ抑留乃至沒收シ又ハ船員其ノ他人夫ノ拘禁荷役ノ妨害ヲ爲スコトヲ得ス

(ハ) 前記(イ)(ロ)ノ場合水陸國境通路ニ於ケル関稅事務遂行輸出入禁制品ノ取締等ニ付相互ニ協力シ其ノ進行ヲ助ケ妄リニ妨害スルコトヲ得ス

(ロ) 山海関税関ハ客年九月二十五日以來既ニ山海関城外停車場附近ニ設置シ支那軍同地ニ在ル時ヨリ徵稅ヲ行ヒ來レリ

同地ノ徵稅方法ハ鐵路北寧線ニヨリ同地ニ輸入セル貨物及道路ニヨリ石河ヲ超エ又ハ海路國外ヨリ輸入セル貨物ニハ夫々山海関驛石河河岸及海岸ニ於テ現行税則ニヨリ輸入税ヲ課ス

其ノ反對ノ場合ニハ同シク輸出税ヲ課ス

但シ滿洲國奧地ヨリ山海関ヲ經テ樂河ノ水運等ヲ利シ熱河ニ入ル貨物ニハ一定ノ擔保又ハ保證狀ニヨリ山海関税関ノ輸出税及承德税関ノ輸入税ヲ免除ス

(イ) 承德税関ハ固ヨリ現行税則ヲ其ノ保適用課稅スルヲ原則トスルモ熱河地方ニ於ケル物資窮乏ノ現狀ト奉天省方面ヨリノ補給困難ナル事情アルニ鑑ミ應急措置トシテ本年八月末日迄ヲ限り生活必需品(主トシテ食料品)ニ付品目ヲ限定シ課稅上ノ手心(三分ノ二減稅)ヲ行ハシム本取扱ハ承德税関管轄區域内ニ於テノミ行フ

但シ北支方面ノ物資補給ノ爲ニスル滿洲國ヨリノ輸出貨物ニ對スル輸出税ノ減免ハ絕對ニ之ヲ行ハサルコトトス

(ニ) 前記(イ)(ロ)ノ場合滿洲國產品ノ中華民國ヘノ輸入ニ関シ領事送狀及原產地證明規則ノ適用ヲ除外スルコト必要ニ應シ到着地中華民國側海関ニ於テ並通料金ニテ補充手續ヲ爲スコトヲ認ムルコト

(ホ) 前記(イ)(ロ)ノ場合兩國間通商乃至旅客往來ニ関シ其所持乃至行使若クハ兩換ヲ爲ス通貨其ノ他有價證券ハ相互ニ之ヲ尊重シ以テ經濟關係ノ増進ニ資スルコト

第三、郵政ニ関スル件

(イ) 連絡業務ノ擴張

滿洲國及樂東地區相互間發着ノ普通通常郵便物ハ現ニ山海関ニ於テ滿支兩郵局間ニ交換ノ方法ニ依リ連絡ノ實ヲ舉ケツツアル處、(別項參照)該連絡業務ヲ次ノ如ク擴張スルコト

(一) 郵便ノ連絡ニ付テハ現行ノ普通郵便以外ノ一般通常郵便(書留代金引換等、特殊扱郵便)ニ及ホスノ外價格表記郵便及小包郵便ノ交換ヲモ實施スルコト

(二) 郵便爲替ノ交換ヲ實施スルコト

(三) 郵便及爲替業務連絡上滿支雙方ニ於テ此等交換事務主管ヲ増設スルコト

(ロ)連絡地域ノ擴張

前項連絡業務ノ及フ地域ニ付テハ北支政權ノ及フ地域タル河北山西及山東各省一帯ニ擴張スルモノトシ更ニ時宜ニ應シ此等地域以遠ノ各地方トノ連絡ノ實現ヲモ圖ルコト

(イ)事務連絡員ノ駐在

連絡業務實施ニ伴ヒ其ノ圓滑ナル運行ヲ期スル爲雙方業務ニ於テ各其ノ連絡員ヲ對手ノ主要交換局(例之、滿洲國ニ在リテハ奉天、北支ニ在リテハ北京、天津)ニ駐在セシムルコト

(ニ)連絡業務實施上ノ協商

雙方業務ニ於テ各其ノ徵收スヘキ郵便料及爲替料等各種ノ料金ノ決定、此等ノ料金ノ分收計算及雙方ニ於テ増設スヘキ交換局其他業務上ノ細目協商ニ關シテハ雙方郵政當事者間ニ於テ之ヲ商議スルコト

第四、電政ニ關スル件

北支那方面ト滿洲トノ電信電話連絡ハ一昨年ノ事変以來杜絶セルニ付左記ニ依リ復活スルコト

(イ)電信

シム

(ロ)左記航空路ヲ認メシム

イ、錦州、承德、北平、濟南、青島線

ロ、錦州、山海関、天津、北平線

ハ、錦州、山海関、天津、濟南、青島線

第六、北支國境ニ於ケル警備並外人入國取締ニ關スル件

(イ)不正入國者竝密輸品ノ取締其ノ他國境方面ヨリスル治安攪乱ノ策謀ヲ防止スル爲左記箇所ニ國境警察隊ヲ置ク

1、山海関

2、古北口

3、喜峯口

參考

(一)陸接國境ヨリスル支那人勞働者ノ入國ハ原則トシテ之ヲ禁止スルノ方針ヲ採リ必要アラハ官憲ノ許可ヲ受ケシム
(二)一般的ニ外人ノ入國取締ニ關シテハ旅券査證辦事處ト密接ノ連絡ヲ保チツツ外國人入國取締規則ニ依リ之カ取締ヲ行フ

第七、外國人入國ニ關スル件

(イ)外人旅行往來ニ關シ兩國官憲ニ於テ發給セル居住證明

(一)北支ト滿洲トノ間ニ發着スル電報ヲ相互ニ交換連絡スル爲山海関天津間ノ電信線ヲ復舊架設スルコト

(二)電報ノ交換ハ總ヘテ滿洲國山海関電報局ヲ中繼トシテ取扱フコト

(三)電報ノ取扱範圍ハ差向キ華文及歐文電報トシ必要ニ應シ日文電報ノ取扱ヲモ開始スルコト

(四)電報料金及電報料金ノ分收計算並ニ電報取扱局其ノ他ノ細目ニ付テハ更ニ電政當時者間ニ於テ協議スルコト

(ロ)電話

(一)北支那ト滿洲トノ間ニ通話ヲ再開スル爲山海関ヨリ天津ニ至ル間ノ電話線ヲ復舊架設スルコト

(二)通話ヲ爲シ得ル範圍ハ差向キ錦州、奉天及新京ト天津及北京等ノ局トシ必要ニ應シ擴張スルコト

(三)通話ハ總テ山海関ニ於テ市外電話線ノ中繼接續ヲ爲スコト

(四)通話料金及料金分收計算其ノ他通話取扱上ノ細目ニ付テハ更ニ電政當事者間ニ於テ協議スルコト

第五、交通ニ關スル件

(イ)灤河(青龍河ヲ含ム)ヲ國際河川トシテ自由航行ヲ認メ

書、國籍證明書、内地遊歷護照等ヲ相互的ニ尊重シ安

リニ沒收又ハ改廢セサルコト

(ロ)旅券査證辦事處ヲ設置スルコト

第八、反滿思想取締ノ件

中華民國全般ニ於テ少クモ北支一帯ニ於テ反滿ノ言動ナキニ至ルコトハ停戰協定ノ趣旨ヨリ見テ當然ノコトナルカ長城ニ沿フ日本軍撤收區域内ニ於テハ北支政權ニ於テ責任ヲ以テ抗日反滿ノ言動ヲ嚴重取締ルコト

第九、國境檢疫ニ關スル件

303 昭和8年9月27日 広田外務大臣より 在中国有吉公使宛(電報)

黄郭よりの方振武軍などに対する関東軍の武力行使延期要請への我が方回答について

* 第一九七号 本省 9月27日後7時発

貴電第五八二号ニ関シ

黄郭ニ對シテハ政府ニ取次キタル結果トシテ

(一)関東軍ニ於テハ方振武軍等ニ對シ二十六日ヲ限り停戰地

帶外ニ撤退方ヲ警告セルカ同夜來新聞電報ニ依レハ方軍等ハ既ニ撤退ヲ開始セル由ニテ未タ公電ハナキモ右ハ事實ナルヘク從テ最早關東軍ニ於テ討伐ノ要ナキ事態トナリツツアルヤニ認メラルトノ趣旨ヲ告クルト共ニ(イ)軍側ニテハ右討伐ノ實行ニ付テハ慎重ナル態度ヲ執ル意向ノ由ナルカ若シ方軍等ニ於テ撤退ヲ貢セサル場合ニハ我方ノ威信上討伐ヲ實行スルノ止ムナキ場合アルヘキニ付申ス迄モナキ義ナルモ支那側ニ對シ絕對ニ「コンミット」セラレサル様致度(ロ)又方軍等ヲ瀕東ハ勿論三河玉田等ノ方面ニ逼出セシムルコトナルハ軍側ニテモ面白カラスト認メ相當意ヲ用ヒ居ル由ナリ(ハ)尙ホ支那側等ニ我方カ方軍等ヲ「バック」シ居ルヤノ誤解存スルニ顧ミ參謀本部ヨリ出先ニ對シ行動注意方電訓セル趣ナリ以上括弧内(イ)(ロ)(ハ)ハ貴官限り極秘含ニ止メラレ度貴公使ノ思付トシテ(ニ)尙ホ斯種問題ノ圓滿ナル處分ニ付テハ黃郛カ現地ニアリテ我方ト密接ナル連絡ヲ保ツコト甚タ望マシキ義ナルカ今後ノコトモアリ同人ニ於テ至急北上セムコトヲ希望ストノ趣旨ヲ申聞ケラレ度

タルコトヲ好ク諒解シ居ル旨言明セル趣ナリ(外國通信員連ニモ篤ト説明セシメ置キタリ)

305 昭和8年9月29日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

東北系文武官の東北帰還許可方黃郛要望について

上海 9月29日後発
本省 9月29日後着

第五七五號

二十八日黃郛カ有野ニ爲セル談話中御參考迄左ノ通
一、今回方振武旗擧ノ動機ハ方カ當初察哈爾警備司令ノ名義ヲ求メタルニ對シ何應欽之ヲ拒絕シ次テ申出テタル十一萬元ノ洋行費支給ヲ拒絕セラレタルカ爲ニシテ方ハ其ノ結果湯玉麟ト連絡シ自ラ前敵總指揮ニ、湯ハ前敵總司令ニ任シ湯ト親戚ノ間柄ナル張海鵬ノ默認ヲ得テ獨石口方面ヨリ長城線内ニ進入シタルモノナルコト略判明セリ
二、東北系ノ自分ニ對スル反對策動ハ依然猛烈ニシテ軍隊側ノ外東北系青年及官吏ノ陰謀甚タシク彼等ハ自分(黃)カ職ニ在ル間ハ張學良ハ歸國出來久何時失職又ハ壓迫ヲ受

304 昭和8年9月28日 在中国矢野大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

關東軍の空爆による方振武および吉鴻昌兩軍の協定区域外撤退について

北平 9月28日後発
本省 9月28日後着

*第四〇六號

柴山武官ヨリノ談ニ依レハ方、吉軍ハ二十六日未明ヨリ高麗營ニアル萬福麟軍ニ對シ總攻撃ヲ開始セルカ同軍ハ僅カニ一個聯隊ノミナリシヲ以テ非常ナル苦戰ニ陷レルモ關東軍飛行機ヨリ方、吉軍ヲ爆撃セル結果二十七日朝遂ニ方振武軍ハ懷柔ヲ經テ察哈爾方面ニ、又吉鴻昌軍ハ西方山岳地帶ニ向ケ退却ヲ開始セリ兩軍トモ停戰協定區域外ニ脱出スルコトナリ今回ノ問題モ多分之ニテ落着スル見込ナリトノ趣ナリ尙右我飛行機ノ爆撃ノ際高麗營ノ西部地點ニアリシ少數ノ部隊ニ對シ爆彈二個ヲ投下シ兵士二名即死シ三名負傷セリ後(ニ)ニ至リ右カ萬福麟軍ナルヲ發見セラレタルモ同軍ノ聯隊長ハ高麗營ニ於ケル日本側ノ多大ノ援助ヲ感謝シ居ル際ニモアリ我方ニ對シ右死傷ハ全然錯誤ヨリ生シ

クルヤモ計ラレスト爲シ現ニ東北大學(滿洲事變後北平ニ移轉)新總長王卓然^{〇〇}一派ヲ中心トシ外交研究會、東北難民救濟會、除奸團等ノ團體ヲ設ケ自分追出ノ陰謀ヲ爲シ居ル事實判明シ此ノ點公安局長問題(余晋蘇ハ二十八日就任ト共ニ歸任躊躇ノ原因ナリシカ左リトテ此ノ儘引退カルハ無責任ナルニ付少クトモ二、三ヶ月即蔣介石カ共匪討伐ニ一段落ヲ告ケ北方ヲ顧ミル餘裕生スル迄ハ(往電第五六四號ニ參照)頑張ル積リナリ

三、華北ノ政局安定及對日關係改善ノ爲ニモ將來東北系軍隊ノ處分及官吏ノ更迭ノ必要アル處是等ノ連中ニ行先ヲ與ヘスシテ解散セシムルハ一層危險ナルニ付此ノ點苦心シ居レルカ彼等ハ何レモ滿洲ニ郷里ヲ有スルモノナレハ出來得ヘクムハ日本側カ好意的援助ノ意味ニテ其ノ歸郷ヲ許スコトトシ或種ノ了解ヲ我方ニ與ヘラルコトトモナラハ好都合ナリ此ノ點ハ將來適當ノ時機ニ於テ改メテ相談シ度考ナリ(往電第五〇八號三(ロ)參照)

以上一切發表セサル様致度シ
北平、南京、天津、滿ハ轉電シ上海ヘ轉報セリ

306

昭和8年9月29日

在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

方振武軍などへの関東軍武力行使問題に関し
我が方意向を黄郛に回答について

上海 9月29日後発
本省 9月29日後着

第五七七號(極秘)

貴電第一九七號ニ關シ

二十八日有野ヲシテ黄郛ヲ訪問セシメ同電(一)ノ趣旨ヲ答ヘシメタル處黃ハ何應欽ヨリモ略同趣旨ノ電報ヲ受ケタルコト及方、吉軍隊ハ協定線外ニ出テ逐次西北方面ニ向ヒ逃竄シツツアリ事態ハ此ノ上擴大セサルモノト安心シ居ル旨語り只慾ヲ言ヘハ方、吉軍ヲ袋ノ鼠トシテ完全ニ解決シ得サリシハ残念ナリ恐ラク劉桂堂軍力敗殘軍ヲ途ニ擁シテ漁夫ノ利ヲ占ムルニアラスヤト察セラルル旨ヲ述ヘ又本使ノ思付トシテ同電(二)ノ趣旨ヲ申入レタルニ對シ黃ハ突發事故發生セサル限り四、五日中ニ出發歸任スヘキ由述ヘタル趣ナリ北平、南京、天津、滿ヘ轉電セリ

307

昭和8年9月29日

在満州国菱刈大使より
広田外務大臣宛(電報)

于学忠率いる匪賊討伐軍の塘沽停戦協定区域
内進入に対し関東軍警告発出について

新京 9月29日後発
本省 9月29日後着

*
第一一六一号

于學忠軍第百十八師ノ二ケ團(于軍ノ主力)ハ老耗子ノ率ユル匪軍討伐ノ目的ヲ以テ保安總隊ト改稱シ関東軍側ニ何等ノ通告モナク天津ヨリ昌黎方面ニ向ヒ停戦區域間ニ侵入シツツアル處右ハ停戦協定ニ反スルヲ以テ関東軍ニ於テハ北平陸軍武官ヲ通シ于學忠側ニ一週間以内ニ停戦區域外ニ退去スヘク之ヲ容レサレハ方振武ニ對スルト同様ノ處置ニ出ツヘキ旨警告ヲ發スルコトセル趣ナリ

308

昭和8年10月7日

在南京日高総領事より
広田外務大臣宛(電報)

日本軍の山海関税関事務阻止問題の解決方外
交部非公式申入れについて

309

昭和8年10月13日

広田外務大臣より
在満州国菱刈大使宛(電報)

関東軍作成の塘沽停戦協定善後処理交渉案に
つき陸軍省に外務省側意見開示について

別電

十月十三日發広田外務大臣より在満州国菱刈
大使宛第九四七号

右外務省側意見

本省 10月13日後10時発

*
第九四六号

貴電第一一三八号及貴信機密公第九一八号ニ関シ

陸軍省ヨリ関參滿第一六五六号ニ関シ協議アリタルニ付別電第九四七号ノ通り意見ヲ開示セルカ結局陸軍省ヨリ関東軍ニ對シ(一)本件交渉ハ漸進的ニ進ムヘキ旨(二)協定ノ趣旨ニハ賛成ナルモナルヘク形式ヲ去リ實質ニ就クヘキ旨(三)外務省側ノ意見ハ大使館ニ電報スヘキ旨ニ付委細ハ大使館側ト打合ハスヘキ旨ヲ回電セリ就テハ右別電ノ趣旨ヲ体シ関東軍ト協力方可然御措置相成度シ

尙ホ前記貴信ノ別紙第三号ニ付テハ滿洲國側成案ノ出來ヲ待ツコトトスヘシ念ノ爲

四 塘沽停戦協定善後交渉

第五一〇號

公使發天津宛電報第一六號ニ關シ

南京 10月7日後発
本省 10月7日後着

六日沈亞洲司長ハ本官ニ對シ最近財政部ヨリ外交部ニ宛テ山海關ニ於ケル日本商人ハ日本憲兵隊ノ命令ヲ理由トシ中國海關ニ納稅ヲ肯セス又山海關驛ニ於ケル日本軍隊ハ中國海關員ノ職務執行ヲ妨ケ居ルニ付斯ル條約違反ノ行爲ニ關シ日本政府ニ對シ嚴重抗議方申越アリタルカ外交部ニ於テハ成ル可ク表立タスシテ本問題ヲ解決致度希望ナルニ付本官ヨリ右ノ趣旨ヲ本國政府ニ報告シ成ル可ク速ニ常態ニ復スル様措置セラレ度旨ヲ懇談シ唐次長ヨリモ同様ノ申出アリタルニ付本官ハ申出ノ次第ハ直ニ取次ク可キモ本件ニ付先般稅關側ヨリ非公式ニ在支公使側ニ申出アリタル趣ナルカ河北灤東ノ時局モ漸次沈靜シ常態ニ復シ行クコトニモアリ本件モ遠カラス解決スルコトト思考スル旨在支公使宛貴電第一二〇號等ノ趣旨ニ依リ然ルヘク應酬シ置キタリ支、北平、天津、滿ヘ轉電セリ

(別電)

本省 10月13日後10時発
第九四七号

関参滿第一六五六号記載ノ協定事項第一乃至第四ノ目的ト
スル事態ノ成立ハ望マシキコトナリ且第二及第三ノ目的ト
スル事態ノ成立ニ付関東軍カ滿洲國側ト北支政權側トノ交
渉協定ニ對シ事実上ノ橋渡ヲナスコトモ時宜ニ適ス尤モ右
協定事項ハ何レモ行政官廳タル北支政權ノ權限ニ屬スルモ
ノニシテ法理上関東軍ハ斯種行政事項ニ関シ而モ行政官廳
タル北支政權トノ間ニ正式ノ協定ヲナスノ權限ナキ次第ナ
ルヲ以テ之ヲ正式ノ協定トスルコトナク大同元年三月十日
溥儀政ヨリ本庄司令官宛ニ一方的意向ヲ表明スル書翰ヲ送
付シ関東軍ハ右書翰ヲ取放シトナシタル前例又ハ大連會議
ノ際関東軍側ト北支政權側トノ間ノ了解ヲ單ニ文書ニ記載
スルニ止メタル前例(双方共署名捺印セス)等ヲ參酌シ實質
的ニ目的ヲ達成スル様可然措置スルコト致度

310 昭和8年10月16日 在滿洲国参列大使より
広田外務大臣宛(電報)

佐より張家口に使者派遣について

北平 10月21日後発
本省 10月21日後着

張家口發本使宛電報
第四四六号

第七号

大臣へ轉電アリタシ

第五号

多倫及沽源方面ノ情報左ノ通

四 塘沽停戦協定善後交渉

一、今回沽源ニ移駐シタル張允營ノ副司令高樹勳ノ參謀長チ
ンクンブ(士官學校出身)十七日本官ヲ訪問シ今回自分ノ
部隊約七千カ張北ヨリ沽源ニ移駐シ元沽源駐屯第二十九軍
直系ノ張登禹カ張北ニ交代スルニ至リタル事ニ付宋哲元ノ
意中那邊ニ有ルヤ不明ナルモ若シ宋カ日本側ノ警告ニ起因
シテ其ノ直系軍ヲ張北ニ撤退セシメタルモノトスレハ自分
ノ部隊カ沽源ニ駐屯スル事ニ付日本側ノ御意嚮如何ト尋ネ
タルニ付本官ハ之ニ對シ軍事上ノ事ニ付テハ會談スヘキ筋
合ニ非ス唯停戦協定ニ對スル日本側ノ見解ヲ慎重ニ考慮ノ
上行動セラレン事、希望ニ堪ヘストノ意味ニテ然ルヘク應

岡村関東軍参謀副長の北平来訪を中国側切望と
の雷寿栄談話について

新京 10月16日後発
本省 10月17日前着

第一二六〇号

十二日在北平陸軍武官補佐官ヨリ関東軍ニ達シタル電報左
ノ通御參考迄

岡村副長へ

本日雷樹榮^(雷)來訪彼ノ語ル處ニ依レハダンセイゲンモ貴官ノ
來平ヲ非常ニ待望シアリ目下南京ヨリ本月末迄ニ南(下)ス
ル様懸望シ來レルモ之ヲ延期シ貴官ノ來平ヲ待チアル次第
ニテ何應欽モ岡村副長來平セハ赤心ヲ吐露シテ日支問題ヲ
懇談スヘシトダンセイゲンニ誓アル程ナルニ付此ノ際萬難
ヲ排シテ來平セラレタク右小官ヨリ至急傳ヘラレタシトノ
コトナルニ付右不取敢

311 昭和8年10月21日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

宋哲元との連絡強化のため多倫駐在の松室大

酬シ置キタルカ張允營^(張)部隊カ同盟軍ヨリ改編セラレタル後
ハ表面宋哲元ノ指揮下ニ在ルモ常ニ繼子扱タルヲ免レスト
テ種々怨ミ居タリ

二十五日多倫松室大佐ノ使者トシテ佐久間寛三來張シ當地
第三十七師長馮治安ニ面會方申出テ本官紹介ノ下ニ佐久間
ハ十七日馮師長ニ又二十日二十九軍參謀長張維翰ニ夫々
内々内密面會シタルカ其ノ際佐久間ハ松室大佐カ嘗テ西北
軍軍事顧問タリシ誼ヲ以テ宋主席ノ立場ニ對シテハ充分同
情アル了解ヲ有スル次第ナルモ唯多倫カ當地ト目捷^(捷)ノ間ニ
在リ乍ラ未タ一回ノ聯絡モ無キ爲兩地方ヲ中心トスル兩者
ノ感情ハ動モスレハ齟齬セントスルハ遺憾ニ堪ヘス若シ同
大佐多倫ニ在ルヲ機會ニ宋主席ニ於テ人ヲ派シ聯絡ヲ執ル
希望アラハ同大佐ハ喜ンテ之ニ應スヘキ用意アル旨ヲ述ヘ
タル處張參謀長ハ宋ノ代理トシテ其ノ好意ヲ謝シ目下北平
ニ在ル宋主席ニ電報ニテ轉達シ置ク可シトテ衷心同感ノ意
ヲ表シタルモ宋ニ傳ヘタル上果シテ代表ヲ派スル段取ニ至
ルヤ否ヤニ付全ク自信無キモノノ如ク具体的方法ニ付何等
熱意ヲ有セスト見受ケラレタリ

312 昭和8年10月27日 在天津栗原総領事より
広田外務大臣宛(電報)

満州国承認にならない限り北平・奉天間北寧
線直通連絡問題交渉に依る用意ありとの股
同北寧鉄路局長内話について

天津 10月27日後発
本省 10月27日後着

第五〇九號
往電第四九六號ニ關シ

二十六日南方ヨリ歸來二十七日北寧鐵路局長ニ就任セル殷
桐ノ田中ニ内話スル處ニ依レハ北平、奉天間通車問題ニ關
シテハ南方ニ滞在中央政府ノ指示モ受ケ居リテ滿洲國承
認ニ陥ラサル形式ニ依ル限り何時ニテモ交渉ニ應スル準備
アリ本問題ハ接收地方ヲ速ニ常態ニ復セシムル爲ニモ將又
舊奉山線従業員ヲ未整理ノ儘今尙抱擁シ居ル結果財政極メ
テ窮迫セル同鐵路局ノ收入増加ヲ計ル爲ニモ瀋東地方剿匪
事業一段落ヲ告ケ次第成ルヘク速ニ交渉ヲ開始シ度希望ナ
リ尙關稅通信等ノ諸問題ニ付テモ通車問題ト相前後シテ交
渉ニ入ルヘク自分(殷)ハ專問委員ヲ援助シテ之カ促進ヲ計

記載ノ通り関東軍ヨリ陸軍中央部ニ請訓アリタル趣ヲ以テ
陸軍省ヨリ当方ニ協議ノ次第アリタルニ付不取敢前掲当方
意見ヲ陸軍省側ニ移譲シ置キタルカ右協議ノ結果ハ改メテ
追報スルコトトスヘシ

記

一、第一項、税関ニ関スル事項ニ付テハ

甲、陸路ニ依ル滿洲國物資ノ北支輸入ヲ出來得ル限り圓
滑自由ナラシムルコトヲ主旨トスヘク右目的ノ爲ニハ左
記ノ如キ諸點ニ付テモ考慮スルコト望マシ

(イ)陸境關稅ヲ輕減スル爲辦法ヲ講スルコト

(ロ)國境ヲ去ル十五軒ノ地帯ニ於テハ自由貿易行ハルル事
例世界ニ多數アル處滿支陸境ニ於テモ右制度ヲ實現ス
ル爲辦法ヲ講スルコト

(ハ)滿支陸境ニ於ケル支那側税関ノ取締ヲ成ルヘク寛大ナ
ラシムルコト

乙、(ハ)ニ所謂瀋河ヲ經テ滿洲國ニ出入スル貨物ハ瀋河ノ
水運ニ依リ滿洲國ト支那以外ノ第三國トノ間ニ出入スル
貨物ヲ意味スルモノト認メラルル處右(イ)ノ書振ニテハ其
ノ意味明カナラス

ルコトナルヘシト

公使、滿、北平、南京へ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

313 昭和8年11月4日 広田外務大臣より
在滿洲國菱刈大使宛

関東軍が作成した塘沽停戦協定善後処理のた
めの「滿洲國對北支政權間協定事項案」に對
する外務省側意見について

*機密第四三三號

昭和八年十一月四日

外務大臣 廣田 弘毅

在滿洲國

特命全權大使 菱刈 隆殿

北支停戦協定ニ伴フ善後處理交渉案ニ關スル件
本件ニ関シ貴信公機密第九九八号ヲ以テ御送附アリタル
「滿洲國對北支政權間協定事項案」閱悉當方ニ於テハ同案
ニ異存ナク唯當方ノ希望事項及注意事項ヲ掲記スレハ左記
ノ通りナルニ付右ニ御了知相成度尙本件ニ付テハ貴信末尾

三、第二項、通商ニ関スル事項ニ付テハ左記ノ如キ諸點ニ付
テモ考慮スルコト望マシ

(イ)滿洲國船舶ノ北支及山東沿岸海港間ノ沿岸貿易ヲモ認
メシムルコト

(ロ)滿洲國ト北支及山東地方トノ間ニ於ケル「ジャンク」
貿易ヲ認メシムルコト

(ハ)滿洲國中央銀行ノ支行ハ山海関ノ外天津及北平ニモ之
ヲ置クコト

314 昭和8年11月5日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

中国側の張家口・庫倫間貿易再開機運への對

処振り回示方張家口領事稟請について

付記 十二月二十六日発在滿洲國菱刈大使より広田

外務大臣電報第一五五九号

関東軍および滿洲國側の多倫方面への政治工
作の障害とならない限り張家口・庫倫間貿易
再開を阻止する必要はない旨意見具申

第四七三號

張家口發本官宛電報

第一二號

外務大臣へ轉電アリタシ

第八號

當地庫倫間ノ貿易ハ既報ノ通目下ノ處外蒙政府ト聯絡アル
德華洋行ノ獨占事業ニシテ其取扱額ハ極メテ僅少ナルモ馮
玉祥事件後察哈爾省ノ財政困難竝ニ地方商業ノ不振其極ニ
達シ居ル今日當地有力商人間ニ蒙古貿易再開ニ付運動ヲ起
サントスルモ(一)アルノミナラス省政府要人中ニモ本官ニ
對シ遠カラス外蒙貿易再開ノ運ニ至ルヘシト語リタル者ア
リ右ハ勿論露國ヲ背景トスル外蒙トノ國際關係モアリ單ニ
地方的ニ急速解決スヘキ問題ニハアラサルモ一面滿洲國ノ
勢力既ニ多倫以西ニ迄及ヒ居ル今日支那人中ニハ張庫貿易
促進ニ付テハ日本側之ニ反對シ居レリトノ說ヲ爲スモノア
リ旁々最近本官支那側各方面ノ人物ト會談中先方ヨリ此種
問題ニ言及シ來ルコト鮮カラサル處我滿蒙經濟政策上今後

北平 11月5日後発
本省 11月6日前着

315

昭和8年11月7日

在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

北平での塘沽停戰協定善後处理交渉における

意見交換の模様について

別電

十一月七日発在中国有吉公使より広田外務大

臣宛第四七八号

右交渉において日本側提議の取極案

付記一

十一月二日付、関東軍参謀部作成

「熱河西南境察哈爾省ニ駐屯スル雜軍處理案」

二 十一月二日付、関東軍参謀部作成

多倫ヲ通シテ外蒙ト通商スル計畫アリトスレハ張家口ハ之
ニ對立シテ而モ有利ナル競争條件ヲ具有スル次第ナルニ付
今後支那側運動ノ進捗ニ付詳細監視スルノ必要アルト共ニ
本官ノ支那側ニ對スル應酬振ニ付テモ相當注意ヲ要スル儀
ト思考セラル然ラサル場合ハ寧ロ支那側ノ該運動ヲ歡迎シ
張家口ノ發展ヲ期待スルノ態度ニ出ツルヲ可トスヘキ處右
ノ點ニ關シ本官心得迄ニ何分ノ儀御指示ヲ請フ
滿ヘ轉電アリタシ

(付記)

新京 12月26日後発
本省 12月26日後着

第一五五九號(極秘)

貴電第一一二七號ニ關シ

當地軍側及滿洲國側ニ於テハ赤峰、承德ヲ通シ多倫ト通商
關係ヲ開キ經濟的工作ニ依リ漸次政治的ニ多倫地方ヲ滿洲
國ニ靡カシムルノ方針ニ基キ目下熱河ノ鐵道建設ト相呼應
シテ道路建設計畫ヲ立テ居レルモ此方面ヨリ外蒙トノ聯絡
ヲ實現スルハ相等遠キ將來ニ屬スルヲ以テ此ノ際張家口、

「察東問題ニ關スル應酬要領」

三 十一月二日付、関東軍参謀部作成

「東陵守備ニ關スル件」

北平 11月7日後発
本省 11月7日後着

*第四七七号

六日岡村少將、喜多大佐、花輪書記官着平シ七日外交大樓
ニ於テ支那側ト會見ス日本側右三官ノ外折柄來平中ノ天津
菊地參謀長、根本中佐、柴山武官及中山列席シ支那側黃郛、
何應欽、殷同、殷汝耕等數名列席ス岡村少將ヨリ滿洲ニ對
スル日本ノ施設ハ我一致シタル方針ニシテ之カ爲(聯盟モ
(脱)退シタル次第ナルニ付之ヲ變更スルコト不可能ナルカ
長城以南ニ對シテハ領土的ニ侵入スル考ハ毛頭無ク從テ同
地方ニ於ケル策動ハ絕對ニ爲ササル次第ナリ瀋東地方ノ住
民ヨリ滿洲國ニ併合方ヲ請願シ來ルモノアルモ之サヘ取上
ケサル狀態ナリ戰區内ニハ日本人ノ中ニモ不良分子アルコ
トハ事實ナルモ是等ニ對シテモ憲兵ノ手ニ依リ取締ヲ加フ
ル心組ナリ戰區ノ平靜ハ我方ニテモ希望スル所ニ付方振武
ノ如キモ我方ノ全然關係無キ所ニシテ此ノ點ニ於テ支那側

ニ誤解アリタル様見受ケラル將來日支双方ノ協力ニ依リ華北ノ平靜ヲ維持センコトヲ希望スト述ヘ黃郛ハ右不良分子ノ掃蕩ニハ支那側ニ於テモ感謝シ居ル次第ナルカ萬一奧地ニ於テ是(等)不良分子ヲ發見シタル場合之ヲ逮捕處罰スルコトニ對シ軍側ノ御意見如何ト質問シタルニ付岡村少將ハ是等ハ支那側ヨリ日本側警察及憲兵ニ適宜送り届ケラレ度シト述ヘ黃郛ハ匪賊等ニシテ交渉ニ依リテ解決シ難キ場合如何ニスヘキヤト質問アリ

岡村少將ハ之ニ對シテ撫寧ノ例ニ依リ日本軍ノ援助ヲ借りテ平靜ヲ維持スルノ外無カルヘキモ今後ハ大ナル心配無カルヘク又湯玉麟ハ關東軍ト何等關係無シ又李守伸^{（電）}ハ滿洲國ニ何等反對セサルニ付其ノ俣ニ放任シ居ル譯ナルモ湯ノ如キハ何レカ遠方ニ移駐セシメラレテハ如何ト云ヒ黃ハ之ニ對シテ移駐ハ困難ナルヘシト答ヘ次テ岡村少將ヨリ山海關瀾東ノ接收ヲ速ニ實行セラレンコトヲ希望スル旨ヲ述ヘ其他ノ地方モ順次接收方ヲ希望スト述ヘタル後別電第四七八号ノ説明ニ入り右ハ條約取極等ノ性質ノモノニアラス大連會議ノ鐵道問題ノ如ク調印セサルニ当事者間ノ諒解事項ヲ記載シ置クニ過キサルモノニシテ其效果ハ一ニ相互ノ誠意

ニ繋カラシメントスル次第ナリト述ヘタリ右ニ對シ黃郛ハ支那側ノ事情率直ニ述フヘシトテ滿洲國字句ハ支那側トシテハ立場上都合惡シ今回岡村少將カ態々來平セラレタルハ親善ノ精神ニ基クモノナルヘク脅迫的ニアラスシテ相談的信用のノ話合ノ爲ナリト感スルカ故ニ成ルヘク不適当ナル字句ハ改正シ度華北政權ト云フモ結局南京ヨリ派遣セラレタルモノナルカ故ニ本件モ南京ニ報告セサルヘカラス其場合種々ノ意見出ツヘキニ付何人ヨリモ反對出來サル様ナ体裁ト爲スコト肝要ナリト答ヘ次テ何應欽ハ黃ノ意見ニ同感ナルモ尙補充シ度シトテ日支親善ノ必要ナルコトハ論ヲ待タルニ今日迄其處ニ至ラザリシハ一ニ日本ノ態度高壓的ナル爲支那人ハ不安ヲ感シ小事件ト雖解決ヲ見サルコトアリシ次第ナルカ今後ノ大ナル問題ヲ解決スル爲ニハ先ツ支那人ノ不安ヲ除カレンコトヲ希望スト述フ

側ノ希望スル原則ハ

(一) 今回ノ話合ハ地方的ノモノトシ停戰協定ノ善後處理トスルコト

(二) 滿(洲)國ノ名稱ヲ用ヒサルコト

(三) 長城線ハ原則トシテ北支政權ニテ管轄シ度キコト

依テ兩案作成ノ上更ニ審議スルコトトシ差当リ七日午後日本側ヨリハ喜多大佐、根本中佐、花輪書記官支那側ヨリハ殷桐^{（同カ）}、殷汝耕等數名會合起案ヲ爲スコトナレリ
尙右會談中別電第四七八号ノ字句ニ付問題トナリタル主ナルモノ左ノ通り

(イ) 第三項「当分ノ中」

右ニ付支那側ハ期限ヲ明示センコトヲ希望岡村少將ハ其ノ困難ナル旨ヲ説明セリ

(ロ) 第四(ロ)通商ニ關スル件

支那側ハ之ニ依リテ通商條約ヲ締結スルカノ如キ外觀ヲ有(ス)ルヲ以テ其ノ削除ヲ希望セリ同項(ホ)ニ付テハ支那側ハ河北ニハ事実航空ノ事業無キコトヲ理由トシテ是亦削除ヲ希望セリ

(右ニ付テハ詳細ナル意見交換行ハレタリシモ支那側ハ何等カ思違ヒヲ爲シ居ルニ非サルカト見受ケラレタリ)

(別電)

北平 11月7日後発
本省 11月7日後着

*第四七八号

北支善後交渉ニ際シ取極案

人民相互ノ福祉ヲ増進シ其ノ平和ナル生活ヲ希望スル爲速ニ戰区並接壤地方ニ於ケル秩序ヲ恢復シ通信、交通、通商關係ヲ正常狀態ニ復スルハ刻下ノ急務ナリト認メ曩ニ大連會議ニ於テ鐵道問題ヲ協議處理セラレタル要領ヲ準用シ昭和八年十一月……日ヨリ同月……日ニ亘リ關東軍代表陸軍少將村寧次^{（同カ）}、陸軍歩兵大佐喜多誠二、大使館書記官花輪義敬ハ河北整理代表……ト北平ニ會商シ左ノ通り取極ヲ爲ス
第一、關東軍ハ北支政權カ其ノ治安維持機能ノ充實ニ伴ヒ長城線ヲ含マサル長城以南及以西ノ地域ヲ速ニ接收スル事ヲ希望ス

本項ノ細部ニ關シテハ左ノ通り了解スルモノトス
イ、長城線各關門ノ警備權ハ日滿側ニ屬ス
ロ、日本軍ノ駐スル住民地ニハ武裝團體ヲ配置セサルモノトス

第二、北支政權ハ其ノ接收地域内ニ於テ長城ニ接續若ハ接近セル地区ニ諸般ノ事項ヲ處理スル爲若ハ經濟上ノ便益ノ爲必要ナル滿洲側諸機關ノ配置ヲ認容シ且ツ是等機關ノ業務ニ最善ノ援助ヲ與フルモノトス

本項ノ主要ナル地點差当リ左ノ如シ

山海関、古北口、喜峰口、^{（電カ）}范家口、冷口、界嶺（口）

第三、北支政權ハ接收地域内ニ於テ当分ノ内日本軍隊駐屯ノ爲必要ナル土地建物ヲ日本軍ニ提供ス

本項ノ主要ナル地點差当リ左ノ如シ

山海関、石門寨、建昌營、冷口、喜峰口、馬蘭関、古北口但軍需品輸送ノ爲灤河水運利用（期）間ハ必要ニ應シ灤州ノ外遷安、^{（電カ）}撤河橋等ニ所要ノ施設及駐兵ヲ行フコトアルヘシ第四、北支政權ハ滿洲國トノ間ニ於ケル相互ノ通商貿易、交通、通信若ハ航空聯絡等ヲ設定スル爲速ニ必要ナル委員ヲ定メ交渉ヲ開始セシムルモノトス

本項交渉ハ概ネ左ノ部門ニ亘ルモノトス

イ、税関ニ関スル件

ロ、通商ニ関スル件

ハ、郵政ニ関スル件

◎對策

雜軍ヲシテ北支政權側ニ合流セシメ全地一帯ニ停戰協定ニ基ク保安隊（劉、湯軍ノ一部ヲ改編シ其他ハ戰区外ニ移駐若シクハ解散セシム）ヲ配置セシム

（註。會議準備書類ニシテ支那側ニハ交付セス）

（付記二）

* 察東問題ニ関スル應酬要領

八、一一、二
關東軍參謀部

察東問題ニハ成ルヘク觸レサル様注意スル事緊要ナリト雖モ若シ支那側ヨリ本問題ニ言及スル場合ニハ左ノ如ク應酬ス「目下察哈爾方面ハ極メテ平穩ニ維持セラレアルヲ以テ北支政權ハ暫ク現状ヲ默認シ專ラ河北省戰区内ノ整頓ニ努力スルヲ可トスル旨適宜申渡ス」

支那側ニ於テ右應酬振リニ満足セス強テ察哈爾ニ関スル言質ヲ求ムトスルニ於テハ左ノ如ク言明ス

一、停戰協定線ノ延長以北ノ察哈爾省ニハ正規軍隊ノ進入ヲ許サス

ニ、電政ニ関スル件
ホ、航空ニ関スル件

へ、長城線ニ於ケル警務、檢疫等ニ関スル件
註、一、本交渉ノ地點ハ山海関トス

三、北支政權ハ即時又ハ速ニ右各項毎ニ交渉委員並交渉開始ノ期日ヲ定メ關東軍ニ通告スルモノトス

（付記一）

* 熱河西南境察哈爾省ニ駐屯スル雜軍處理案

八、一一、二
關東軍參謀部

熱河西南省境ニ接スル察哈爾省内ノ独石口、雲州堡、赤城一帯（共ニ支那軍不進入地帯）ニハ湯玉麟（銃數四千）劉桂堂軍（銃數三千）駐屯シアリ

最近是等雜軍ハ方、吉軍ト合作シテ華北權ニ反抗セムト企圖シタルモ結局拱手觀望ノ態度ヲ持シテ動カス將來全地一帯ニ盤踞スルニ至ルモノト判斷セラル、軍トシテモ早晩之ニ對スル態度ヲ決定セサルヘカラサル情況ニ在リ是カ爲對策ヲ定ムルコト左ノ如シ

三、北支政權カ右ノ地帯ニ對シ何等カ企圖ヲ有スル場合ニハ李守信ト協議セラレ度シ

（註。會議準備書類ニシテ支那側ニハ交付セス）

（付記三）

* 東陵守備ニ関スル件

八、一一、二
關東軍參謀部

北支政權ヨリ東陵守備ニ任シアル熱河省軍ノ關外撤退ヲ要求スル場合ニハ左ノ如ク應酬ス

一、北支政權ニ於テ東陵ハ責任ヲ以テ保護スヘキ旨誓約スルニ於テハ全地ニ在ル熱河省軍ヲ撤退セシム（書類ヲ要求ス）
二、右書類ハ北支政權ヨリ軍司令部宛ニテ可ナリ
（註本件ハ柴山中佐ヨリ支那側ニ通告済ナリ）

316 昭和8年11月8日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛（電報）

北平での停戰協定善後処理交渉における日本側提案に対する中国側の主張について

北平 11月8日後発
本省 11月8日後着

*
第四七九号

往電第四七七号ニ関シ

七日午後豫定通り陸軍武官室ニ於テ係官ノ協議アリタルモ
先方ハ原則トシテ長城線ノ警備ヲ收ムルコト(但シ当分ノ
間一定ノ重要地點ハ日本側警備ニ当ル)滿洲國ノ事実上ノ
承認トナル結果ヲ避クルコト航空聯絡ハ從來ノ交通恢復ニ
非ス新規ノ問題ナリトノ理由ニテ之ヲ除外スルコトヲ主張
シ協議ノ結果一應ノ案ヲ作成セルモ八日更ニ係官ノ會合ヲ
爲スコトトナレル趣ナリ

317 昭和8年11月(8)日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

華北財政不足額の支出方財政部承認および旧東北
軍整理問題の見通しに関する王克敏内話について

北平 発
本省 11月8日後着

第四八〇號

往電第四四七號ニ關シ

南京ヨリ歸來セル王克敏カ七日原田ニ爲セル内話左ノ通
一八、九、十、三ヶ月ノ北方軍事費カ停滯セルハ財政部カ
北方財政機關ヲ接收セル際ニテ整理完了セサリシト一方軍
事委員會分會ヨリ中央ヘ報告ス可キ收支報告カ遅延シタル
二ノ理由ナリシカ自分今同南下シ曩ニ決定セル北方軍事費
四百五十萬元ノ中地方收入(河北省察哈爾省兩政府、北平市
政府ヨリノ補助費)百十一萬元ヲ除キタル中央負擔分三百
三十九萬元(此ノ内二百五十萬元ノ鹽稅、煙草、酒稅等北方
ニ於ケル中央收入ヲ含ムニ付直接中央ヨリ補助スルハ僅カ
ニ五十萬元ニ過キス)ノ支出方ニ付篤ト財政當局ト接洽ノ
結果其ノ了解ヲ得歸來セル次第ナルカ最近中央銀行ヲ經テ
右不足額全部受領シ既ニ十月分迄ノ軍政費ノ支出ヲ了セリ
尙此ノ外政務委員會毎月ノ經費十萬元ハ別途計算ニテ之ヲ
財政部ヨリ毎月直接送金シ來リ居レリ

ニ右軍事費ノ大部分ハ十八萬(實際ハ十萬位ナル可シ)ト稱
スル東北軍ノ給養費ナル爲既ニ河北ニ斯ノ如キ多數ノ軍隊
ノ存在ヲ必要トセサル今日之レカ新疆移駐亦ハ縮編ハ刻下
ノ急務ナルカ新疆移駐ハ同軍力之レヲ喜ハス若シ強ヒテ動

カサントスレハ黃郛、何應欽ノ手ニ餘リ自然蔣自身ノ北支
乘リ出シヲ必要トスルモ之レハ現下ノ江西ノ狀況ニテハ困
難ナル爲實現不可能トセラレ結局再度ノ縮編整理ヲ行フヨ
リ外致シ方ナキヤニ感セララル

支、滿、南京、天津、青島、濟南、漢口、廣東、奉天ニ轉
電セリ
支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

318 昭和8年11月9日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

北平での停戦協定善後処理交渉において日本
側主張貫徹の見込みについて

北平 11月9日後発
本省 11月9日後着

*
第四八一号

往電第四七九号ニ関シ

八日係官ノ協議ニ於テ陸軍側電報ニ依リ御承知アル可キ通
リ申合セ及了解案ヲ作成シ右案ハ九日朝更ニ係官ニ於テ審
議ノ上午後黃郛、何應欽等ヲ加ヘタル會議ニ依リ決定ノ筈

ナル處前記陸軍側電報ノ通り字句並公文等ニ多少ノ修正ヲ
見ルコトアル可キモ我方ノ要求ハ大體貫徹スルコトトナル
見込ヲ以テ岡村副長ヨリ菱刈大使ノ決裁方ヲ請訓中ナル趣
ナリ(九日午前)

319 昭和8年11月10日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

塘沽停戦協定善後処理に関する申合せ事項
成立について

- 別電一 十一月十日発在中国有吉公使より広田外務大
臣宛第四八三号
右申合せ事項
二 十一月十日発在中国有吉公使より広田外務大
臣宛第四八四号
右申合せ事項に對する中国側希望事項
三 十一月十日発在中国有吉公使より広田外務大
臣宛第四八五号
右交渉妥結に関する新聞発表案

第四八二号

往電第四八一号ニ関シ

九日夜別電第四八三号ノ了解成立セリ

尙支那側ヨリ別電第四八四号ノ希望申出アリ右ノ内第一及第二ニ對シテハ即時我方ヨリ同意ヲ與ヘ第三ニ對シテハ岡村參謀副長新京ニ歸任ノ上菱刈司令官ノ裁決ヲ經タル上書面ヲ以テ回答ヲ與フル事ニ打合ヲ了シタル趣ナリ
尙右ニ関シ新聞等ヘハ別電第四八五号ノ通り發表スルコトニ支那側ト打合済

(別電一)

北平 11月10日後発
本省 11月10日後着

第四八三号

停戰協定善後處理ニ関スル申合セ事項
停戰協定善後處理ニ関シ大連會議ノ要領ニ準シ昭和八年十一月七日ヨリ同月九日ニ亘リ関東軍代表陸軍少將岡村寧次、

北平 11月10日前発
本省 11月10日後着

陸軍歩兵大佐喜多清一、大使館書記官花輪義敬ト華北軍政当局代表戰区接收委員殷桐北平軍事分會參事陶尙銘駐平政整會參議殷汝耕ト北平ニ會同シ左ノ通り申合セヲナス
第一、関東軍ハ河北当局カ其ノ治安維持機能ノ充実ニ伴ヒ長城線ヲ含マサル長城以南及以西ノ地域ヲ速ニ且ツ完全ニ接收スルコトヲ希望ス

第二、河北当局ハ当分ノ内其ノ接收地域内ニ於テ長城ニ接續若ハ接近セル地域ニ交通經濟等諸般ノ事項ヲ處理スル爲メ関東軍ノ指定スル必要ナル諸機關ノ配置ヲ認容シ且ツ之等機關ノ業務ニ便宜ヲ與フルモノトス

第三、河北当局ハ接收地域内ニ於テ当分ノ内日本軍隊駐屯ノ爲メ必要ナル土地建物ヲ日本軍ニ貸與スルコトニ同意ス
第四、長城内外ニ於ケル交易、交通、通信等ヲ接(電)スル爲メ河北当局ハ必要ナル委員ヲ定メ関東軍ノ指定スル委員ト速ニ逐次協議ヲ進ムルモノトス

本申合セニ關聯スル了解事項

一、申合セ事項第二ノ諸機關ノ配置地點ハ差当リ左ノ如シ

山海関、古北口、喜峰口、黎口、界嶺口

二、申合事項第三ノ日本軍駐屯地點差当リ左ノ如シ

(三)接收地区(脱?)ノ接收ヲ完全ナラシムル爲メ関東軍ハ華北当局カ同地方ノ抗命(命ニ從ハサル)部隊及土匪ヲ自由ニ討伐處置スル事ニ同意ス

(別電三)

北平 11月10日前発
本省 11月10日前着

第四八五号

撫寧ノ土匪討伐後ニ於ケル善後處理及山海関附近ノ接收ニ関シ所要ノ打合ヲ爲シ双方ノ意見合致シ圓滿ニ解決ヲ見タリ

~~~~~

320 昭和8年11月16日 在滿州国菱刈大使より  
広田外務大臣宛(電報)

塘沽停戰協定善後處理に關する申合セ事項成立  
時の中国側希望事項に對する関東軍回答について

別電 十一月十六日発在滿州国菱刈大使より広田外務大臣宛第一四〇一号

右関東軍回答

希望事項  
第四八四号  
北平ニ於テ爲セル申合事項ニ付テハ將來ノ誤解紛糾ヲ避クル爲メ左ノ各項ニ對シ御了承ヲ請フ  
一、接收地域内ニ殘駐ノ日本軍隊及(脱?)セル関東軍ノ指定スル諸機關ハ所在地ノ中国ノ行政ニ對シ一切干與又ハ妨害ノ如キ行爲ヲ爲ササルモノトス  
二、本申合ニ依リ既ニ華北平当局ノ同意ヲ經タルモノノ外如何ナル正規軍隊モ接收地域ニ入ル事ヲ得ス

北平 11月10日後発  
本省 11月10日後着

山海関、石門寨、建昌營、台頭營、黎口、喜峰口、馬蘭関、古北口

但シ軍需品輸送ノ爲メ灤河水運利用權ハ必要ニ應シ灤州ノ外遷安、撒河橋等ニ所要ノ施設及警備部隊ヲ配置スル事有ル可シ

三、申合事項第四「交通」トハ航空ノ聯絡ヲモ含ムモノトス

(別電二)

第一四〇〇号  
往電第一三八三号ニ関シ

新 京 11月16日後発  
本 省 11月16日後着

中央軍部ヨリノ訓令ノ次第モアリ十五日軍ヨリ在北平武官ニ對シ別電ノ通北支政權へ同答スル様電報セル趣ナル處希望事項第二ニ関シテハ支那側提出当初ヨリ双方委員ニ於テ別電ニ但書通りノ諒解ノ下ニ岡村副長ヨリ同意セル次第ナリ

(別電)

新 京 11月16日後発  
本 省 11月16日後着

第一四〇一号

一、希望事項第一ニ関シテハ接收地域内ニ於テ排日行爲無く且申合第二ノ趣旨カ完全ニ履行セラルルニ於テハ異存無し  
二、希望事項第二ハ支那側ヲシテ撤回セシメラレタシ  
但シ支那側ニシテ停戦協定ニ違背セサル限り滿洲國軍隊ノ接收地域内ニ這入レサル事ニ関シテハ軍ニ於テ配慮スヘシ  
三、希望事項第三ニ関シテハ停戦協定ノ根本ニ牴觸スルヲ以

通郵問題ハ國際聯盟ノ決定ニモ鑑ミ差当り問題トナラス支那税関ノ設置ハ支那側ノミノ問題ニシテ財政其ノ他ニ於テ充分考究ノ上決定スルコトトスヘシトノ原則ヲ定メタル次第ニシテ結局政府トシテハ差当り之等ノ問題ニ付日本側ト交渉スル事ヲ差控フル事トナレリ

二、關東軍側ニテハ何故ニカ通車問題ノ實現ヲ非常ニ迫リ居ラルル趣ナルカ本件ニ付テハ塘沽協定ノ際支那側委員ヨリ多少「コンミット」セル行掛アル由ニシテ他方日本側カ長城各口ヲ撤退セラルル代償ノ意味モアルモノト思ハルルモ支那目下ノ政情ニ鑑ミ政府トシテハ滿洲國不承認ノ標語ヲ掲ケツツ實際上ハ滿洲問題ヲ「セットアウトサイド」シ上記諸事項ノ如キ民心ヲ刺戟スルモノニハ手ヲ觸レス是非共解決ヲ要スル事項ニ付テハ現地官憲ノ間ニ目立タサル方法ニ依リ實際的解決ヲ計リ度キ所存ナリ

三、<sup>(2)</sup>政府及党部ニハ日本ノ眞意ニ對シ疑ヲ拘クモノ鮮カラサルニ拘ラス現政府ハ最近ハ滿洲國內ノ義勇軍ヲ援助スル(カ)如キコト無ク排日排貨ニ付テモ出來得ル限り消極的態度ヲ持シ又國民黨其ノ他諸方面ニ評判惡シキヲモ顧ミス黃郛ヲ北平ニ送り之ヲ支持シ居ルモノニテ隨分日本ニ

テ軍トシテハ同意スル能ハス

321 昭和8年11月16日 在南京日高總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

北寧線直通連絡問題などに関する我が方の性  
急な要請は汪兆銘など親日派の立場を弱める  
結果となる旨彭學沛注意喚起について

南 京 11月16日後発  
本 省 11月16日後着

\* 第六〇二号

<sup>(1)</sup> 本官発北平宛電報

第四五号

十五日彭學沛來訪華北問題ニ関シ種々懇談セルカ其大要左ノ通り

一、華北ニ於ケル日支間ノ交渉殊ニ通車通郵及税関設置ノ問題ニ付テハ先頃來黃郛ヨリ屢々請訓アリ政府ニ於テモ種々考究ヲ重ネタルカ何分最近ノ政局ハ交渉ノ結果カ滿洲國承認トナルヲ惧ルル空氣強ク今朝ノ中央政治會議ニ於テ大体通車問題ハ山海關ニテ事實上接續スルニ止メ又

對シ誠意ヲ示シ居ル積リナレハ日本側ニ於テモ是等ノ諸事情ヲ諒トシ汪等ノ誠意ヲ認メ差当り前記諸事項ノ解決ヲ「プレス」セラレムコト切望ニ堪ヘ(ス然ラサレハ反對派ヲシテ乘セシメ現政府ノ存在ヲモ危クスルニ至リ折角吾等ノ日支關係改善ノ努力モ水泡ニ歸スルノ虞アリ就テハ之等ノ事情ヲ本官ヨリ閣下ニ報告シ關東軍側ニモ通シ出來得レハ日本側ニテ我方ノ希望通りノ態度ヲ執ラルルコトヲ明カニシ得ハ對日諸問題處理ニ對シ汪一派ノ立場ハ甚タ強クナル次第ナリト極メテ熱心ニ語り居タルカ彭ハ汪ト打合ノ上其ノ内意ヲ受ケテ右談話ニ及ヘルモノト思考セラル右ニ對シ本官ヨリ事情右ノ如クナレハ尙更汪等ニ於テ對日諸問題ノ解決ニ對シ出來得ル限りノ努力ヲ爲シ具體的ニ其ノ誠意ヲ表示スルコトカ日本側ノ好意的態度ヲ得ル爲ニ必要ナル旨ヲ力説シ置キタリ

322

昭和8年11月25日

在中国有吉公使より  
広田外務大臣宛(電報)

北寧線直通連絡問題に対する中国政府内部の  
強い反対事情參酌方關東軍への斡旋を望む旨

上海 11月25日後発  
本省 11月25日後着

第六九〇號

南京發閣下宛電報第六〇二號ニ關シ

二十五日彭學沛本使ヲ來訪シ北方ニ於テハ近ク通車協定成立ノ旨新聞等ニ傳ヘラルル處右ハ間接ニ滿洲國ヲ認ムルコトトナリ南京側ノ對日方針ノ原則ニ反ストテ強硬ナル反對アリ福建側モ之ヲ口實ニ氣勢ヲ舉クルニ至ル可ク汪、黃等ノ立場極メテ困難ナレハ差當リ山海關ニテ連絡スル程度ニ止メラルル様關東軍側ニ斡旋ヲ請フ旨冒頭往電ト關係ノ趣旨ニテ述ヘタルニ付本使ヨリ關東軍トシテハ別ニ協定ヲ焦リ居ル模様無之モ北支住民ハ實際上ノ便宜ヨリ通車ヲ切望シ居ルカ爲貴國側當局ニ於テ寧ロ乘氣ナル様現地ニ於テハ觀測セラレ居ル旨ヲ述ヘタルニ

彭ハ關東軍幹部ノ考ハ別トシテ出先等ニテ豫テノ支那側委員ノ「コミット」ヲ楯トシ「プレス」シ居ルヤノ聞込モアリ南京側トシテハ前述ノ事情ニ基キ場合ニ依リ或ハ通車問題ノ交渉ヲ差止ムルノ已ムナキニ至ルヤモ計ラレサルニ

汪兆銘、張群、陳儀等ト會合打合ノ上十二月二日歸滬セルカ四日及五日有野ニ爲セル内話左ノ通

一、黃郛ハ先般來ノ汪、黃反對運動ニ拘ハラス日本側トノ懸案事項中切メテ通車問題丈ケニテモ解決シ度意向ニテ汪等トノ會議ノ際自分(許)ヨリ懇談スル所アリタルカ汪等ハ福建問題ニ伴フ反政府運動モ加ハリ居ル際通車、通郵問題等何レモ一時交渉ヲ差控フ可シト決定シ此ノ旨黃ニ電報スルト共ニ一面蔣作賓ヲ通シ日本側(軍部ノ意味)ノ了解ヲ求ムルコトニ打合アリタリ

二、其ノ際張群ハ陳立夫一派ノ手ニ成レルモノナリトテ親日派ニ對スル反對宣言書ナルモノヲ示セルカ右ニ依レハ國民党一分子ナル名義ヲ用ヒ黃郛、張群、楊永泰、唐有壬等ノ罪狀ヲ舉ケ親日政策ヲ攻撃シ彼等ノ免職ヲ要求シアリ先般來中央政治會議等ニ於ケル親日政策反對ノ提議ハ此ノ一派ノ策動ト見ラレツツアリ

三、<sup>(2)</sup>副建<sup>(獨カ)</sup>獨立問題ニ對シテハ汪以下至極樂觀シ居レリ目下浙江軍二萬、河北及江西ノ中央軍各二萬ヲ温州地方ヨリ福建省境ニ集中シツツアリテ十二月十日頃總攻撃ヲ開始スル豫定ナル由ナリ尙福建側ト陳濟棠トノ間ニハ不戰ノ了

付其ノ節ハ是ヲ以テ南京側ノ對日方針變更ト了解セラレサル様取成方願度シト述ヘ居タルヲ以テ本使ヨリ右ノ次第ハ本國ニ報告ス可キモ此ノ際目立チテ差止ヲ行フカ如キコトアラハ折角好轉シツツアル兩國關係ニ對シ反動ヲ生スルナキヤヲ恐ルルニ付其ノ邊ハ充分注意方肝要ナリト述ヘ置キタリ尙右先方ノ申出ハ此ノ際相當考慮ヲ加ヘ遣ルコト將來ノ爲然ル可シト存セラルルニ付其ノ御含ニテ北方ノ交渉適宜手心ヲ加ヘラルル様御詮議ヲ得ルニ於テハ至極好都合ナリト存ス滿、北平、南京ニ轉電セリ

323

昭和8年12月6日

在中国有吉公使より  
広田外務大臣宛(電報)

北寧線直通連絡など華北問題における親日的  
政策実行に対する中国内部の強硬な反対  
状況など許卓然内話について

上海 12月6日後発  
本省 12月6日後着

第七二七號

許卓然ハ黃郛ノ内命ヲ受ケ十一月二十七日北平發南京ニテ

解成立シ居ル由

四、右中央側ノ樂觀ニ拘ラス上海ニ於ケル一般ノ空氣(張公權其ノ他主トシテ民間側ノ觀測ナル由)ハ相当悲觀的ニテ殊ニ政府部内ニ於ケル立法委員ノ大部分(胡漢民及孫科一派)監察委員ノ一部(于右任一派)ノ反對運動及上海ニ在ル中央委員ノ福建側トノ策動漸次激化ノ模様ニ見ルモ蔣ハ早晚下野ヲ免レサル可シトノ觀測ヲ爲ス者多シ以上發表セサル様致度シ

324

昭和8年12月6日

在中国有吉公使より  
広田外務大臣宛(電報)

蔣介石や汪兆銘が下野の場合我が方と提携し  
て華北に黃郛を首班とする半独立政権確立を  
計画の旨許卓然内話について

上海 12月6日後発  
本省 12月6日後着

第七二八號(極秘扱)

五日許卓然ハ有野ニ對シ特ニ極秘ニ願度シトテ左ノ通内話シタル由

一、自分(許)ハ北平出發前湯爾和及何澄ト相談黃ニ對シ數回ニ亘リ萬一蔣、汪等下野スルコトアラハ當然現政府ハ倒レ南方ハ非常ナル混亂ヲ來スヘキ處其ノ機會ニ於テ南方ト絶縁シ北方ノ結束ヲ計リ河北ニ半獨立ノ政權ヲ確立シ自由ノ立場ニテ日本トノ合作提携ヲナスヘシトノ趣旨ヲ説キタルニ黃ハ明答ヲ避ケタルモ自分(黃)ハ其ノ際ハ恐ラク莫千山ニモ上海ニモ歸ラサルヘキニ付政府倒ルルモ引續キ河北ノ現状維持ニ努力スヘシトテ頗ル積極的ノ返答ヲ爲セリ

二、右計畫ニ付張志潭及王克敏共ニ大略相談シアリ之カ方法ハ黃ニ於テ政治外交ヲ主宰シ軍事ハ別ニ統率者(吳佩孚又ハ閻錫山等ヲ候補者トシ居ル模様)ヲ求ムル考ナリ何澄ハ右ニ關シ意見交換ノ爲最近閻錫山ヲ訪問セルカ十日頃迄ニハ來滬ノ筈ニテ當地ニテ更ニ打合せノ上日本ニ赴キ日本側ノ意嚮ヲ探ルコトナルヘク尤モ右ニ對シ其ノ後行動意ヲ得タルヤ否ヤハ今ノ處判明セスト(特ニ極秘扱トセラレタシ)

北平、南京、滿へ轉電セリ

(ロ)連絡切符ハ一際各驛ニ於テ中國旅行社ヲシテ貨銀ヲ精算ス(イ)貨物、小荷物等ハ萬國寢台車ノ例ニ倣ヒ全部第三者ヲシテ取扱ハシメ双方共右第三者ヲ通シ運賃ヲ精算ス(ニ)車上ノ警備ハ支那側憲兵ヲシテ擔當セシム等ナルカ右商議ハ目下停頓中ニシテ明年元旦ヨリノ實行ハ困難ナルヘキモ長城各口ノ接收及稅關設置問題等ニ比シ早ク實現ノ可能性有リ云々

支、北平、滿、天津へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

326 昭和8年12月28日 在天津栗原總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

北寧線直通連絡促進提議に対する党部の同鉄  
路局長質問問題などに関連し中国政府内での  
黃郭の立場を孫潤宇内話について

天津 12月28日後発  
本省 12月28日後着

第五七四號

黃郭ノ招電ニ依リ北平ニ赴キ二十七日歸津セル孫潤宇カ黃

325 昭和8年12月16日 在南京日高總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

北寧線直通連絡の方法につき鉄道部への北寧鉄  
路局長の提案内容に関する新聞報道について

南京 12月16日後発  
本省 12月17日前着

第六九一號

北寧鐵路局長殷同ハ數日前來京シ通車問題ニ關シ關係當局ト商議中ナルカ右ニ關スル新聞ノ報道要旨左ノ通り

一、殷同談話

本件ニ付テハ自分ハ具体案ヲ上申セルモ顧鐵道部長ニ於テ諸種ノ影響ヲ考慮シ未タ決定スルニ至ラサル處現在最モ接近セル意見ハ中國旅行社ヲシテ連絡切符ヲ取扱ハシメ山海關ニ於テ關内ノ切符ヲ取換ヘ關外ハ先方ニ於テ處理セシムル案ナルカ右ハ目下三方面ニ對シ商議中ナリ云々

二、某關係當局談

殷局長上申ノ通車辦法ハ大体

(イ)北寧鐵路車輛ヲ奉天迄直通セシムルモ奉山線車輛カ入關スル場合「奉山」ノ文字ヲ一律ニ北寧ト改ム

郭トノ談ヲ中心トシ田中ニ内話セル要領左ノ通

一、近來中央ハ北平政務委員會ニ對シ例ヘハ通車、通信及稅關問題等ニ關シ停戰協定成立當時ノ行懸上當然同委員會ニ付與セシ交渉ノ全權ヲ今ニ至リ否認スルノ態度ヲ執リ更ニ最近通車問題促進ノ意見ヲ以テ黃郭ノ旨ヲ受ケ南京ニ赴ケル殷同ヲ黨部ハ査辦ニ付シタル事實アリテ(殷ノ通車問題ニ對スル關係ニ付テハ別途公信第一一八六號ニテ報告ス)從來ノ蔣、汪對黃郭ノ提携關係ヲ裏切ル態度ニ出テ居ルカ如クナル處右ハ福建問題ニ依リ蔣一派ニ弱味ノ生シタル機會ニ乘シ急ニ動キ出セル黨部ノ仕業ナリ

三、福建問題ニ付テハ中央ハ既ニ陸海軍ヲ整ヘ武力討伐ノ準備ヲ了シ目下ハ飛行機ニ依リ威嚇空撃以外ニ積極的行動ニ出テス只管廣東側トノ互協ヲ進メ居ル次第ナル處若シ討伐ヲ開始スルニ於テハ福建ノ兵力及財力ニ鑑ミ一ヶ月ヲ出テスシテ解決スル見込ナリトテ蔣一派ハ樂觀シ居ル實情ナルヲ以テ黃郭トシテハ同問題ノ成行ヲ暫ク靜觀シ蔣一派ノ勢力回復ヲ待テ北支ニ於ケル對日諸問題解決ニ進ム方針ナリ是此ノ際中央ニ對シ強硬ノ態度ニ出ツル擯ハ徒ニ蔣一派ヲ苦シメ却テ黨部ノ策ニ乘リ黃郭等ノ地位ヲ迄危クスル結果

ニ陥ル虞アルヲ以テナリ右ノ次第ナルヲ以テ暫クハ日本側ニ於テモ黃郛等ノ消極的態度ヲ或ハ物足ラス感セラルコトアルヘキモ此ノ點ハ是非諒トセラルコトヲ黃ハ切望シ居レリ

三、蔣一派ハ福建問題自体ニ付テハ前記ノ如ク樂觀シ居ルモ其解決長引ク時ハ之カ爲他ニ動搖ヲ招キテ遂ニ蔣一派ノ失脚延テ黃郛政權ノ没落ニ至ル萬一ノ場合ヲモ考慮シ置ケタルモ黃側近者ノ言ニ依レハ黃トシテハ右ノ場合ヲモ既ニ憂慮シ居リ蔣失脚ハ支那統一ノ見込ナキニ至ル時機ト看做サルヲ以テ敢然北支ニ獨立ノ政權ヲ樹立スルノ方策ヲ秘ニ廻ラシ居ル趣ナリ

右情報ハ黃郛現在ノ立場ヲ正直ニ告白シ居リ又同人側近者ノ獨立政權樹立希望モ事實ナルヤニ認メラルモ黃ノ實力及環境ニ鑑ミ果シテ可能性アリヤ否ヤ極メテ疑問ナルノミナラス當方面軍側ニ於テハ黃自身ニハ斯ノ如キ政治的執著心ナシト觀察シ居レリ

支、北平、南京、福州、廣東、濟南、滿、奉天へ轉電セリ

~~~~~

緯ニ依リ同人ヲ官吏トシ懲戒處分ニ付ス可シトノ議アリシカ今朝(三十日)唐有壬ヨリ右ハ政府トシテハ不問ニ付スルコトニ決セル由來電アリシ趣ナリ

~~~~~

328 昭和8年12月30日 在滿州國劉大使より  
広田外務大臣宛(電報)

北寧線直通連絡問題による引責辞職はない旨  
および黃郛らによる蔣介石への党部改革提案  
に関する同鉄路局長内話について

新 京 12月30日後発  
本 省 12月30日後着

\*  
第一五八一号

奉天特務機関ヨリ軍ニ達セル報告ニ依レハ殷同ハ二十五日山海関ニ於テ土肥原少將ニ對シ左ノ趣旨ヲ語レル趣ナリ  
一、大連會<sup>議</sup>及北平會議決定ノ通車、交通<sup>局</sup>、交通等ノ問題ハ孫

327 昭和8年12月30日 在天津栗原總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

北寧線直通連絡促進提議に対する孫科の反対および汪兆銘の意向に關し同鉄路局長内話について

天 津 12月30日後発  
本 省 12月30日後着

\*  
第五八〇号

往電第五七四号ニ関シ

三十日殷同ノ田中ニ内話スル所ニ依レハ先般同人ハ黃郛ノ旨ヲ受ケテ南京ニ赴キ當方面ノ實情ニ照シ通車問題等促進ノ極メテ得策ナル次第ヲ率直ニ中央政府ニ稟申セル處此ノ種問題ノ進行ハ滿洲國承認ニ陥ルモノトシテ特ニ警戒シ居ル同地方一般ノ空氣ヲ甚タシク刺戟シ常ニ人氣取ニ汲々タル孫科ヨリ遂ニ叱責ヲ受ケ孫ヲ中心トスル一部黨員ヨリモ攻撃セラレシヲ以テ更ニ孫ニ對シ反駁ヲ加ヘ置キタル次第ナルカ責任アル中央政府側特ニ汪精衛ハ充分同人ノ意見ヲ了解シ唯本件ハ既ニ對内的ニ政治問題化シ此ノ際強ヒテ促進セシムルコトハ不得策ナルヲ以テ暫ク時期ヲ俟テ進行セシムル様指示ヲ受ケタル次第ニテ尙同人ト孫科トノ前記經

科等ノ強烈ナル反對ノ爲停頓シ居ルモ孫科等ノ反對ハ單ニ政府ヲ苦メンカ爲ノ反對ナリ又予(殷同)ハ之カ爲世間ニ傳ヘラルル如ク辞職等ノ如キハ断シテ之ヲ爲サス極力本件實現ニ努ムヘシ

三、黃郛等ハ國民黨ノ存在ハ百憲<sup>憲</sup>アリテ一利ナク結局共產黨ヲシテ名ヲ爲サシムルニ終ルヘキヲ痛感シ内々蔣介石トモ聯絡ノ上政府ノ「ファツシヨ」化ヲ計畫シ福建討伐ノ成功ヲ機會ニ右ヲ断行スル手筈ナリ

三、右失敗ノ場合黃郛ハ次ノ二案ヲ立テ蔣介石ニ内々獻策シ居レリ

(イ)主力ヲ江蘇、浙江、二省ニ集結シ北方ト相應シテ「ファツシヨ」的團結ヲ形成スルコト

(ロ)主力ヲ河南以西ニ集結シ全然長江以外ニ立籠リ北部ヲ確實ニ掌握スルコト

~~~~~